



**モーツァルト：
後期交響曲集**

ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮
ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団

●1970年録音
●WPCS-23001/2 **2CDs** **2013年リマスター**

優美に磨かれた、華麗なモーツァルト。カラヤン美学の徹底した演奏です。スケールの大きな中にも美しさがちりばめられ、この上なく心地のよい響きが広がります。ベルリン・フィルとカラヤンのコラボレーションが生み出した、独特の味わいを持つモーツァルト後期交響曲集を聴くことができます。



**モーツァルト：交響曲 第40番、
アイネ・クライネ・ナハトムジーク／
シュペルレト：交響曲 第8(7)番「未完成」**

ヴィルヘルム・フルトヴェングラー指揮
ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団

●1948/1949/1950年録音
●WPCS-23003 **2010年リマスター**

交響曲第40番では、早めのテンポで一気呵成にこの曲の持つ悲劇性を描き出し、「未完成」では旋律を極めて息長く歌わせ、奥深いロマン性を浮き彫りにさせるフルトヴェングラーの至芸。「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」もフルトヴェングラーにとっては珍しいレパートリーですが、今の時代では決して聴けない味わい深さがあります。



**ベートーヴェン：
交響曲 第3番「英雄」**

ヴィルヘルム・フルトヴェングラー指揮
ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団

●1952年録音
●WPCS-23004 **2010年リマスター**

フルトヴェングラーは「英雄」を得意とし、残された録音はいずれも比類のないものですが、なかでも最も正統的で風格ある演奏がこの52年のスタジオ録音です。意外なほど落ち着いた足取りからにじみ出る滋味の深さ、ずっしりとした手応え。フルトヴェングラーの豊かな音楽性を改めて証明する、偉大な「英雄」です。



**ベートーヴェン：
交響曲 第5番「運命」&第7番**

ヴィルヘルム・フルトヴェングラー指揮
ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団

●1954/1950年録音
●WPCS-23005 **2010年リマスター**

交響曲第7番はSACD初出時に話題となった新発見のオリジナル・マスターを使用。演奏の素晴らしさは言うまでもなく、この曲のディオニソスの狂気を最も端的に現しています。スタジオ録音にもかかわらず、そのテンションの高さ、地鳴りのするような底力まさに圧倒的。最晩年のスケール豊かな「運命」とともに、音質の改善という点でも改めて注目される録音です。



**ベートーヴェン：
交響曲 第6番「田園」&第8番**

ヴィルヘルム・フルトヴェングラー指揮
ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団

●1952/1948年録音
●WPCS-23006 **2010年リマスター**

同じフルトヴェングラーのベートーヴェン演奏でも、奇数番ほど注目されることも少なく、録音も少ない偶数番の交響曲。しかしこの「田園」は終始暖かな雰囲気含まれ、作曲家と作品に対する敬愛の情がたっぷりと感じられます。無用に激するのではなく、奥深い哲学性、文学性も備えていた大巨匠ならではの、他の追随をゆるさない名演です。



**ベートーヴェン：
交響曲 第9番「合唱」**

ヴィルヘルム・フルトヴェングラー指揮
バイロイト祝祭管弦楽団&合唱団 他

●1951年録音
●WPCS-23007 **2010年リマスター**

言うまでもなく「第九」の極め付けであり、20世紀に記録された偉大なる遺産です。第二次世界大戦後、初めてバイロイト音楽祭が再開された初日に演奏された記念すべき演奏会の、20世紀の音楽シーンの1ページを確実に飾る実録録音です。深く瞑想するピアノシモから渾身のフォルティッシモまで、熱く深い感動が時代を超えて迸る、不滅の名盤です。



**メンデルスゾーン：
交響曲 第3番「スコットランド」
第4番「イタリア」**

オットー・クレンペラー指揮
フィルハーモニア管弦楽団

●1960年録音
●WPCS-23008 **2011年リマスター**

クレンペラーのメンデルスゾーンは独特の個性に貫かれています。メンデルスゾーンという優雅なメロディを歌わせることに終始してしまう演奏が多い中、クレンペラーは作品自らに語らせるスタイルで、濃厚なロマンを立ち昇らせませず、メンデルスゾーンの本質をクレンペラーならではの慧眼で汲み取った、ずしりと手応えのある演奏です。



**ベルリオーズ：
幻想交響曲**

シャルル・ミュンシュ指揮
パリ管弦楽団

●1967年録音
●WPCS-23009 **2011年リマスター**

「幻想交響曲」はミュンシュが最も得意とした曲のひとつで、複数の録音が残されていますが、中でも究極の名演との誉れ高いのがここに収められた演奏です。指揮者がボストンから母国フランスに帰還し、パリ管弦楽団の初代音楽監督に任命され、その記念すべき最初の演奏会で披露されたのが「幻想交響曲」。それとほぼ平行して行われたのがこの録音で、リマスタリングでの音質向上も顕著です。

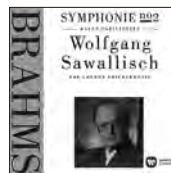


**ブラームス：
交響曲 第1番**

シャルル・ミュンシュ指揮
パリ管弦楽団

●1968年録音
●WPCS-23010 **2011年リマスター**

はち切れんばかりのスケールと破格の熱量。同時期に録音されたベルリオーズの「幻想交響曲」とともに、最晩年のミュンシュがパリ管弦楽団と残した不滅の名演です。作品のもつ構造とドラマティックな要素を充分に把握した、音楽的スケールの大きなブラームス。特に終楽章の高揚感と壮麗な表現は大きな感動を呼びます。



**ブラームス：
交響曲 第2番
ハイドンの主題による変奏曲**

ヴォルフガング・サヴァリッシュ指揮
ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団

●1989/1990年録音
●WPCS-23011 **2014年リマスター**

ドイツの正統派指揮者、サヴァリッシュの世評高い「ブラームス／交響曲全集」からの1枚。屈託のない「第2番」の魅力をケレン味なく、ストレートに表出した秀演です。ブラームスの「田園交響曲」ともいわれるこの第2番は流れの良さ、屈託のなさが最大の魅力。サヴァリッシュはそうした特色を見事なバランス感覚で再現しています。



**チャイコフスキー：
交響曲 第5番**

セルジュ・チェリビダック指揮
ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団

●1991年録音
●WPCS-23012 **2014年リマスター**

録音に対してはスリックな姿勢を生涯貫いたチェリビダック、晩年の手兵とのライヴ録音。派手さや演奏効果の面に傾きがちなチャイコフスキーの5番ですが、チェリビダックの手にかかる外面的な空虚さは無縁となります。ゆったりとしたテンポと意味深い表情が強大な説得力を生み出し、見栄や効果に傾くことなく、充実した音世界を展開しています。



**ドヴォルザーク：
交響曲 第8番
スラヴ舞曲 第3番&第10番**

ジョージ・セル指揮
クレーヴァント管弦楽団

●1970年録音
●WPCS-23013 **2011年リマスター**

厳しいトレーニングと完璧無比な演奏で知られた稀代の名指揮者、ジョージ・セル最後の姿が記録されています。これぞオーケストラ音楽の極致とも言える、セルの生涯最後のレコーディングであり、名盤の多いドヴォルザークの第8番のなかでも最高の演奏といわれる名盤です。クレーヴァント管弦楽団を世界的オーケストラに仕立てた、セルの集大成が記録されています。



**ドヴォルザーク：
交響曲 第9番「新世界より」
スメタナ：モルダウ**

ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮
ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団

●1977年録音
●WPCS-23014 **2011年リマスター**

どんな作品に対しても自身のスタイルを徹底させたカラヤンの、「らしい」新世界交響曲です。ドヴォルザークといえばボヘミアの牧歌的なイメージを彷彿とさせる演奏が多いなか、カラヤンはあくまで自分流にこの名曲を磨きあげています。オーケストラの高い技術を存分に活かした充実したサウンドは、まさに比類のないものです。



**ブルックナー：
交響曲 第8番 (1890年版)**

カール・シューリヒト指揮
ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団

●1963年録音
●WPCS-23015 **2011年リマスター**

今では伝説的な指揮者となっているシューリヒトの、多いとはいえない録音の代表的なものがこの「第8」です。ブルックナー・ファンにとって語り草ともなっている名盤で、名門ウィーン・フィルを駆使してブルックナーの真髄を余すところなく伝えます。虚飾のない振る舞いから紡ぎ出される訥々とした音楽は、絶大な説得力を伴っています。



**ブルックナー：
交響曲 第9番 (原典版)**

カール・シューリヒト指揮
ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団

●1991年録音
●WPCS-23016 **2011年リマスター**

未完に終わったブルックナーの「第9」は、未完であることを感じさせない完成度をもった、彼岸の美しさを湛えた無類の名作。枯淡の芸風を極めたシューリヒトと名門ウィーン・フィルが、その魅力を最上の形で伝えます。ブルックナー演奏史に残る、シューリヒトが生んだ不滅の金字塔です。



**マーラー：
交響曲 第5番**

クラウス・テンシュテット指揮
ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団

●1978年録音
●WPCS-23017 **2014年リマスター**

マーラーを知り尽くした巨匠が遺した至高の世界。テンシュテットが癌との闘病から復帰し、活動を再開したコンサートのライヴ録音です。溢れるばかりの熱気と雄大なスケール、有名なアダージェットも類のない美しさに満ちています。マーラー・ファン必携の1枚です。



マーラー： 大地の歌

オットー・クレンペラー指揮
フィルハーモニア管弦楽団
ニュー・フィルハーモニア管弦楽団
フリッツ・ヴンダーリヒ (テノール)
クリスタル・ルトヴィヒ (メゾ・ソプラノ)

●1964/1966年録音
●WPCS-23018 **2011年リマスター**

人生の哀歓をじっりと歌いあげた、クレンペラーが晩年に到達した境地ともいえる名演です。マーラー最後期の、厭世観と甘い憧れが込められた「大地の歌」に対し厳しく向き合い、底知れぬ深淵を垣間見せてくれます。ヴンダーリヒとルトヴィヒの歌唱も絶妙の一言に尽きます。

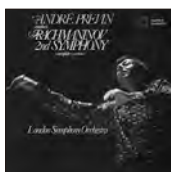


マーラー： 交響曲 第9番

ジョン・バルビローリ指揮
ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団

●1964年録音
●WPCS-23019 **2011年リマスター**

バルビローリとベルリン・フィル、これこそ一期一会の名盤です。名指揮者と名オーケストラが出会うと、これほどまでの凄いの演奏が展開されるということを実証しているのが、このディスクです。ライブでの共演がきっかけで生まれた僥倖ともいえる名盤で、両者の音楽への意思が作品をさらなる高みに引き上げています。



ラフマニノフ： 交響曲 第2番

アンドレ・プレヴィン指揮
ロンドン交響楽団

●1973年録音
●WPCS-23020 **2011年リマスター**

レパートリーの広いプレヴィンにとって、ラフマニノフは最も得意とする作曲家。交響曲第2番も実に3回にわたって録音していますが、これは2回目の録音。「この曲の歴史はここから始まった」といっても過言ではない名演です。上品な語り口、ロマンティズム溢れる音楽作りはラフマニノフを愛する者にとっては必聴です。



J.S.バッハ： 管弦楽組曲 第2番、第3番&第4番

ネヴィル・マリナー指揮
アカデミー室内管弦楽団

●1984年録音
●WPCS-23021 **2014年リマスター**

マリナーが創り出す、J.S.バッハ音楽の骨格が的確に再現された快演です。バッハの音楽は奇をてらったり、いたづらに新しさを求めても空回りすることが多いのですが、名匠マリナーにそんな心配は無用。派手な自己主張は抑えながら、バッハの本質をスバリと聴き手に伝えてくれます。フルートのベネットを筆頭に、腕利きの集まったソロ・パートも必聴です。



モーツァルト：序曲集

「フィガロの結婚」序曲／「魔笛」序曲／「ドン・ジョヴァンニ」序曲／「コジ・ファン・トゥット」序曲／「劇場支配人」序曲 他

ネヴィル・マリナー指揮
アカデミー室内管弦楽団

●1981年録音
●WPCS-23022 **2014年リマスター**

モーツァルトの有名なオペラの序曲がすべて網羅されている、絶妙な選曲の序曲集です。映画「アマデウス」でも音楽を担当したマリナーにとって、モーツァルトは最重要なレパートリー。奇をてらわずに職人芸に徹し、伸び伸びとしたモーツァルトの音楽本来の魅力が刻まれています。



メンデルスゾーン： 真夏の夜の夢 (抜粋)

オットー・クレンペラー指揮
フィルハーモニア管弦楽団 他

●1960年録音
●WPCS-23023 **2011年リマスター**

クレンペラーの個性が花開いた極上の「真夏の夜の夢」です。クレンペラーの演奏するメンデルスゾーンは他の作曲家の作品に対する解釈同様、真摯でありながらロマンティック。構築性に富んだ世界観に基づく演奏は、音楽そのものの質すらも引き上げてしまうような印象を与えてくれます。



ワーグナー： 序曲&管弦楽曲集

「ニルンベルクのマイスタージンガー」第1幕への前奏曲／「タンホイザー」序曲 他

マリス・ヤンソンス指揮
オスロ・フィルハーモニー管弦楽団

●1991年録音
●WPCS-23024 **2014年リマスター**

1979年からヤンソンスと行動を共にしていたオスロ・フィルとの成果の一つが、このアルバムに示されています。首席指揮者に就任以来、オーケストラのレベルアップに尽力したヤンソンスの鋭刺たる演奏です。世界的な水準にまでオーケストラを鍛え上げた彼の功績は、このワーグナーの名曲集で十二分に確認できます。



レハール：ワルツ集

金と銀／舞踏会の妖精達／ひばりの鳴く所／ルクセンブルクのワルツ／ジュディッタのワルツ／ジプシーの恋のワルツ／エーファのワルツ

ウィリー・ボスコフスキー指揮
ウィーン・ヨハン・シュトラウス管弦楽団

●1982年録音
●WPCS-23025 **2014年リマスター**

レハールはオペレッタの名作を多く残しており、今も世界中でその名旋律は広く親しまれています。その生気に満ちた作品は生きる楽しさ、喜びを伝えてくれます。ボスコフスキーにとってオペレッタはいうまでもなく18番。血の通ったワルツのリズム、きらびやかでありながら哀感を帯びた達人の音楽を聴かせてくれます。



ビゼー： 「アルルの女」組曲 第1番 &第2番 「カルメン」組曲より

小澤征爾指揮
フランス国立管弦楽団

●1983年録音
●WPCS-23026 **2014年リマスター**

「世界のオザワ」が長く得意としているレパートリーに、ここに収められたビゼーを始めとするフランスの作品群があります。小澤征爾ならではの清潔なリズム感、スタイリッシュなメロディの歌わせ方がフランス作品の特質と見事にマッチし、趣味の良い演奏を作り上げています。



ラヴェル： ボレロ ラ・ヴァルス スペイン狂詩曲

アンドレ・クリュイタンス指揮
パリ音楽院管弦楽団

●1961年録音
●WPCS-23027 **2011年リマスター**

往年の名指揮者、クリュイタンス最高の遺産の一つとされる演奏です。フランス音楽の香気と色彩を最も美しく伝えてくれたのがクリュイタンスと名門・パリ音楽院管弦楽団。洗練された粋な感覚と、透徹した知性を必要とするラヴェルの作品をクリュイタンスはもの見事に描ききります。20世紀を代表するフランス音楽演奏の最高峰です。



ラヴェル：ボレロ リスト：前奏曲 チャイコフスキー： 序曲「1812年」

リッカルド・ムーティ指揮
フィラデルフィア管弦楽団

●1982/1983/1981年録音
●WPCS-23028 **新着海外マスター**

ムーティ／フィラデルフィアの華麗な音の世界に浸れる名曲集です。ムーティの紡ぐ麗麗なメロディ・ライン、大音響でも一切の混濁がない名門フィラデルフィア管弦楽団の明朗なサウンド、どれをとっても超一流の演奏が展開されています。「1812年」では本物の大砲の音が使用されています。



チャイコフスキー： くるみ割り人形 (全曲)

アンドレ・プレヴィン指揮
ロンドン交響楽団

●1972年録音
●WPCS-23029/30 **2CDs 2011年リマスター**

現代の巨匠プレヴィンによる華麗なるチャイコフスキーの世界です。プレヴィンはロシア音楽を得意としており、幻想的なこの作品を表情豊かに、かつしなやかに描いています。バレエ音楽ではありますが、コンサート的な視点で演奏が展開され、中庸を得た美しさが光ります。



チャイコフスキー： 白鳥の湖 (全曲)

アンドレ・プレヴィン指揮
ロンドン交響楽団

●1976年録音
●WPCS-23031/2 **2CDs 2011年リマスター**

限りなくメロディアス、かつ音楽性豊かな「白鳥の湖」。極端な自己主張を避け、楽曲の魅力を前面に出したプレヴィンらしい演奏です。卓越したバランス感覚、豊かな情感、リズムとアンサンブルが非常にスムーズで、不要な力が抜けた自然さが何より魅力的。気品に満ちたチャイコフスキーの名演です。



チャイコフスキー： 「白鳥の湖」組曲 「眠れる森の美女」組曲

リッカルド・ムーティ指揮
フィラデルフィア管弦楽団

●1984年録音
●WPCS-23033 **2014年リマスター**

名旋律を満載した「白鳥の湖」と、幻想的でスケールの大きい「眠れる森の美女」という、魅力あふれる2つの組曲が収められています。ムーティの指揮はダイナミックかつ流麗、フィラデルフィア管のほればれするような名技性と合わせ、オーケストラを聴く醍醐味が満喫できる1枚です。



モーツァルト： 2台&3台のピアノのための 協奏曲

クリストフ・エッシェンバッハ (ピアノ&指揮) ユストゥス・フランツ、ヘルムート・シュミット (以上ピアノ) ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団

●1981年録音
●WPCS-23034 **2014年リマスター**

3台のピアノのための協奏曲では、元西ドイツ首相ヘルムート・シュミット氏が第3ピアノを弾いていることでも有名になったアルバムです。エッシェンバッハは指揮も兼ね、独奏者たちとの息のあった演奏が一層魅力的にモーツァルトの世界を表現しています。「協奏」という楽しい世界の喜びが伝わる1枚です。



ベートーヴェン：ピアノ、 ヴァイオリンとチェロのための 三重協奏曲

ダヴィッド・オイストラフ (ヴァイオリン) ムスティスラフ・ロストロポーヴィチ (チェロ) スヴァトスラフ・リヒテル (ピアノ)、ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮/ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団

●1969年録音
●WPCS-23035 **2011年リマスター**

20世紀最高の指揮者としてソリストによる永遠不滅の名盤です。カラヤンの指揮、ソリストにはロストロポーヴィチ、リヒテル、オイストラフ。当時ヨーロッパの音楽界を文字通り制覇していた「帝王」と、ソ連(当時)の誇る巨匠たちとの火花を散らす共演が、大きな話題になったアルバムです。



ショパン： ピアノ協奏曲 第1番&第2番

マルタ・アルゲリッチ (ピアノ)
シャルル・デュワ指揮
モントリオール交響楽団
●1998年録音
●WPCS-23036

2011年リマスター

一時たりとも、一音たりとも聴き逃さないのがアルゲリッチのピアノです。瞬間瞬間の閃きが彼女の信条。ここでは巧みなサポートに定評のあるデュワの指揮に支えられ、若き日の熱情をそのままに、円熟期を迎えたことを示す懐の深さもうかがわせる変幻自在なショパンの世界が堪能できます。



グリーグ&シューマン： ピアノ協奏曲

スヴャトスラフ・リヒテル (ピアノ)
ロヴゴ・フォン・マタチッチ指揮
モンテ・カルロ国立歌劇場管弦楽団
●1974年録音
●WPCS-23037

2011年リマスター

ピアニストと指揮者、いずれも「巨人」と形容された巨匠ががっぷり四つに組んだ、ロマン溢れる協奏曲集です。メロディの美しさゆえにたく抒情性の勝った演奏に傾きがちなこの2曲に対し、凛とした姿勢で全力を傾けるリヒテル。マタチッチもまた、リヒテルに負けず劣らずの雄大なスケールで対応します。



サン=サーンス： ピアノ協奏曲 第1番、第2番&第4番

ジャン=フィリップ・コラール (ピアノ)
アンドレ・プレヴィン指揮
ロイヤル・フィルハーモニー管弦楽団
●1987/1985年録音
●WPCS-23038

2014年リマスター

フォーレやラヴェルの名演で名を馳せたコラールが、満を持して世に送ったのがこのサン=サーンスです。洗練されたセンスに加えて整った様式感も要求されるこれらの協奏曲を、コラールは余裕をもって、魅力的に再現しています。バックを務めるプレヴィンのオーケストラ伴奏の趣味の良さも光っています。



サン=サーンス： ピアノ協奏曲 第3番& 第5番「エジプト風」他

ジャン=フィリップ・コラール (ピアノ)
アンドレ・プレヴィン指揮
ロイヤル・フィルハーモニー管弦楽団
●1986/1987年録音
●WPCS-23039

2014年リマスター

サン=サーンスの潇洒な音楽には知性と遊戯性、両者のバランスが肝要です。プレヴィンの指揮とコラールのピアノはそういった側面を充分に意識しつつ、作曲家が生きた時代の爛熟した文化をも浮かび上がらせます。プレヴィンの洗練された指揮と知的な刺激に富んだコラールのピアノが織りなす、スリリングな世界が展開されています。



ラヴェル： ピアノ協奏曲、左手のための ピアノ協奏曲

サンソン・フランソワ (ピアノ)
アンドレ・クレイタンス指揮
パリ音楽院管弦楽団
●1959年録音
●WPCS-23040

2011年リマスター

天才ピアニスト、フランソワと名指揮者クレイタンス、フランスを代表する20世紀の巨匠二人による不滅の遺産です。加えてオーケストラはパリ音楽院管弦楽団という、当時のフランスを代表していた最高のメンバーによるラヴェルのピアノ協奏曲集。フランソワとラヴェルの水際立った個性が渾然一体となった、不朽の名演です。



ドヴォルザーク： ピアノ協奏曲

スヴャトスラフ・リヒテル (ピアノ)
カルロス・クライバー指揮
バイエルン国立管弦楽団
●1976年録音
●WPCS-23041

2011年リマスター

時は1976年、場所はドイツ、ミュンヘン、ここで奇跡の邂逅がなされました。揺るぎない力量を常に発揮できる不世出のピアニスト、リヒテルと天才の名をほしきままに快進撃を続けていたクライバーによる夢の共演です。力強い生命力と豊かな詩情を湛えた快演で、ドヴォルザークの協奏曲に新たな魅力を与えています。



ラフマニノフ：ピアノ協奏曲 第2番 フランク：交響的変奏曲

アレクシス・ワイセンベルグ (ピアノ)
ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮
ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
●1972年録音
●WPCS-23042

2011年リマスター

本来は協奏曲の主役である、ピアノのワイセンベルグ以上にカラヤンの伴奏のうまさも際立つ名演です。とりわけラフマニノフでは出だしから完璧なカラヤン・ワールドが形成され、全体の流れが実に豊か。この上なくゴージャスなバックを得て、ワイセンベルグの輝かしいタッチとピアニズムがより一層際立っています。



ラヴェル：ピアノ協奏曲 ラフマニノフ：ピアノ協奏曲 第4番

アルトゥーロ・ベネデッティ・ミケランジェリ (ピアノ)
エドット・グラチス指揮
フィルハーモニー管弦楽団
●1957年録音
●WPCS-23043

2012年リマスター

ミケランジェリの数少ない録音の中でも、協奏曲録音はさらに希少。無類の切れ、はっとするような美しさ、そして凄み、ミケランジェリの録音の中でも屈指の1枚です。彼の異色な才能がここでは遺憾なく発揮され、精巧無比なテクニック、牙えのあるタッチにより完全主義といわれた演奏の全貌が収められています。

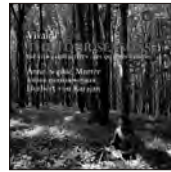


プロコフィエフ： ピアノ協奏曲 第1番&第3番 バルトーク： ピアノ協奏曲 第3番

マルタ・アルゲリッチ (ピアノ)
シャルル・デュワ指揮/モントリオール交響楽団
●1997年録音
●WPCS-23044

2014年リマスター

デュワとアルゲリッチ。1969年に結婚、後に離婚するものの共演は続け、素晴らしいレコーディングもいくつか残しています。そんなこのコンビの作品の中でも、格別のもう出来を誇るのがこのプロコフィエフとバルトーク。ともすると難解になりがちなこれらの曲がアルゲリッチとデュワの手にかかると、なんと新鮮に、エキサイティングに響くことか!



ヴィヴァルディ： ヴァイオリン協奏曲集 「四季」

アンネ=ゾフィー・ムター (ヴァイオリン)
ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮
ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団
●1984年録音
●WPCS-23045

2014年リマスター

今やヴァイオリンの女王として君臨するムターが20代になったばかりの頃の演奏。カラヤンにとっては2度目、ウィーン・フィルとしては唯一の「四季」ということで大いに話題になった録音です。ウィーン・フィルの美しい弦、それに応えるたっぷりとしたムターのソロ。他では絶対に聴けない優雅な「四季」です。



J.S.バッハ： ヴァイオリン協奏曲集

アンネ=ゾフィー・ムター (ヴァイオリン)
サルヴァトーレ・アカルド (ヴァイオリン&指揮)
イギリス室内管弦楽団
●1982年録音
●WPCS-23046

2014年リマスター

ムターが「天才少女」として名を馳せた10歳代での最後の録音。アカルドの懐の深さも影響したのか、若さゆえの未熟さはどこにも見当たらず、ゆったりと優しく、口当たりの柔らかなバッハに仕上がっています。音楽の隅々にまで配慮が行きわたった手厚い表現が聴き手の共感を呼ぶ、優れた内容になっています。



J.S.バッハ：協奏曲集 (トランスクリプションズ)

ヴァイオリン協奏曲 BWV1052&1056/ヴァイオリンとオーボエのための協奏曲 BWV1060
イツァーク・パールマン (ヴァイオリン&指揮)、レイ・スティル (オーボエ)
イスラエル・フィルハーモニー管弦楽団
●1982年録音
●WPCS-23047

新着海外マスター

豊麗な歌いまわしで定評のあるパールマンのJ.S.バッハ。ここではJ.S.バッハの協奏曲3曲を、パールマン自身が指揮も兼ねる弾き振りで披露しています。豊かな響きの伴奏とたっぷりとしたソロの美音……。パールマンが思い描く、様々な可能性のあるJ.S.バッハの確固とした像が浮かび上がってきます。



ベートーヴェン：ヴァイオリン 協奏曲/ブルッフ：ヴァイオリン協奏曲 第1番

ジョン・キーンファ (ヴァイオリン) クラウス・テンシュテット指揮/ロイヤル・コンサートヘボウ管弦楽団、ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団
●1989/1990年録音
●WPCS-23048

2014年リマスター

無駄のない、透徹したヴァイオリンの音色。精神的に高められた、彼女ならではの聴きに満ちた音色がこのディスクから立ちのぼっています。聴いていて身が引き締まるような格調高い演奏は、熾烈さと静寂を併せ持ち、ベートーヴェンの第2楽章でそれは結実します。ブルッフも名技を凝らした名演です。



メンデルスゾーン：ヴァイオリン協奏曲/ブルッフ：ヴァイオリン協奏曲 第1番

イツァーク・パールマン (ヴァイオリン)
ヘルナルト・ハイティンク指揮
アムステルダム・コンセルトヘボウ管弦楽団
●1983年録音
●WPCS-23049

新着海外マスター

パールマンが持ち前の美音に、さらなる磨きをかけてプレゼントしてくれる魅惑のヴァイオリン協奏曲集です。優美な抒情、雄大なスケール、豊かな音楽性により、この2つの名作が奏でられます。ハイティンクの経験豊かな指揮により、パールマンの演奏にさらなる高貴な品格が加えられていることにも注目したい作です。



ブラームス：ヴァイオリン協奏曲/ヴァイオリンとチェロのための二重協奏曲

ダヴィッド・オイストラフ (ヴァイオリン) ムスティスラフ・ロストロポヴィチ (チェロ) ジョージ・セル指揮/クレーヴランド管弦楽団
●1982年録音
●WPCS-23050

2011年リマスター

透明な美しさ、堂々とした恰幅の良さが聴けるブラームスです。セル、オイストラフ両者にとって最晩年の代表盤にも数えられるヴァイオリン協奏曲は、円熟味を増しながら瑞々しい情感にも不足なく、真正面からこの名作に向かっています。ロストロポヴィチとの二重協奏曲も滋味に溢れ、しかも聴き応え充分です。



ハチャトゥリアン：ヴァイオリン協奏曲 チャイコフスキー：瞑想曲

イツァーク・パールマン (ヴァイオリン)
ズーピン・メータ指揮
イスラエル・フィルハーモニー管弦楽団
●1983年録音
●WPCS-23051

2014年リマスター

数多くの名演・名盤を残しているパールマンですが、これはその中でも屈指の演奏。アルメニアの民族性に満ちたハチャトゥリアンの名作を、卓越したテクニックと限りなく美しい音色で奏でるパールマン、それに呼応するメータの絶妙なサポートも聴きどころの一つといえるでしょう。



ドヴォルザーク： ヴァイオリン協奏曲 ロマンس

チョン・キョンファ（ヴァイオリン）
リッカルド・ムーティ指揮
フィラデルフィア管弦楽団

- 1988年録音
- WPCS-23052

2014年リマスター

名ヴァイオリニスト、チョン・キョンファが出産からの復帰後、再び意欲的なレコーディングを開始するきっかけとなったディスク。ムーティ／フィラデルフィア管というこの上ないバックアップを得て、かけがえのない集中度、緊張度の高さ、そして円熟期を迎えたことを証明する美しさをきかせます。



ラロ：スペイン交響曲 サラサーテ：ツィゴイネルワイゼン

アンネ＝ゾフィー・ムター（ヴァイオリン）
小澤征爾指揮
フランス国立管弦楽団

- 1984年録音
- WPCS-23053

2014年リマスター

ムターと小澤征爾の初共演盤として注目されたアルバムです。情熱的で力感に富みながら、技術的にも完璧にコントロールされたムターのヴァイオリン。そしてそれをサポートする小澤の、これまた完璧ともいえるオーケストラ・ドライブ。両者の美点が合致した見事な演奏です。



プロコフィエフ： ヴァイオリン協奏曲 第1番&第2番

イツァーク・パールマン（ヴァイオリン）
ゲンナジー・ロジェストヴェンスキー指揮
BBC交響楽団

- 1980年録音
- WPCS-23054

2014年リマスター

一流の技巧に加えて、軽さ、鋭さも要求されるプロコフィエフの協奏曲。熾烈さとロマンティックな美しさという両面が支配する第1番、ある種の深刻さを感じさせる第2番という、2つの協奏曲を持つ対照的な側面をパールマンは第一級の表現力で描き出しています。名匠ロジェストヴェンスキーのツボを得た伴奏が名演に華を添えます。



序奏とロンド・カプリチオーソ ～フランス・ヴァイオリン 名曲集

イツァーク・パールマン（ヴァイオリン）
ジャン・マルティン指揮
パリ管弦楽団

- 1974年録音
- WPCS-23055

新着海外マスター

ヴァイオリニストにとって必須のレパートリーとなっている4曲を1枚に収めた魅力的なアルバムです。テクニックの冴えはもちろん、曲によって様々な表情を変える音色の豊かさはパールマンならでは。「詩曲」での陰影の濃い叙情、「序奏とロンド・カプリチオーソ」や「ツィガヌ」での幅の広い表現は格別です。



シューマン：チェロ協奏曲 サン＝サーンス：チェロ協奏曲 第1番

ジャクリーヌ・デュ・プレ（チェロ）
ダニエル・バレンボイム指揮
ニュー・フィルハーモニア管弦楽団

- 1968年録音
- WPCS-23056

2011年リマスター

豊かなメロディと不気味が同居したシューマンの不可思議な魅力、サン＝サーンスのきらびやかな技巧性となる種のエキゾティズム。デュ・プレはこの2曲に対し、力強さと繊細さ、大きなスケールとしなやかさで挑んでいます。激情と優しさが同居した奇跡的パフォーマンスがここに記されています。



ドヴォルザーク： チェロ協奏曲 森の静けさ

ジャクリーヌ・デュ・プレ（チェロ）
ダニエル・バレンボイム指揮
シカゴ交響楽団

- 1970年録音
- WPCS-23057

2011年リマスター

ドヴォルザークの名曲にさらなる生命力を与えた、壮大なスケールと伸びやかな歌いまわしが何とも魅力的な1枚です。デュ・プレの残した録音の中でも、1、2を争う屈指の名演。「入魂」という言葉がまさにピッタリの、すばらしく劇的な演奏内容です。デュ・プレ一世一代のパフォーマンスが記録されています。



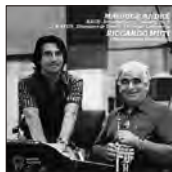
エルガー＆ディーリアス： チェロ協奏曲

ジャクリーヌ・デュ・プレ（チェロ）
ジョン・バルビローリ指揮／ロンドン交響楽団、
マルコム・サージェント指揮／ロイヤル・フィルハーモニア管弦楽団

- 1965年録音
- WPCS-23058

2011年リマスター

悲劇の天才チェリリスト、デュ・プレが最も得意としてきたのがエルガーの協奏曲。デュ・プレのために書かれたのではないと思わせるほど、曲と一体となった激しくも美しい独奏は圧倒的で、バルビローリの指揮も最高級です。カップリングのディーリアスの協奏曲もまた、ファンタジーの飛翔が限りなく美しい名演です。



J.S.バッハ：ブランデンブルク協奏曲 第2番／ハイドン：トランペット協奏曲 他

モーリス・アンドレ（トランペット）
リッカルド・ムーティ指揮
フィルハーモニア管弦楽団

- 1984年録音
- WPCS-23059

2014年リマスター

J.S.バッハやテレマンなど、バロック作品を中心にした選曲。20世紀屈指のトランペッター、アンドレが得意としたレパートリーでの名人芸を聴くことができる会心作です。ムーティとは初めての共演ですが、にもかかわらず息のピッタリと合った、実にスムーズで美しい音色の音楽が奏でられています。



モーツァルト： ホルン協奏曲（全曲）

デニス・ブレイン（ホルン）
ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮
フィルハーモニア管弦楽団

- 1953年録音
- WPCS-23060

2011年リマスター

世界中のホルン奏者の中で、いまだ別格的存在とされるブレイン。絶妙なフレーズ感とスケール感、驚くほどしなやかな音色、テンポに対する感覚とメロディの歌わせ方、どれをとっても現在まで語り継がれる理由のわかる、20世紀を代表する名手の快演です。すべてのホルン奏者が憧れる、完璧なモーツァルトです。



ベートーヴェン： 弦楽四重奏曲 第15番

アルバン・ベルク四重奏団

- 1983年録音
- WPCS-23061

新着海外マスター

ウィーンの伝統と現代的な解釈を融合させた、驚異的な演奏が展開されています。室内楽の最高峰と謳われるベートーヴェンの後期作品の中でも屈指の難曲であり、宇宙的な広がりを持つ第15番ですが、アルバン・ベルク四重奏団は明快な演奏で作品の深奥にまで触れています。



ベートーヴェン： 弦楽四重奏曲 第14番

アルバン・ベルク四重奏団

- 1983年録音
- WPCS-23062

新着海外マスター

女人好みのベートーヴェン後期弦楽四重奏曲の中でも、最高傑作との呼び声が高いのが第14番。厳しく切り詰められた内容は究極の音楽を思わせます。アルバン・ベルク四重奏団は正統的でありながら新鮮かつ劇的な解釈で、この名曲の凄みを余すところなく表現しています。



ベートーヴェン： 弦楽四重奏曲 第12番&第16番

アルバン・ベルク四重奏団

- 1981年録音
- WPCS-23063

新着海外マスター

ベートーヴェンの後期ならではの深遠な世界が広がる名演。平明な中に底知れない深さを湛えた高邁な内容の第12番、そして俗界の雑念をすべて洗い流したようなベートーヴェン最後の弦楽四重奏曲、第16番。ともにアルバン・ベルク四重奏団は明朗かつ底知れない深みを持つ演奏で作品の真価を伝え、感動的な美を描ききっています。



シューベルト： 弦楽五重奏曲

アルバン・ベルク四重奏団
ハインリヒ・シフ（チェロ）

- 1982年録音
- WPCS-23064

新着海外マスター

名チェリスト、ハインリヒ・シフを第2チェロに迎えた弦楽五重奏。アルバン・ベルク四重奏団のシューベルト解釈が明確に示された演奏で、ウィーンの伝統を肌で感じ取れる名演が展開されています。シフもアルバン・ベルク四重奏団の意図を十二分に理解し、決して無機的には陥らない緊密なアンサンブルで、叙情と情熱の両立を生み出しています。



シューベルト： 弦楽四重奏曲 第14番「死と乙女」 第13番「ロザムンデ」

アルバン・ベルク四重奏団

- 1984年録音
- WPCS-23065

2014年リマスター

シューベルトの弦楽四重奏の演奏史に新たな一面を切り開いた。記念碑的な名演です。四重奏の各楽器が対等に主張しあい、せめぎ合うさまはまさに圧巻。精密きわまりない合奏力、表現主義的ともいえる生々しい解釈が、この2つの名曲に秘められた深淵を明らかにしています。



ドビュッシー＆ラヴェル： 弦楽四重奏曲

アルバン・ベルク四重奏団

- 1984年録音
- WPCS-23066

新着海外マスター

ドビュッシーもラヴェルも弦楽四重奏曲は1曲しか残していませんでしたが、ともに近代フランスを代表する名品としてあまねく知られています。アルバン・ベルク四重奏団の演奏は、いつもながら隅々まで考え抜かれた精緻なもの。ドイツ・オーストリア系の作品に対するのとはまた違った、柔軟な演奏で耳をそばだてさせます。



バルトーク： 弦楽四重奏曲全集（全6曲）

アルバン・ベルク四重奏団

- 1983～1986年録音
- WPCS-23067/8 2CDs

2014年リマスター

ベートーヴェンの16曲と並び称される、弦楽四重奏曲の名作がこのバルトークの全6曲です。どの曲も異常なほどの緊張感と精密な構成に支えられ、息苦しいぐらいの強いメッセージを内に秘めています。表現の上でも技術的にも至難なこの6曲を、あらゆる面からみて完璧に弾きこなしたアルバン・ベルク四重奏団の代表的名盤の一つです。



**ベートーヴェン：
ピアノ三重奏曲 第7番
「大公」&第5番「幽霊」**

ウラディーミル・アシュケナージ (ピアノ)
イツァーク・パールマン (ヴァイオリン)
リン・ハレル (チェロ)
●1982/1979 & 1984年録音
●WPCS-23069 **2014年リマスター**

超一流アーティスト3人による「大公」「幽霊」です。超弩級トリオと呼ぶに相応しいメンバーがベートーヴェンの三重奏曲中でも特に名高いこの2作を、最上級の技術と敬意で仕上げる様はまさに圧巻。アシュケナージ、パールマン、ハレル、いずれもが極端に前に出ることのないアンサンブルに徹し、最高のトリオを実現しています。



**チャイコフスキー：
ピアノ三重奏曲「偉大な
芸術家の思い出に」**

ウラディーミル・アシュケナージ (ピアノ)
イツァーク・パールマン (ヴァイオリン)
リン・ハレル (チェロ)
●1980年録音
●WPCS-23070 **2014年リマスター**

20世紀後半を代表する名手たちによるチャイコフスキーです。曲の鍵ともいえるピアノではアシュケナージが的確な音楽を形成し、我の強いソリストたちが陥りがちな不用意に飛び散る火花を抑えつつ、穏やかで角がとれた演奏を築きあげています。激しさと自然さ、それに加えて名手ならではの力量が加わった快演です。



**メンパー・リサイタル
J.S.バッハ：主よ、人の望みの喜びよ／シチリアーナ／来たれ、異教徒の救いの主よ／イエス、わたしは主の名を呼ぶ／ショパン：舟歌 他**

ディヌ・リパッティ (ピアノ)
●1950/1947/1948年録音
●WPCS-23071 **2011年リマスター**

天才リパッティが残した録音はどれもかけがえのないものですが、小品の演奏を集めたこの1枚も、半世紀以上の長きにわたって幅広い人気を獲得しているものです。録音年代の古さを超越して聴き手の心にストレートに響く、真の天才の技。どの曲のどの一節からも天才の音が立ち昇る、20世紀の遺産です。



**ショパン：
ワルツ集 (14曲)**

ディヌ・リパッティ (ピアノ)
●1950年録音
●WPCS-23072 **2011年リマスター**

ショパンのワルツ集には多数の名演奏、名録音が存在しますが、そのなかでも別格、特別の位置を占めているのがこのリパッティ盤です。軽やかでありながら華麗、しかも燃えるような情熱を内に秘めた唯一無二のパフォーマンス。モノラルながら録音もリマスターリングによって瑞々しく蘇り、アルバム全体の価値を一層高めています。



**ブザンソン音楽祭における
最後のリサイタル
J.S.バッハ：パルティータ 第1番／
モーツァルト：ピアノ・ソナタ第8番／
ショパン：13のワルツ 他**

ディヌ・リパッティ (ピアノ)
●1950年録音
●WPCS-23073 **2011年リマスター**

リパッティがその短い生涯の最後の最後、死の2カ月前に重い病状をおして行なった歴史的ライブ録音。プログラムはショパンのワルツ、モーツァルトのイ短調ソナタなど、いずれもリパッティが得意中の得意とした曲ばかり。リパッティならではのセンスの良さに加え、死を目前にしたがゆえの鬼気迫る緊張感が圧倒的です。



**ベートーヴェン：ピアノ・ソ
ナタ 第17番「テンペスト」
シューマン：幻想曲**

スヴァトスラフ・リヒテル (ピアノ)
●1961年録音
●WPCS-23074 **2011年リマスター**

巨匠リヒテルがソ連 (現・ロシア) から出て西欧、そしてアメリカに演奏旅行を行ない、どの国でも演奏が聴けるようになった1960年代初期、壮年期の名盤。ベートーヴェンとシューマンの名作を緊密な構築力と劇的なダイナミズムを駆使して描ききっています。彼の演奏史を語る上で欠かすことのできない一枚です。



**ショパン：
練習曲集 作品10&25
舟唄**

アルフレッド・コルトー (ピアノ)
●1933/1934年録音
●WPCS-23075 **2012年リマスター**

19世紀のロマンティックな演奏の伝統を汲み、独特のテンポの揺らぎ、歌い廻しが多用された、個性溢れる巨匠の記録です。現代の演奏とは大いに異なり、自由奔放で感興の赴くままに音楽は進みますが、細部の多彩なニュアンス、極め尽くされたスタイルの深さはこの時代ならではのものです。



**幻のショパン・
レコーディング
ピアノ・ソナタ 第3番／3つのマズル
カ／夜想曲 第4番／スケルツォ 第3
番／英雄ポロネーズ**

マルタ・アルゲリッチ (ピアノ)
●1965年録音
●WPCS-23076 **2011年リマスター**

1999年、さまざまな経緯の後に、収録後34年を経て初めて世に出た「幻のレコーディング」です。1965年、もはや伝説となったショパン・コンクールでの圧倒的な優勝の直後、関係者を驚異と興奮に巻き込みながら行なわれたセッション。アルゲリッチならではの熱と力のたぎった演奏が聴けます。



**アルゲリッチ・
コンサートヘボウ・ライヴ
1978&1979**

マルタ・アルゲリッチ (ピアノ)
●1978/1979年録音
●WPCS-23077 **2CDs 2011年リマスター**

アルゲリッチのソロ・リサイタルを満喫できる人気アルバムです。ショパンのノクターンでは本来の天真爛漫さを、プロコフィエフのソナタでは激流が渦巻くような熱き力を、70年代のアルゲリッチのスタジオ録音とは一味も二味も違う、はじけるようなパッションをもった演奏が展開されています。



**リスト：
ハンガリア狂詩曲集**

ジョルジュ・シフラ (ピアノ)
●1972~1975年録音
●WPCS-23078/9 **2CDs 2011年リマスター**

「リストの再来」と呼ばれた超絶技巧の持ち主、シフラによる貴重な狂詩曲集です。「第2番」以外あまり聴く機会のない曲集ですが、いずれも高度な技巧を要求しながら独特の民族色や即興性を生かした名作揃いです。シフラの演奏はまさしく完全無比。各曲を的確に弾きわけています。



**リスト：
超絶技巧練習曲集 (全12曲)
メフィスト・ワルツ 第1番
小人の踊り**

ジョルジュ・シフラ (ピアノ)
●1957/1958年録音
●WPCS-23080 **2011年リマスター**

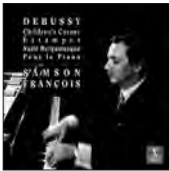
圧倒的な技巧の冴えから「リストの再来」と呼ばれたシフラが、その本領を遺憾なく発揮した名盤。超絶技巧を華やかに披露した、エンタテインメント性満点の演奏です。技巧のみならず、シフラ独特のピアノ自体を鳴らしあげる、そのタッチの強靱さ、弱音時にうかがわれるニュアンスに富んだ表現も特筆されます。



**フォーレ：
夜想曲集 (全13曲)**

エリック・ハイドシェック (ピアノ)
●1960/1962年録音
●WPCS-23081 **2CDs 2011年リマスター**

日本にもコアなファンが多く存在しているフランスの名ピアニスト、ハイドシェック若き日の名演です。美しいタッチ、透明な輝きで、フォーレが生涯を通じて作曲し続けた13の夜想曲の内面を明確に捉え、見事に描き切っています。“魅惑の巨匠”と呼ばれるフォーレのロマン性、神秘性、こまやかな情緒がここにあります。



**ドビュッシー：
子供の領分／版画／ベル
ガマスク組曲／ピアノのため
に**

サンソン・フランソワ (ピアノ)
●1968~1970年録音
●WPCS-23082 **2011年リマスター**

最晩年のフランソワが天才的な閃きで描いた、幻想味溢れるドビュッシーです。繊細な中にも飛翔する音楽は永遠の光彩を放っています。ドビュッシーの持つ内的世界に広がるイメージを、最良の状態で表現できる達人によるこれらの演奏は、21世紀の現在においても不滅なもの。20世紀に残された貴重な遺産です。



**ドビュッシー：ベルガマスク
組曲／アラベスク 第1番&
第2番／子供の領分／レン
トより遅く／喜びの島**

ワルター・ギーゼキング (ピアノ)
●1953/1951年録音
●WPCS-23083 **2011年リマスター**

ギーゼキングの真骨頂が表れた演奏です。作品を知的に読みとり、余情を挟むことなく絶妙にコントロールしてなお、決して味味乾燥にはならない絶妙なドビュッシーです。こまやかなニュアンスにも不足しない、純度の高い至芸が堪能できます。正確な解釈と、陰影豊かで格調高い演奏が展開されています。



**ラヴェル：
ピアノ曲全集**

ワルター・ギーゼキング (ピアノ)
●1954年録音
●WPCS-23084/5 **2CDs 2011年リマスター**

大ピアニスト、ギーゼキングの不滅の金字塔。ドビュッシー、モーツァルトと並んで高く評価されているのが彼のラヴェルです。明快なタッチと素晴らしい技巧、楽譜の正確な解釈によって、ラヴェル音楽のエッセンスを完全に掬い上げると共に、精妙なニュアンスに富んだ演奏は素晴らしいという以外に言葉がありません。



**ベスト・オブ・サティ
3つのジムノペディ／6つのグノシエンヌ
／ひからびた胎児／官僚的なソナチ
ネ／最後から2番目の思想／梨の形を
した3つの小品／風変わりな美女 他**

アルド・チッコリーニ (ピアノ)
●1983~1986年録音
●WPCS-23086 **2014年リマスター**

チッコリーニといえばサティ、サティといえばチッコリーニ。サティの全作品の録音を2回にわたって残しているのがチッコリーニです。その明晰で美しい音色、理知的でありながら空虚に陥らない演奏はまさにサティにぴったり。当盤はその2回目の全集からの抜粋であり、有名曲をずらりと収録しています。



ラフマニノフ：ピアノ曲集
前奏曲(5曲)／練習曲集「音の絵」より第3曲&第5曲／楽興の時(4曲) 他

アンドレイ・ガヴリーロフ(ピアノ)
●1984年録音
●WPCS-23087

新着海外マスター

ロマンティックな表情の中に多彩な技巧をちりばめたラフマニノフのピアノ曲。モスクワ音楽院出身のガヴリーロフにとって、ラフマニノフは最も得意なレパートリーであり、ここでの自身による選曲も一家言あるもの。若くして巨匠のようなスタイルをもつ、骨太で力強く、かつ流麗な演奏は聴き応え抜群です。



バルトック：2台のピアノとパーカッションのためのソナタ／2台のピアノと打楽器のための協奏曲

カティア&マリエル・ラベック(ピアノ) サイモン・ラル指揮／バーミンガム市交響楽団 他
●1985年録音
●WPCS-23088

2014年リマスター

スリングで手に汗握るバルトックです。ピアノの連弾およびデュオの世界に一大変革をもたらしたラベック姉妹。優れた技術と音楽性の高さに裏打ちされた彼女たちの演奏の粋が、ここに刻まれています。協奏曲ではラルとの息もピッタリ。研ぎ澄まされた新鮮な感覚によるバルトック演奏をご堪能ください。



クライスラー：ヴァイオリン名曲集
ウィーン奇想曲／ジプシーの女／愛の喜び／愛の悲しみ／中国の太鼓 他

イツァーク・パールマン(ヴァイオリン)
サミュエル・サンダース(ピアノ)
●1975年録音
●WPCS-23089

2011年リマスター

世界中で愛されるクライスラーの小品集ですが、これはそのなかでも別格の1枚といえるでしょう。パールマンは持ち前の美音と包容力豊かな表現力を発揮して、すべての曲を最高級に再現しています。クライスラー編曲による様々な作曲家の名曲もちりばめられており、バラエティ豊かに楽しめます。



ア・ラ・カルト
マスネ：タイスの瞑想曲
サラサーテ：ツイゴインエルワイゼン 他

イツァーク・パールマン(ヴァイオリン)
ローレンス・フォスター指揮
アビー・ロード・アンサンブル
●1995年録音
●WPCS-23090

新着海外マスター

「タイスの瞑想曲」、「ツイゴインエルワイゼン」や「美しきロスマリン」など、ヴァイオリンの魅力を存分に味わえるおなじみの名曲に加え、普段あまり聴く機会のない作品をも交えたヴァイオリン小品集。パールマンは完璧な技術を駆使し、それぞれの曲の持つ風景を見事に描き分けています。



スーヴェニール
ドヴォルザーク：ユモレスク、4つのロマンティックな小品／サラサーテ：ツイゴインエルワイゼン 他

チョン・キョンファ(ヴァイオリン)
イタマル・ゴラン(ピアノ)
●1998年録音
●WPCS-23091

2014年リマスター

濃厚な味わいと多彩な表情で他のヴァイオリニストとは一線を画すヴァイオリニスト、チョン・キョンファ。彼女がみせた世界最高峰の演奏がここに収録されています。繊細な心の動きと動物的な機敏さを併せ持った魔物的な魅力溢れる「ツイゴインエルワイゼン」など名作・名演揃いです。



J.S.バッハ：無伴奏チェロ組曲(全曲)

パプロ・カザルス(チェロ)
●1938/1936/1939年録音
●WPCS-23092/3

2011年リマスター

もはや説明の必要のない名盤。バッハの「無伴奏」の永遠の名演であり、チェロという楽器の価値そのものを高め、その後のチェロ奏者全てに多大な影響を与えた、計り知れない意義を持つ録音です。パプロ・カザルスのこの演奏はすべてのチェロ演奏の原点ともいわれ、永遠の輝きを保つ真の音楽遺産です。



グレゴリアン・チャント

イスマル・フェルナンデス・デ・ラ・クエスタ指揮
シロス修道院合唱団
●1973年録音
●WPCS-23094

2014年リマスター

20世紀後半、スペインを中心にヨーロッパで大ヒットし、日本にも上陸、「癒し」ブームのきっかけにもなった話題の作品です。修道院の修道士達が発する日常的に歌うさまをナチュラルな姿勢で記録したもので、これぞグレゴリアン・チャントの極めつけ。クラシック音楽の原点を探ることが出来る意味でも貴重な内容です。



モーツァルト歌曲
リサイタル

静けさがほほえみながら／鳥よ、年ごとに／ルイーゼが不実な恋人の手紙を焼いた時 他
エリーザベト・シュヴァルツコップ(ソプラノ)
ワルター・ギーゼキング(ピアノ)
●1955年録音
●WPCS-23095

2011年リマスター

モーツァルトのリートを聴くなら、まずはこれを。名花シュヴァルツコップが、その絶頂期に残した素晴らしい完成度を誇るモーツァルト。代表作をほぼ網羅した17曲の歌唱は、愛らしくもあり、格調高くもあるこの大歌手ならではの自在なものです。ギーゼキングのピアノとのコラボレーションも絶妙です。



モーツァルト：オペラ・アリア集

あなたに明かしたい、おお、神よ／踊れ、喜べ、汝幸なる魂よ／喜びに胸は踊り 他
キャスリーン・バルト(ソプラノ)
アンドレ・プレヴィン指揮
ロイヤル・フィルハーモニー管弦楽団
●1985年録音
●WPCS-23096

2014年リマスター

キャスリーン・バルト絶頂期の名唱です。冒頭の「あなたに明かしたい、おお神よ」から彼女の實力が全開。唯一無二の歌唱を聴かせてくれます。伴奏を受け持つアンドレ・プレヴィンの棒さばきも抜群。彼女の歌声に、幅広くダイナミックな背景をオーケストラとともに築きあげています。



モーツァルト：レクイエム
アヴェ・ヴェルム・コルプス

リカルド・ムーティ指揮
ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団 他
●1987年録音
●WPCS-23097

2014年リマスター

ムーティ&ベルリン・フィルによる感動的なレクイエム。演奏者たちの、この作品にかける思いが迫ってくる屈指の名演奏です。オーケストラ、ソリストに加えて、エリック・エリクソンが率いるストックホルム室内合唱団とスウェーデン放送合唱団の合唱も最高水準の出来ばえで、崇高なレクイエムの世界へ誘います。



ベートーヴェン：荘厳ミサ曲

オットー・クレンペラー指揮
ニュー・フィルハーモニア管弦楽団
ニュー・フィルハーモニア合唱団 他
●1965年録音
●WPCS-23098

2011年リマスター

謹厳・剛直なクレンペラー晩年の大演奏です。「ミサ・ソレムニス」は、あの「第九」と並ぶ、ベートーヴェンがソリストと合唱、それにオーケストラのために書いた大傑作。ベートーヴェンの後期作品だけが持つ宇宙的な広がりや、クレンペラーが壮大なスケールで描き出しています。



シューベルト：美しき水車小屋の娘

オラフ・ベア(バリトン)
ジェフリー・パーソンズ(ピアノ)
●1986年録音
●WPCS-23099

2014年リマスター

純真でひたむきなシューベルト歌唱です。歴代の名歌手たちのような達者で時に饒舌とも思えるような歌唱とは一味違う。誠実で献身的な心を歌うベアには、一途な男の魅力が充ち満ちています。一旦このひたむきさに触れたら他の歌手は受け入れることが出来ないと思ってしまうほどの魅力が、彼の歌唱には宿っています。



ブラームス：ドイツ・レクイエム

オットー・クレンペラー指揮
フィルハーモニア管弦楽団&合唱団
エリーザベト・シュヴァルツコップ(ソプラノ)
ディートリヒ・フィッシャー＝ディースカウ(バリトン)
●1961年録音
●WPCS-23100

2011年リマスター

完成に約10年の歳月を費やしたブラームス畢生の大作。クレンペラーは過度な演出を排し、淡々と、厳かに歩みを進めるかのごとくこの大作に對峙し、ブラームスの心の風景を描き尽くしています。2大独唱者に加え、合唱が高水準であることも特筆されます。洪く、美しく抽出されたクレンペラーのブラームスです。



R.シュトラウス：四つの最後の歌／歌曲集

エリーザベト・シュヴァルツコップ(ソプラノ)
ジョージ・セル指揮
ベルリン放送交響楽団
ロンドン交響楽団
●1965/1968年録音
●WPCS-23101

2011年リマスター

R.シュトラウスはモーツァルトやシューマン、シューベルトと並んでシュヴァルツコップの最も重要な、また得意なレパートリーでした。ジョージ・セルの精緻でありながら伸びやかなサポートと相まって、深い感動に誘われます。はかなく没して行く夕日の美しさを思わせる、シュヴァルツコップならではの名唱です。



ヴェルディ：レクイエム

クラウディオ・アバド指揮
ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団 他
●2001年録音
●WPCS-23102/3

2014年リマスター

凄まじいほどの緊張感。世界最高峰のヴェルディ解釈者であったアバドによる、渾身の力演です。ミラノ・スカラ座、ウィーン・フィルとも録音した曲ですが、ここでのベルリン・フィルとの演奏はそのなかでもベストと思える出来です。響きの美しさと表現力の豊かさを堪能してください。



ヴェルディ：聖歌四篇

リカルド・ムーティ指揮
ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団 他
●1986年録音
●WPCS-23104

2014年リマスター

ヴェルディ最晩年の内的告白ともいえるべき静謐な名曲、聖歌四篇の決定的名演奏です。合唱に大きな比重のかかる曲だけに、ムーティは名実共に世界最高の合唱指揮者と合唱団を呼び、ここに大きな成功を収めました。信じがたいほどの透明度と精妙さを誇る合唱とオーケストラの、幸福な出会いが聴かれます。



**グノー：
聖チェチリア荘厳ミサ曲
小交響曲**

ジャン・クロード・アルトマン指揮／パリ音楽院管弦楽団
ジョン・バルビローリ指揮／ハレ管弦楽団 他
●1963/1958年録音
●WPCS-23105 **2014年リマスター**

オペラで多くの名作を残したグノーらしく、宗教曲としては大規模で劇的な要素のある「聖チェチリア荘厳ミサ曲」。アルトマンはオルガンを加えた華やかな音色を形成し、作品をより開放的なものにしていきます。カップリングの管楽器による「小交響曲」も、軽妙な仕上がりが光ります。



**フォーレ：
レクイエム**

ディートリヒ・フィッシャー＝ディースカウ（バリトン）
ヴィクトリア・デ・ロス・アンヘレス（ソプラノ）
アンドレ・クリュイタンス指揮
パリ音楽院管弦楽団
●1962年録音
●WPCS-23106 **2012年リマスター**

多くの名演奏が残されているフォーレのレクイエムのなかでも、別格的な評価を受けているのが広く長く愛聴されてきたクリュイタンス盤です。フィッシャー＝ディースカウ、デ・ロス・アンヘレスという最高級の歌手が加わったことで、収録以来半世紀が経過しても輝きを失わない記録が誕生したのです。



**夏の最後のバラ
～フォーク・アルバム
ある朝早く／優しのポリ・オリ
ヴァー／木々は高だか／とねりこの
木立／夏の最後のバラ 他
サラ・ブライトマン（ソプラノ）
ジェフリー・パーソンズ（ピアノ）
●1986年録音
●WPCS-23107 **2014年リマスター****

1987年に発表されたサラ・ブライトマンの初期秘蔵アルバムです。アイルランドやフランスで古くから親しまれ歌い継がれている曲を中心とした選曲。わが国では「庭の千草」として親しまれている表題曲をはじめ、本作はブリテンの編曲を採用、サラ・ブライトマンが美しい歌声でそれらを紹介しています。



黒人霊歌集
時には母のない子のように／深い川
／しずかに揺れよ、懐かしこのチャリ
オット／ジェリコの戦い 他
バーバラ・ヘンドリックス（ソプラノ）
ドミトリ・アレクセエフ（ピアノ）
●1983年録音
●WPCS-23108 **2014年リマスター**

「黒人霊歌集」は今や独唱だけでなく合唱でも様々なアルバムがありますが、なかでも格別な内容の豊かさを持つのが、ここで聴けるヘンドリックスならではのヒューマンな歌唱です。メソディストの牧師や父、母が歌う歌曲の中で育ち、歌を通して神を讃えることが日常であったヘンドリックスにとって、この歌集は自身の生活、人生そのものだったともいえるでしょう。



**マーラー：
交響曲 第4番**

フランツ・ウェルザー＝メスト指揮
ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団
フェリシティー・ロット（ソプラノ）
●1988年録音
●WPCS-23109 **新着海外マスター**

ロンドン・フィルの音楽監督に就任する少し前、20代後半の飛躍的成長を遂げていた当時、そして旧EMIとの専属契約直後のウェルザー＝メストによる演奏です。若き日のウェルザー＝メストの純粋な心象がここには表されていて、曲の随所で見受けられる目映いばかりの晴朗さ、時として見せる翳りが彼の音楽性を見事に語っています。



**ベートーヴェン：
交響曲
第1番&第6番「田園」**

ロジャー・ノリントン指揮
ロンドン・クラシカル・プレイヤーズ
●1987年録音
●WPCS-23110 **新着海外マスター**

「田園」でのノリントンのスケールの大きな音楽作りは、これを演奏しているのが小編成でのピリオド楽器によるオーケストラなのかと思わせるほど、豊かな響きに満たされています。色彩豊かで緊張感のある第1番とともに、楽譜への忠実な解釈のもと、独自の現代感覚に満ちた新鮮なベートーヴェン像が浮かび上がります。



**ベートーヴェン：
交響曲
第2番&第8番**

ロジャー・ノリントン指揮
ロンドン・クラシカル・プレイヤーズ
●1986年録音
●WPCS-23111 **新着海外マスター**

ベートーヴェン生存当時に斬新とされていた彼の音楽世界を、そのまま体験することが出来るような演奏です。19世紀より培われてきたベートーヴェン演奏のさまざまな暗黙の了解を見直した、新たなベートーヴェン演奏がこのディスクで展開されています。ピリオド楽器によるオーケストラ演奏を聴く楽しみがここには溢れています。



**ベートーヴェン：
交響曲 第3番「英雄」
「プロメテウスの創造物」
序曲**

ロジャー・ノリントン指揮
ロンドン・クラシカル・プレイヤーズ
●1987年録音
●WPCS-23112 **新着海外マスター**

快活なテンポによる刺激的な「英雄」です。「ピリオド楽器を用いるということは、演奏する作品をリフレッシュするということであって、決して回顧趣味などではない」と語るノリントン、彼の時代をふまえたベートーヴェン研究の一つの成果がこの「英雄」です。19世紀初頭の息吹が伝わってきます。



**ベートーヴェン：
交響曲
第4番&第5番「運命」**

ロジャー・ノリントン指揮
ロンドン・クラシカル・プレイヤーズ
●1988年録音
●WPCS-23113 **新着海外マスター**

ここには厚しいベートーヴェンがあります。いままでの巨匠による「新化粧」ともいえる壮大・荘重な演奏とは一線を画した、ピリオド楽器によるベートーヴェン。「この曲にこんな解釈があったのか」という新鮮な魅力の発見はもちろん、知的探求心を満たしてくれる演奏が楽しめます。



**ベートーヴェン：
交響曲 第7番
「コリオラン」序曲
「エグモント」序曲**

ロジャー・ノリントン指揮
ロンドン・クラシカル・プレイヤーズ
●1988年録音
●WPCS-23114 **新着海外マスター**

通常は「速すぎる」として無視されていた、ベートーヴェンの指示によるメトロノームの速度表記をそのまま演奏したのが、このノリントンのベートーヴェンです。ピリオド楽器ならではの響きもさることながら、「舞踏の聖化」といわれるこの第7番では特にリズムの切れの良さ、スピード感が要求され、それが見事に表現されています。



**ベートーヴェン：
交響曲 第9番「合唱」**

ロジャー・ノリントン指揮
ロンドン・クラシカル・プレイヤーズ 他
●1987年録音
●WPCS-23115 **新着海外マスター**

快速で軽快な「第九」です。従来の演奏では味わえなかったスピード感と穏やかさが共存する、実に興味深い演奏が展開されています。第4楽章の歌唱も従来とは違った趣があり、資料的にも有益な作品に仕上がっています。当時の演奏、というよりも新しい感覚とスタイルによるベートーヴェンの「第九」でもあります。



**「カルメン」組曲
～ビゼー管弦楽名作集
「アルルの女」第1組曲／子供の遊び
／陣とり／序曲 イ長調／葬送行
進曲**

ミシェル・ブラッソン指揮
トゥールーズ・カピトール管弦楽団
●1992年録音
●WPCS-23117 **新着海外マスター**

36歳という若さでこの世を去ったビゼーの2大作品といえ「カルメン」と「アルルの女」。クラシック史に燦然と輝くこの傑作の聴きどころを巧みにピックアップしたオーケストラ版の組曲に加え、世界初録音の「陣取り」「序曲 イ長調」「葬送行進曲」といった珍しい3曲も収録。巨匠・ブラッソンがビゼーの魅力に迫ります。



**フォーレ：
レクイエム
ラシーヌ賛歌**

バーバラ・ヘンドリックス（ソプラノ）
ジョゼ・ヴァン・ダム（バリトン）
ミシェル・ブラッソン指揮
トゥールーズ・カピトール管弦楽団 他
●1984年録音
●WPCS-23118 **新着海外マスター**

フォーレの美点が最良の形で現れた作品がこの「レクイエム」です。この作品では管楽器の使用が極限まで制限され、ヴァイオリンですら第1、2、4曲では使用されないなど強い印象があり、フォーレならではの世界が展開されています。ブラッソンは卓越した解釈と棒さばきにより、その美質を明確に伝えています。



**海
～ドビュッシー：管弦楽曲集
夜想曲／交響組曲「春」**

ミシェル・ブラッソン指揮
トゥールーズ・カピトール管弦楽団
●1987年録音
●WPCS-23119 **新着海外マスター**

空気の中で光が微細にゆれる淡いタッチ、そして突然眼前に広がるまばゆい音の海原。モネの色彩表現がそのまま音になったかのような演奏です。フランス的な感性を表現させたら右に出る者なし、ともいわれたブラッソンと彼が率いるトゥールーズ・カピトール管弦楽団が、ドビュッシーの魅力を細部まで掘り下げて引き出しています。



**ボレロ
～ラヴェル：管弦楽曲集**

ラ・ヴァルス／亡き王女のためのパヴァーヌ／高雅で感傷的なワルツ／マ・メール・ロワ
ミシェル・ブラッソン指揮
トゥールーズ・カピトール管弦楽団
●1986年録音
●WPCS-23120 **新着海外マスター**

1968年にトゥールーズ市立歌劇場の音楽監督に就任以来、コンサート活動などを通じてオーケストラの充実を図ってきたブラッソンは、73年に音楽総監督となつてからはさらにオーケストラの組織を強化、育成にも力を注ぎました。この86年録音はその成果の現れ。見事なフランス音楽、見事なラヴェルです。



**パレード
～サティ：管弦楽曲集**
ジムノペディ 第1番&第3番 / ルラー
シュ/グノシェンヌ 第3番 / 風変わり
な美女 他
ミシェル・ブラッソン指揮
トゥールーズ・カピトル管弦楽団
●1988年録音
●WPCS-23121 **新着海外マスター**

独創性溢れるサティの作品を、多彩な管弦楽のサウンドで楽しむことができるディスクです。コクトーの台本とともに当時のパリにセンセーションを巻き起こしたバレエ曲「パレード」や、サティを敬愛したドビュッシーによる「ジムノペディ」管弦楽版の他、奇オの名にふさわしい傑作がここには多数収録されています。



**ドビュッシー：
管弦楽のための「映像」
牧神の午後への前奏曲**
アンドレ・プレヴィン指揮
ロンドン交響楽団
●1979年録音
●WPCS-23122 **新着海外マスター**

「映像」と「牧神の午後」は旧EMIにとって初のデジタル録音。しかも編集なしのテイクによって収録されました。プレヴィンは手兵ロンドン交響楽団とともに見事なアンサンブルを聴かせてくれます。グラモフォン賞も受賞するなど、さまざまな意味で記念碑的なレコーディングです。



**シベリウス：
交響曲
第1番&第6番**
バーヴォ・ベルグランド指揮
ヘルシンキ・フィルハーモニー管弦楽団
●1986年録音
●WPCS-23123 **新着海外マスター**

シベリウスの交響曲全曲をいずれも複数回録音しているベルグランドですが、この86年録音盤が彼の最高傑作であると同時に、このディスクこそが交響曲第1番と同第6番の最高の演奏と断言できる名盤です。北欧作品ならではの澄み切って透明度の高い空気感が全編に溢れていることを、最初の一音から聴き取っていただけるでしょう。



**シベリウス：
交響曲 第2番
大洋の女神
フィンランディア**
バーヴォ・ベルグランド指揮
ヘルシンキ・フィルハーモニー管弦楽団
●1986年録音
●WPCS-23124 **新着海外マスター**

随所で聴かれる微妙な楽器の織りなす響きと独特の陰影は、ベルグランドとヘルシンキ・フィルだけが表現できるものといえるでしょう。素朴で民族的な味わい、大自然と共鳴しているかのようなハーモニー、どこをとっても北欧の空気がこのディスクには充満しています。最良のシベリウスがここにあります。



**シベリウス：
交響曲
第3番&第5番**
バーヴォ・ベルグランド指揮
ヘルシンキ・フィルハーモニー管弦楽団
●1986/1987年録音
●WPCS-23125 **新着海外マスター**

シベリウスが生まれ育ったフィンランド。その風土を熟知した指揮者ベルグランドとヘルシンキ・フィルハーモニーによる、一切の汚れを排除したような爽やかな演奏です。緑に覆われた大地と青く澄み切った大空、そして心地よい空気。その素晴らしい情景を目の奥に浮かべることができる名演です。



**シベリウス：
交響曲
第4番&第7番**
バーヴォ・ベルグランド指揮
ヘルシンキ・フィルハーモニー管弦楽団
●1984年録音
●WPCS-23126 **新着海外マスター**

決定盤として知られるベルグランドによる2度目のシベリウス交響曲全集からの1枚です。ヘルシンキ・フィルを駆使した演奏は、第一人者ならではの確信に満ちたもので、味わい深くリスナーを深い感動に誘ってくれます。フィンランドの自然を彷彿とさせる、香り高い美しさも特筆されます。



**シベリウス：
クレルヴォ交響曲
カンタータ「故郷」
火の起源**
バーヴォ・ベルグランド指揮
ヘルシンキ・フィルハーモニー管弦楽団 他
●1985年録音
●WPCS-23127/8 **2CDs 新着海外マスター**

20歳代の若き日にシベリウスが書いた「クレルヴォ交響曲」は、歌唱を伴う全5楽章による大作。交響曲と名のつくシベリウス作品としては最初のもので、それだけに完成度の点では他の作品に比べて高いものではありませんが、祖国の伝説に触発された土着性は魅力的。ベルグランドとヘルシンキ・フィルは明確に曲の個性を描いています。



**J・シュトラウス二世：
ワルツ名曲集 第1集**
美しく青きドナウ / 南国のばら / ウ
イーン気質 / 春の声 / 芸術家の生
涯 他
ウィリー・ボスコフスキー指揮
ウィーン・ヨハン・シュトラウス管弦楽団
●1982年録音
●WPCS-23129 **新着海外マスター**

コンサートマスターだったボスコフスキーがウィーン・フィルを退団した翌年、1971年に結成したのがウィーン・ヨハン・シュトラウス管弦楽団。その名の通りヨハン・シュトラウスの音楽を演奏するためのオーケストラです。ウィーンの流儀を最もよく体現する演奏者たちによる粋で典雅、決して「ツボ」を外さない演奏です。



**J・シュトラウス二世 &
ヨゼフ・シュトラウス：
ワルツ名曲集 第2集**
朝の新聞 / オーストリアの村つばめ 他
ウィリー・ボスコフスキー指揮
ウィーン・ヨハン・シュトラウス管弦楽団
●1984年録音
●WPCS-23130 **新着海外マスター**

ニューイヤークンサートの主役として、またウィーン・フィルの名コンサートマスターとして絶大な人気と地位を誇っていたボスコフスキー。彼の音楽にはウィーン独特のしなやかなリズムと、ロマンティックなメロディが満載されています。本場の名手たちによる明るく楽しいシュトラウス・ミュージックです。



**ベルリオーズ：
幻想交響曲**
リカルド・ムーティ指揮
フィラデルフィア管弦楽団
●1984年録音
●WPCS-23131 **新着海外マスター**

1980年、フィラデルフィア管弦楽団の音楽監督に就任したムーティは「フィラデルフィア・サウンド」の生みの親、オマンディの意思を継ぎ、このオーケストラの魅力をさらに引き出すことに尽力しました。その成果の一つがこの「幻想交響曲」です。豊富なカラリゼーションを駆使し、ベルリオーズの意図を掴みながらその本質に迫ります。



**マーラー：
交響曲 第1番「巨人」**
リカルド・ムーティ指揮
フィラデルフィア管弦楽団
●1984年録音
●WPCS-23132 **新着海外マスター**

ムーティとフィラデルフィア管弦楽団との相性の良さが最高度に発揮された、このコンビ初期の代表的録音。透明で深みと柔らかみのあるヴァイオリン、華麗な管楽器が形成するウォームなサウンド、これこそまさにムーティが求めた「ニュー・フィラデルフィア・サウンド」ともいえるでしょう。前任者オマンディの音を継承しながら、力としなやかさと品格が共存した、より洗練されたサウンドが響いています。



**チャイコフスキー：
交響曲 第5番
幻想曲「フランチエスカ・ダ
リミニ」**
リカルド・ムーティ指揮
フィラデルフィア管弦楽団
●1991年録音
●WPCS-23133 **新着海外マスター**

ムーティ2度目のチャイコフスキーの「第5」。すでに70年代に主要な管弦楽曲を含む交響曲全集を完成しているほど、ムーティにとってチャイコフスキーは重要な作曲家です。ここでも熱く歌うカンタービレと精密なアンサンブルの両立により、極めて高水準な演奏が達成されています。



**チャイコフスキー：
交響曲 第6番「悲愴」
スクリャーピン：
法悦の詩**
リカルド・ムーティ指揮
フィラデルフィア管弦楽団
●1989/1990年録音
●WPCS-23134 **新着海外マスター**

1980年、オマンディの後任としてフィラデルフィア管弦楽団の音楽監督に就任したムーティ。当時39歳の若さでの、実力者揃いの名門オーケストラとの協調は見事でした。この作品は彼らとの円熟期における収録で、息もぴったり。ムーティとフィラデルフィア管弦楽団のメンバーとの絶妙なコラボレーションが味わえます。



**リムスキー=コルサコフ：
シェエラザード**
リカルド・ムーティ指揮
フィラデルフィア管弦楽団
●1982年録音
●WPCS-23135 **新着海外マスター**

ムーティ&フィラデルフィア管弦楽団の特色である情熱に溢れ、かつ色彩感の極めて豊かなサウンドは、「シェエラザード」の世界にはまさにうってつけ。多くの人がこの名作に期待している、ゴージャスさや幻想性、スリルがこのディスクには満載されています。「シェエラザード」の理想的な演奏として、満足度の高い内容になっています。



**ムソルグスキー(ラヴェル編)：
展覧会の絵
ストラヴィンスキー：
「火の鳥」組曲**
リカルド・ムーティ指揮
フィラデルフィア管弦楽団
●1984年録音
●WPCS-23136 **新着海外マスター**

ムーティは広いレパートリーを持つ指揮者としても高名です。ヴェルディをはじめとするオペラからモーツァルト、ワーグナー、スクリャーピンなどのロシア物、そして近代音楽まで、彼は颯爽としたテンポで音楽に向かいます。オーケストラと指揮者の力量が示される2作で、実力通りの演奏を展開しています。



**ストラヴィンスキー：
ペトルーシユカ
春の祭典**
リカルド・ムーティ指揮
フィラデルフィア管弦楽団
●1978/1981年録音
●WPCS-23137 **新着海外マスター**

オーケストラ各奏者の技量の高さが随所に効果的に生きている演奏です。それを巧みにドライヴするムーティの力量も素晴らしい、劇的な表現が横溢し、見事なコントラストを聴かせています。演奏自体は抒情的な美しさも湛えていて、ダイナミックな表現と洗練された感覚がバランス良く共存しています。



**プロコフィエフ：
「ロメオとジュリエット」組曲
第1番&第2番**

リカルド・ムーティ指揮
フィラデルフィア管弦楽団
●1981年録音
●WPCS-23138

新着海外マスター

オーマンディの後を受けて名門フィラデルフィア管弦楽団の音楽監督に就任したばかりの1981年、わずか1日のセッションで一気に録音された活きのいい「ロメオとジュリエット」です。この曲に溢れる痛快なダイナミズムと清冽なメロディーをとともに満足させた、ムーティ会心の演奏です。



**ショスタコーヴィチ：
交響曲 第5番
祝典序曲**

リカルド・ムーティ指揮
フィラデルフィア管弦楽団
●1992年録音
●WPCS-23139

新着海外マスター

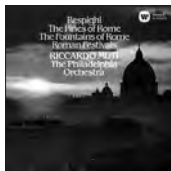
早くからロシア音楽に深い関心を示していたムーティが、満を持して挑んだショスタコーヴィチの交響曲録音です。フィラデルフィア管弦楽団とも絶妙の調和を見せていた、90年代のムーティの演奏が聴けます。グロテスクさを強調した演奏と対極にある、構成美のきらめく「第5番」が展開されています。



**ヴェルディ：
レクイエム**

ルチアーノ・パヴァロッティ(テノール)
リカルド・ムーティ指揮
ミラノ・スカラ座管弦楽団&合唱団 他
●1987年録音
●WPCS-23140/1 2CDs 新着海外マスター

ヴェルディのレクイエムは劇的な表現が聴く人に魅力的に映り、オペラ的な面白さをも併せ持つ作品ではありますが、その中にも真の折りを体験させるような演奏が求められます。ムーティにとって2回目の収録となるこの「レクイエム」は彼の集大成ともいえる劇的なもの。深い信仰心もしっかりと刻まれています。



**レスピーギ：
ローマの松
ローマの噴水
ローマの祭り**

リカルド・ムーティ指揮
フィラデルフィア管弦楽団
●1984年録音
●WPCS-23142

新着海外マスター

ムーティの最高傑作ともいえる1枚。熱き愛と心を込めたローマが謳われます。鮮やかな色彩と躍動感溢れるこのレスピーギの代表作3曲は近代オーケストラの傑作であり、イタリア生まれのムーティにとってはかけがえのない作品です。名門フィラデルフィア管とのコラボレーションにより、彩り鮮やかな音の万華鏡が展開されます。



**マーラー：
交響曲 第1番「巨人」
（「花の章」付き）**

ズービン・メータ指揮
イスラエル・フィルハーモニー管弦楽団
●1986年録音
●WPCS-23143

新着海外マスター

青春の光と影を鮮烈に歌い上げたマーラーの「巨人」。こうした作品でその実力を発揮するメータ、そしてマーラー演奏に独自の解釈で臨むイスラエル・フィルの豊麗な色彩。これらの要素をお互いに存分に生かした力強い演奏で、マーラーによるこの最初の交響曲の魅力がストレートに伝わってくる名盤です。



**ショスタコーヴィチ：交響曲
第1番／ピアノ、トランペット
&弦楽のための協奏曲**

マリス・ヤンソンス指揮
ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
ミハイル・ルティ(ピアノ)
●1994年録音
●WPCS-23144

新着海外マスター

ショスタコーヴィチの出発点ともいえる交響曲第1番は、レニングラード音楽院の卒業作品として書かれたものです。1926年の初演以来、ワルター、ストコフスキーなどにより広く知れ渡るようになったこの作品を、ヤンソンスはベルリン・フィルという最高のパートナーを伴って、ショスタコーヴィチ若き日の才気を表現しています。



**ショスタコーヴィチ：
交響曲
第2番「10月革命に捧ぐ」
第12番「1917年」**

マリス・ヤンソンス指揮
バイエルン放送交響楽団 他
●2004/2005年録音
●WPCS-23145

新着海外マスター

ショスタコーヴィチの交響曲としてはあまり注目されない2作ですが、ともに同じテーマのもとに、先鋭的な第2番、伝統的な第12番というショスタコーヴィチのさまざまな側面がうかがえるカップリングです。リリズムへのこだわりを見せる第12番、新時代を代表する名演とされる第2番、どちらも聴き応え十分です。

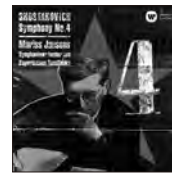


**ショスタコーヴィチ：
交響曲
第3番「メデー」
第14番**

マリス・ヤンソンス指揮
バイエルン放送交響楽団 他
●2005年録音
●WPCS-23146

新着海外マスター

型破りな構成をもつ2つの交響曲にヤンソンスは自然体で向かいます。合唱付きの単一楽章による第3番、独唱者2人と室内管弦楽のための全11楽章による第14番、いずれも交響曲の範疇からは歩を踏み出した作品ですが、ヤンソンスはあくまでも自然に接し、バランスのとれた緻密なアプローチを試みます。新鮮な美しさに満ちた演奏です。



**ショスタコーヴィチ：
交響曲 第4番**

マリス・ヤンソンス指揮
バイエルン放送交響楽団
●2004年録音
●WPCS-23147

新着海外マスター

ヤンソンスとバイエルン放送交響楽団だからこそ実現した美しき名演です。室内楽的な丁寧で整えられた響きを重視した透明感、複雑な構成に対し曲のすみずみにまで行き届いた心配りにより、音楽全体の見通しが素晴らしく、従来はあまり気づけなかった楽曲の美しさが明確に浮かび上がってきます。立体感、生命力ともに文句なし!



**ショスタコーヴィチ：
交響曲 第5番
室内交響曲 作品110b**

マリス・ヤンソンス指揮
ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団
●1997年録音
●WPCS-23148

新着海外マスター

ヤンソンスのショスタコーヴィチ交響曲シリーズ、最重要ともいえる「第5番」はウィーン・フィルとのライブ収録盤です。ウィーン・フィルならではのしなやかな弦と深みのある管楽器がこの演奏の美しさに磨きをかけています。バルシャイが弦楽四重奏曲第8番から弦楽合奏用に編曲した「室内交響曲」も、ウィーン・フィルの巧みさが光ります。



**ショスタコーヴィチ：
交響曲
第6番&第9番**

マリス・ヤンソンス指揮
オスロ・フィルハーモニー管弦楽団
●1991年録音
●WPCS-23149

新着海外マスター

緩・急・急というユニークな構成と即興風の自在さが特徴の「第6番」、古典的な枠組みの中に独自の手法を集大成的に凝縮した「第9番」。オスロ・フィルの精妙で的確な響きが各々の表情を浮き彫りにします。速めのテンポでコンパクトに、この2曲に對峙するヤンソンス。曲の本来の魅力を見事に引き出しています。



**ショスタコーヴィチ：
交響曲 第7番
「レニングラード」**

マリス・ヤンソンス指揮
レニングラード・フィルハーモニー管弦楽団
●1988年録音
●WPCS-23150

新着海外マスター

ヤンソンスの名を一躍不動のものにしたのがこの「第7番」の録音です。まだ黄金時代の名残を残していたレニングラード・フィルをしたがえ、ヤンソンスは静と動の明瞭なコントラストを軸に厚重な響きで圧倒的な頂点を築き、戦争をテーマとした発表されたこの交響曲の壮大さを演出しています。



**ショスタコーヴィチ：
交響曲 第8番**

マリス・ヤンソンス指揮
ピッツバーグ交響楽団
●2001年録音
●WPCS-23151

新着海外マスター

1997年から2004年まで首席指揮者だったピッツバーグ交響曲との初録音。本作は在籍時代に収録されました。ヤンソンスの師でもあるムラヴィンスキーに献呈された「第8番」は苦難を乗り越え、勝利へと進んでいくソヴェトが描かれています。ヤンソンスは深みに満ちた、たくましいサウンドで曲想に對峙していきます。



**ショスタコーヴィチ：交響曲
第10番／ムソルグスキー
(ショスタコーヴィチ編)：歌曲
集「死の歌と踊り」**

マリス・ヤンソンス指揮／フィラデルフィア管弦楽団、ロバート・ロイド(バス)
●1994年録音
●WPCS-23152

新着海外マスター

スターリンを批判的に表現し、これこそショスタコーヴィチの交響曲中の最高傑作との評価もある「第10番」。ヤンソンスはフィラデルフィア管のサウンドを駆使し、鮮烈な肖像を描きあげます。ムソルグスキーの歌曲集を管弦楽団奏用に編曲した「死の歌と踊り」も「凄み」すら感じさせる快演です。

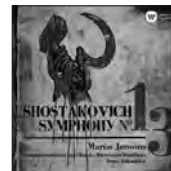


**ショスタコーヴィチ：交響曲
第11番「1905年」
ジャズ組曲 第1番
ジャズ組曲 第2番〜ワルツ**

マリス・ヤンソンス指揮
フィラデルフィア管弦楽団
●1996年録音
●WPCS-23153

新着海外マスター

表面的に語られてしまいがちな交響曲「第11番」ですが、その熟達した手法と内面性をヤンソンスはもの見事に解釈し、表現してくれます。彼によりこの曲がかけがえのない名作であることが証明されたといっても過言ではないでしょう。ロシア革命の発端となった「血の日曜日」がテーマですが、徹底して音楽的なアプローチが感動を呼びます。



**ショスタコーヴィチ：
交響曲 第13番
「バビ・ヤール」**

マリス・ヤンソンス指揮
バイエルン放送交響楽団&合唱団
セルゲイ・アレクサンシキン(バス)
●2005年録音
●WPCS-23154

新着海外マスター

持ち前のコントロールを効かせたヤンソンスのアプローチで、高い機能性と深々とした味わいを兼ね備えたバイエルン放送交響楽団が熟演を繰り広げます。歌唱、合唱とオーケストラのバランスも絶妙で、ヤンソンスの面目躍如たる演奏です。アレクサンシキンの歌声も堂に入ったもの。これぞ「バビ・ヤール」の決定盤!



**ショスタコーヴィチ：交響曲
第15番／ピアノ協奏曲 第
2番／「馬あぶ」組曲 第3
曲&第8曲**

マリス・ヤンソンス指揮／ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団、ミハイル・ルディ(ピアノ)
●1997年録音
●WPCS-23155 **新着海外マスター**

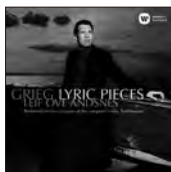
10種以上の打楽器と多様な引用が耳を引くショスタコーヴィチ最後の交響曲に対し、ヤンソンスとロンドン・フィルが施す細かなニュアンスの表現が実に丁寧。大げさな表現を注意深く避けることによって、感傷の入る余地のない寒々と冷え切った空気を巧みに演出します。「ピアノ協奏曲第2番」ではルディの颯爽としたピアノが印象的です。



**グリーク&シューマン：
ピアノ協奏曲**

レイフ・オヴェ・アンズネス(ピアノ)
マリス・ヤンソンス指揮
ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
●2002年録音
●WPCS-23156 **新着海外マスター**

今やナンバーワン・ピアニストとして君臨するアンズネスが21世紀初頭に行った録音です。指揮はヤンソンス、オーケストラはベルリン・フィル。世界超一流のアーティストが織りなすピアノ協奏曲は、文句のつけようがない素晴らしい。スカンジナビアの風と19世紀の栄華がここには立ちまわっています。



**グリーク：
抒情小曲集(抜粋)**

レイフ・オヴェ・アンズネス(ピアノ)
●2001年録音
●WPCS-23157 **新着海外マスター**

切れ味に富んだタッチ、爽快な指さばき、抜群のリズム感、そういったヴィルトゥオーゾの資質を十二分に備えていながら、アンズネスの演奏にはそれらを超えて流れる別次元の魅力があります。グリークと同じくノルウェー人であるアンズネスが精魂込めて音楽と対峙した作品集、まぎれもなく本物の本物がここにあります。



**ラフマニノフ：
ピアノ協奏曲
第1番&第2番**

レイフ・オヴェ・アンズネス(ピアノ)
アントニオ・パッパーノ指揮
ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
●2005年録音
●WPCS-23158 **新着海外マスター**

決して派手ではないものの、静かな情熱を秘めたタイプのアーティストであるアンズネスは、ソロだけでなく室内楽や声楽家とのコラボレーションでも高い評価を得ているオーラウド・プレイヤーです。ベルリン・フィルとのライヴとスタジオ収録両方を記録した本ディスクで、彼はピアニストとして、また音楽家としての大きさを示しています。



**ラフマニノフ：
ピアノ協奏曲
第3番&第4番**

レイフ・オヴェ・アンズネス(ピアノ)
アントニオ・パッパーノ指揮
ロンドン・交響楽団
●2009/2010年録音
●WPCS-23159 **新着海外マスター**

透明感のある美音と崇高な芸術性で、正統派として世界の舞台上で活躍するノルウェー出身のアンズネス。最高峰の難易度を誇る「第3番」でもアンズネスはいたって快調、「第4番」同様、パッパーノが生み出すスケールの大きな玄妙で艶めかしいオーケストラにも端正なスタイルで対峙、豊かな歌心溢れるラフマニノフを構築していきます。



**ショパン：
幻想曲作品49
バラード 第1番
夜想曲(3曲)
スケルツォ 第2番**

ユーリ・エゴロフ(ピアノ)
●1981/1982年録音
●WPCS-23160 **新着海外マスター**

30歳代半ばにして世を去ってしまったユーリ・エゴロフ。各種コンクールで優勝することはなかったものの、どのコンクールでも聴衆に優勝者以上の印象を残してきたといわれる、魅惑的な演奏がここに収められています。果てしなく美しいという形容がぴったりのタッチは透明感に溢れています。宝石のような輝きをもつショパンです。



**チャイコフスキー：
ピアノ協奏曲
第1番&第3番**

アンドレイ・ガヴリーロフ(ピアノ)
ウラディミール・アシュケナージ指揮
ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
●1988年録音
●WPCS-23161 **新着海外マスター**

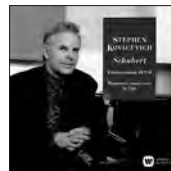
チャイコフスキーの2つのピアノ協奏曲が収録されています。第1番では超絶的なテクニックを難なく披露するだけでなく、その難所を魅惑的に引き立てる「華」さえも感じさせる余裕を見せます。解釈に関しても独自の目の覚めるような斬新さが随所にあり、指揮のアシュケナージともども新しいチャイコフスキー像が窺えます。



**ショパン：
練習曲 作品10&25**

アンドレイ・ガヴリーロフ(ピアノ)
●1984/1985年録音
●WPCS-23162 **新着海外マスター**

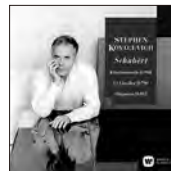
これはガヴリーロフが30歳代前半に録音した傑作です。24曲すべてに違う楽想を持つショパンの練習曲に対し、20世紀後半に現れた現代の巨匠は、卓越したテクニックと若々しく新鮮な感覚を持ちながら、内省的な嗜好を見せつつ、豊かな音楽性をベースに1曲1曲を見事に弾き分けていきます。



**シューベルト：
ピアノ・ソナタ 第20番
楽興の時 D780**

ステイヴン・コヴァセヴィチ(ピアノ)
●1994年録音
●WPCS-23163 **新着海外マスター**

コヴァセヴィチの魅力は「歌」を大切にしているところです。現代のピアニストのなかでも、その資質は最上位にあげられる存在といえるでしょう。旋律が実に魅力的なシューベルトは、彼にとってまさに打ってつけた音楽。作為がまったく感じられず、自在にメロディを紡ぐ彼のピアニズムがこのディスクには充滿しています。



**シューベルト：
ピアノ・ソナタ 第21番
12のドイツ舞曲D790
アレグレット D915**

ステイヴン・コヴァセヴィチ(ピアノ)
●1994年録音
●WPCS-23164 **新着海外マスター**

フレージングの巧みさを全面に押し出すことなく、コヴァセヴィチはあくまでも自然に、そして楽曲に真摯に向かい、シューベルトの珠玉の旋律を奏でていきます。人の呼吸や脈拍と同じように気がつくように流れているような演奏、それは「12のドイツ舞曲」にも現れていて、泉のごとく湧き上がる楽想が楽しめます。



**フォーレ：
室内楽曲集 第1集
ヴァイオリン・ソナタ 第1番&第2番/
チェロ・ソナタ 第1番&第2番/三重奏曲 他**

ジャン・フィリップ・コラール(ピアノ) 他
●1976~1978年録音
●WPCS-23165/6 **2CDs 新着海外マスター**

フォーレの音楽はやはり自国のアーティストたちによる演奏が一番! そう思わせる、素晴らしい高貴で匂い立つような薫りに満ちあふれた室内楽曲集です。ヴァイオリンにはデュメイ、チェロにはロデオ、そしてピアノにはコラールと、これ以上望めない顔ぶれ。かけがえのない純度をこのディスクから汲み取ってください。



**フォーレ：
室内楽曲集 第2集
ピアノ四重奏曲 第1番&第2番/
ピアノ五重奏曲 第1番&第2番/弦楽四重奏曲**

ジャン・フィリップ・コラール(ピアノ) 他
●1975~1978年録音
●WPCS-23167/8 **2CDs 新着海外マスター**

フォーレの室内楽曲中、最もよく親しまれている2つのピアノ四重奏曲、それに勝るとも劣らない味と深みのあるピアノ五重奏曲の2曲。これらの名作から、コラールとパレナン四重奏団は素晴らしい演奏で魅力を引き出しています。フォーレ最後の作品である「弦楽四重奏曲」も深い諦念が印象的です。



**フォーレ：
舟歌(全曲)
即興曲
無言歌
「ドリー」組曲 他**

ジャン・フィリップ・コラール(ピアノ)
●1970~1983年録音
●WPCS-23169/70 **2CDs 新着海外マスター**

全13曲、生涯にわたって書かれた「舟歌」は「夜想曲」同様、フォーレのピアノを代表する作品です。フォーレにとって自己の心情を吐露するのにふさわしい形式がこの「舟歌」であり、コラールはその状況を巧みに汲み上げ、音楽的な「揺れ」と作曲家の心情を交差させながら13曲を弾ききっています。



**フォーレ：
夜想曲(全曲)
主題と変奏
前奏曲集
バラード**

ジャン・フィリップ・コラール(ピアノ)
●1970/1980/1983年録音
●WPCS-23171/2 **2CDs 新着海外マスター**

現代フランスを代表するピアニスト、コラールの代表作といえばフォーレの作品集です。コラールは洗練された美しい音と豊かな情感を湛えた演奏で、フォーレの詩情を余すところなく掬いあげていきます。その伸びやかで自然な音楽には深い魅力があり、まさにフォーレの世界。スペシャリストによる音楽です。



**サン＝サーンス：
ピアノ協奏曲全集
動物の謝肉祭**

アルド・チッコリーニ(ピアノ)
セルジュ・ボド指揮
パリ管弦楽団
●1976/1970年録音
●WPCS-23173/4 **2CDs 新着海外マスター**

サン＝サーンスのピアノ協奏曲をチッコリーニは実に水際だった鮮やかさで表現します。本作はチッコリーニがフランスに帰化した直後に吹き込まれたもので、彼の充実した気力が音として迫ってきます。簡潔な構成力、無駄なくきりりと引き締まった表情など、卓越した技巧を背景に、すべての要素が有機的に結集しています。



**ベートーヴェン：ピアノ・ソ
ナタ 第17番「テンペスト」、
第21番「ワルトシュタイン」、
第26番「告別」&32の変奏曲 WoO80**

フランソワルネ・デュシャープル(ピアノ)
●1995年録音
●WPCS-23175 **新着海外マスター**

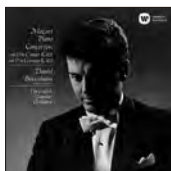
「若手のなかで理想とするピアニスト」とルービンシュタインから賛辞を贈られたデュシャープルは、超絶技巧を駆使するピアニストとしてもその名が知られています。しかし主観をひけらかすことなく、あくまでも譜面上的の指示を重視しながらの演奏は、ベートーヴェンが生前に望んでいた演奏家のスタイル。真のベートーヴェンが聴けます。



モーツァルト： ピアノ協奏曲 第20番&第23番

ダニエル・バレンボイム (ピアノ、指揮)
イギリス室内管弦楽団
●1967年録音
●WPCS-23176 **新着海外マスター**

ピアノを弾きながら指揮を執る、モーツァルトの協奏曲にとってこれは理想的。オーケストラとピアノが有機的に結びついて、モーツァルトの面影が偲べれます。短調による屈指の名曲「第20番」、全体をソフトに包み、曲想が実に明るく爽やかに表現される「第23番」、どちらも素晴らしい仕上がりです。



モーツァルト： ピアノ協奏曲 第13番&第17番

ダニエル・バレンボイム (ピアノ、指揮)
イギリス室内管弦楽団
●1967年録音
●WPCS-23177 **新着海外マスター**

弾き振りの妙味が存分に味わえる新鮮なモーツァルト。「第13番」はウィーンでの人気うなぎのぼりだった頃の意欲作、「第17番」は同時期に書かれた諸作の中でも一歩抜きん出た美しい協奏曲です。速いテンポの楽章と遅いテンポの楽章、どちらも繊細な配慮がなされ、バレンボイムの個性が浮き上がります。



モーツァルト： ピアノ協奏曲 第14番&第15番

ダニエル・バレンボイム (ピアノ、指揮)
イギリス室内管弦楽団
●1968年録音
●WPCS-23178 **新着海外マスター**

モーツァルトはウィーンに滞在していた時代に多くのピアノ協奏曲を作曲し、自らのピアノ演奏で盛んに演奏会を催して絶大な人気を誇りました。この2曲はまさにその時代のもの。オーケストラを思いきり鳴らす「第14番」ではバスを強調するなど、バレンボイムは繊細で自然ながら独特のアプローチを試みています。



モーツァルト： ピアノ協奏曲 第21番&第27番

ダニエル・バレンボイム (ピアノ、指揮)
イギリス室内管弦楽団
●1967/1968年録音
●WPCS-23179 **新着海外マスター**

ピアノ協奏曲、ピアノ・ソナタ双方の全集を完成させるなど、モーツァルトに格別の愛情を寄せるバレンボイム。小粋な「第21番」、最晩年の透明な境地が描かれる「第27番」をカップリングしたこの1枚でも、その絶妙なピアノリズムは冴え渡っています。ピアニストとしても指揮者としても超一流であるバレンボイム実力の証が示されています。



モーツァルト： ピアノ協奏曲 第18番&第24番

ダニエル・バレンボイム (ピアノ、指揮)
イギリス室内管弦楽団
●1971/1972年録音
●WPCS-23180 **新着海外マスター**

バレンボイムが1960～70年代にかけて完成したモーツァルトのピアノ協奏曲全集は、この時代の金字塔ともいえる名全集です。第18番は軽快で優美な、作品の特色を万全に引き出した演奏。「第20番」同様、短調で書かれた「第24番」では、悲愴感溢れる厚厚さをも醸しだし、モーツァルトの愛いに迫ります。



モーツァルト： ピアノ協奏曲 第12番&第19番

ダニエル・バレンボイム (ピアノ、指揮)
イギリス室内管弦楽団
●1972/1973年録音
●WPCS-23181 **新着海外マスター**

モーツァルトのピアノ協奏曲は、第11番以降はほぼ1780年代、いわゆる「ウィーン時代」に、ウィーンの聴衆の趣味に合わせて書かれました。「第12番」はウィーンに拠点を移したばかりのみずみずしい感性が光る一作。軽快な「第19番」ではバレンボイムが往々にして出す主情性が抑えられ爽やか、かつ生き生きとして推進力と流麗さが際立っています。



モーツァルト： ピアノ協奏曲 第16番&第11番

ダニエル・バレンボイム (ピアノ、指揮)
イギリス室内管弦楽団
●1972/1973年録音
●WPCS-23182 **新着海外マスター**

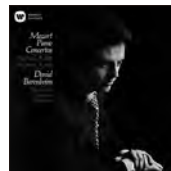
バレンボイムが弾き振りで録音したモーツァルトの協奏曲は、どれも一定の枠に音楽を取めながら随所にバレンボイムならではの才能がきらめく優れた演奏です。ウィーン時代初期の「第11番」を含む本作でも、バレンボイムは当時のモーツァルト像を想い、真摯な姿勢で作品に臨みます。緻密なディテール、知的な側面もみせるモーツァルトです。



モーツァルト： ピアノ協奏曲 第6番&第26番「戴冠式」

ダニエル・バレンボイム (ピアノ、指揮)
イギリス室内管弦楽団
●1973/1974年録音
●WPCS-23183 **新着海外マスター**

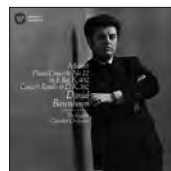
「第6番」はモーツァルトが20歳の頃、ザルツブルク時代の華麗な作品。もう1曲は神聖ローマ皇帝レオポルト2世の戴冠式で演奏された「戴冠式」。バレンボイムはこの2曲の持つ華麗さと厚厚さを見事に表現し、ピアニストとしての最盛期の実力を見せてつけています。



モーツァルト： ピアノ協奏曲 第8番&第25番

ダニエル・バレンボイム (ピアノ、指揮)
イギリス室内管弦楽団
●1973年録音
●WPCS-23184 **新着海外マスター**

「第8番」は「リュッツォウ」という愛称でも呼ばれる1776年の作品で、モーツァルトの旺盛な創作意欲がうかがえる、活気溢れる作品。バレンボイムとしてはクレンペラー盤に続く2度目の録音の「第25番」は、前作以上の精密さで作品の内面を浮かび上がらせています。



モーツァルト： ピアノ協奏曲 第22番 コンサート・ロンド K.382

ダニエル・バレンボイム (ピアノ、指揮)
イギリス室内管弦楽団
●1971年録音
●WPCS-23185 **新着海外マスター**

自由に振る舞いながらも自然でスケールの大きい名演。「第22番」では第1楽章の主観性、第2楽章の深刻な表情など、実に個性的でありながら自然にモーツァルトの世界が展開されています。可憐な「コンサート・ロンド」K.382もまた、モーツァルトの特色を見事にとらえた美しい演奏です。



ショパン： 前奏曲集 作品28

ルドルフ・ブッフピンダー (ピアノ)
●1986年録音
●WPCS-23186 **新着海外マスター**

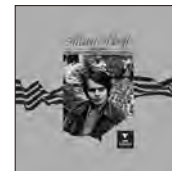
チェコに生まれたドイツ系ピアニストのブッフピンダー。ピアニストとして才能には驚異的なものがあり、5歳でウィーン国立音楽大学に入学、8歳でマスタークラスを履修したという経歴を持っています。レパートリーも広い彼ですが、ショパンにも同じ才能を感じるのか、作曲家の意図を正確に理解したしっかりした演奏に徹しています。



シューマン： 幻想曲 子供の情景

ルドルフ・ブッフピンダー (ピアノ)
●1985年録音
●WPCS-23187 **新着海外マスター**

ウィーンで育まれた音楽精神がどの作品にも、しっとりと息づいているのがブッフピンダーの魅力です。水彩画のようにさらりとした肌触り、何気なくウィーンの情景が浮かんでくるような後味のきれいなシューマンが、ここでは展開されています。ドイツ的な濃い情念とは一味趣を異にした、さらりと粋なシューマンです。



ドビュッシー： 前奏曲集 第1巻&第2巻 版画 ピアノのために

ミシェル・ベロフ (ピアノ)
●1970年録音
●WPCS-23188/90 3CDs **新着海外マスター**

20歳になったばかりのベロフがドビュッシーに真っ向から挑んだ意欲作であり、かつ名演です。「ショパンと並び称されるピアニストのバイブル的作品に対し、卓越したテクニックと感性で、ドビュッシーの微妙に変化する光と影を、精妙に弾き上げていきます。作品に吹き込む新鮮な生命が躍動する衝撃作です。



シューマン： 謝肉祭 子供のためのアルバム(3曲)

アルトゥーロ・ベネディッティ・ミケランジェリ (ピアノ)
●1975年録音
●WPCS-23191 **新着海外マスター**

20世紀後半を代表するヴィルトゥオーゾ、ミケランジェリの名盤です。シューマンの豊かな幻想と詩情漂う名作を、ミケランジェリは個性豊かに演奏しています。その洗練された感覚と磨き抜かれた音は、他に類を見ない円熟した大家の芸といえるものです。



ブラームス： ヴァイオリン協奏曲

ギドン・クレーメル (ヴァイオリン)
ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮
ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
●1976年録音
●WPCS-23192 **新着海外マスター**

収録当時ヨーロッパの楽壇に文字通り君臨していたカラヤンと、西側デビュー間もないクレーメルの貴重な共演です。持ち前の鋭さで新鮮なブラームス像を描こうとするクレーメル、伴奏の域を超え、堂々と押し出しの強さを堅持しようとするカラヤン。もはや歴史的な名演です。



シューマン&シベリウス： ヴァイオリン協奏曲

ギドン・クレーメル (ヴァイオリン)
リッカルド・ムーティ指揮
フィルハーモニア管弦楽団
●1982年録音
●WPCS-23193 **新着海外マスター**

熱血漢ムーティと、しばしば「クール」「シャープ」と形容されるクレーメルとの、意外な相性の良さが楽しめる1枚です。ストレートに作品の核心に迫るシベリウス、並はずれた集中力で美しく描き上げられたシューマン、いずれも両者のコラボレーションが素晴らしい方向に作用した快演が繰り広げられています。

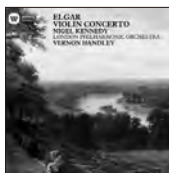


シュニトケ：ヴァイオリン、ヴィオラ&チェロのための協奏曲、弦楽三重奏曲、ミヌエツト／ベルク（シュニトケ編）：カノン

ギドン・クレーメル（ヴァイオリン）他
●1995年録音
●WPCS-23194

新着海外マスター

クレーメルはシュニトケと親交が深く、彼の作品をいくつもレコーディングしています。そうした献身的な努力により、シュニトケもその鬼才ぶりが大いに注目されるようになりました。本作品の解釈においても、クレーメルの独壇場。彼のみが知り、解釈、理解できる作曲家の内面に迫る演奏が展開されています。



エルガー：ヴァイオリン協奏曲 序奏とアレグロ

ナイジェル・ケネディ（ヴァイオリン）
ヴァーノン・ハンドラー指揮
ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団
●1984年録音
●WPCS-23195

新着海外マスター

ケネディ20歳代後半、レコーディング初期の作品です。13年後にもラトルの指揮で同曲を再収録しますが、ここでは曲に対する新鮮な感性が素晴らしく、ストーリー性を感じさせる内容になっています。エルガーがイギリス王室からナイトの称号を授与された当時（1904～5年）の作品、「序奏とアレグロ」も聴きどころの多い演奏です。



メンデルスゾーン&シベリウス：ヴァイオリン協奏曲

サラ・チャン（ヴァイオリン）
マリス・ヤンソンス指揮
ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
●1996年録音
●WPCS-23196

新着海外マスター

天才少女として騒がれたサラ・チャンの4枚目の協奏曲アルバムです。当時16歳という若さですが、すでにその音楽は完成されており、ライブ録音であるシベリウスでも一瞬の破綻も見せません。ヤンソンス&ベルリン・フィルの安定感溢れるサポートを得て、自由に、自在に飛翔したチャンのヴァイオリンはまぶしいほどです。



バッハ：ヴァイオリン協奏曲 第1番&第2番、ヴァイオリンとオーボエのための協奏曲

フランク・ペーター・ツィンマーマン（ヴァイオリン）
ジェフリー・テイ特指揮／イギリス室内管弦楽団
●1988年録音
●WPCS-23197

新着海外マスター

ツィンマーマンが奏でるヴァイオリンの音色は、バッハ演奏においても不動です。その美しさにより楽曲の細部まで見通しきいた、すっきりした演奏になっています。テイトのサポートも見事。ツィンマーマンと一体となり、バッハの魅惑的な世界を紹介してくれます。気品に満ちたバッハです。



モーツァルト：ヴァイオリン協奏曲 第1番&第4番

フランク・ペーター・ツィンマーマン（ヴァイオリン）
イェルク・フェルバー指揮
ハイルブロン・ヴェルテンベルク室内管弦楽団
●1986年録音
●WPCS-23198

新着海外マスター

5歳でヴァイオリンを手にし、10歳でモーツァルトのヴァイオリン協奏曲でデビューしたツィンマーマンにとって、モーツァルトは自分の分身のような存在だといってもいいような存在なのでしょう。ここでも限りなく美しいヴァイオリンの音色でモーツァルトの世界を知らせてくれます。高貴な音色に注目!



モーツァルト：ヴァイオリン協奏曲 第2番、ロンド K.269、アダージョ K.261

フランク・ペーター・ツィンマーマン（ヴァイオリン）
イェルク・フェルバー指揮
ハイルブロン・ヴェルテンベルク室内管弦楽団
●1987年録音
●WPCS-23199

新着海外マスター

10歳代後半から始まったツィンマーマンのモーツァルト協奏曲集の最後のレコーディングです。20歳を過ぎ、音楽的にも成熟した姿がここに見受けられます。必要以上に表面には出さないものの、厳然たる主張を垣間見ることが出来るツィンマーマンの音楽性を十二分に堪能してください。



モーツァルト：ヴァイオリン協奏曲 第3番&第5番

フランク・ペーター・ツィンマーマン（ヴァイオリン）
イェルク・フェルバー指揮
ハイルブロン・ヴェルテンベルク室内管弦楽団
●1984年録音
●WPCS-23200

新着海外マスター

ツィンマーマンが10歳代後半でレコーディングしたディスクです。のびやかで素直、初々しい魅力に満ちたモーツァルトです。10歳でのデビューがこの「第3番」であったこともあり、彼にとっては大切なディスクとなりました。伴奏陣も若き独奏者を無理なく支え、等身大の清々しいモーツァルトを演じています。

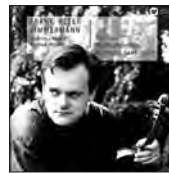


ベートーヴェン：ヴァイオリン協奏曲 ロマンズ 第1番&第2番

フランク・ペーター・ツィンマーマン（ヴァイオリン）
ジェフリー・テイ特指揮
イギリス室内管弦楽団
●1987年録音
●WPCS-23201

新着海外マスター

ベートーヴェンの生涯において、珍しく平穏な時期に書かれた唯一のヴァイオリン協奏曲は、雄大な曲想と優美な抒情性溢れる、幸福感が最良の状態でも美しく反映した名曲中の名曲です。ツィンマーマンは琢磨された美音を駆使して、情感豊かにこの不朽の名作を歌い上げいきます。



ブラームス：ヴァイオリン協奏曲／モーツァルト：ヴァイオリン協奏曲 第3番

フランク・ペーター・ツィンマーマン（ヴァイオリン）
ヴォルフガング・サヴァリッシュ指揮
ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
●1995年録音
●WPCS-23202

新着海外マスター

ドイツを代表するヴァイオリニストのひとりとして、今や押しも押されぬ存在のツィンマーマン。この録音が行われた1995年頃にはサヴァリッシュとともに度々来日し、その抜きん出た実力が広く知られました。ここでの2曲も、まさしく充実の極みです。



パガニーニ：カプリース 作品1(全24曲)

フランク・ペーター・ツィンマーマン（ヴァイオリン）
●1984/1985年録音
●WPCS-23203

新着海外マスター

現代屈指のヴィルトゥオーゾ・ヴァイオリニストであるフランク・ペーター・ツィンマーマン。この録音は彼が19歳の時のものです。その若さで録音した驚愕のパガニーニ「24のカプリース」は、その完璧なテクニクで、曲のショウ・ピース的な側面より、純粋な音楽性が際立っています。まさに天才の記録です。



ラロ：スペイン交響曲 ヴァイオリン協奏曲 第1番

オーギュスタン・デュメイ（ヴァイオリン）
ミシェル・ブラッソン指揮
トゥールーズ・カピトール管弦楽団
●1988/1989年録音
●WPCS-23204

新着海外マスター

情熱と洗練、この2つをどちらに比重がかかることなく均等に併せ持つヴァイオリニスト、デュメイ。フランスに生まれ、3歳でヴァイオリンを手にし、10歳からパリ音楽院に学び13歳で卒業した天才は、後にグリムオーに学び、18歳で本格的デビューを果たしました。この演奏は彼が40歳の頃の澁刻とした快演です。



フランス・ヴァイオリン名曲集

ショーン・詩曲／マズネ：タイスの瞑想曲／ラヴェル：ツィガーン 他
オーギュスタン・デュメイ（ヴァイオリン）
マヌエル・ロザンタール指揮
モンテカルロ・フィルハーモニー管弦楽団
●1984年録音
●WPCS-23205

新着海外マスター

デュメイ35歳の時の録音です。フランスの巨匠ロザンタールの指揮を得て、名曲を美しく、柔らかな音色で繊細に歌い上げる彼のヴァイオリンは、優美でロマンティック。選曲もポピュラーで、ごなたにもお勧めしたい1作です。



モーツァルト：ヴァイオリン協奏曲 第1番 協奏交響曲 K.364

アンネ・ゾフィー・ムター（ヴァイオリン）
ネヴィル・マリナー指揮
アカデミー室内管弦楽団 他
●1991年録音
●WPCS-23206

新着海外マスター

1978年のデビュー盤以来、節目節目にモーツァルトの協奏曲を録音してきているムター。モーツァルトのスペシャリスト、マリナーを伴奏者としたこの録音では、すでにヴェテランの域に達し、のびのびとした風格すら漂わせています。知的でエレガント、品格が漂う素晴らしいモーツァルトです。



モーツァルト：ヴァイオリン協奏曲 第2番&第4番

アンネ・ゾフィー・ムター（ヴァイオリン）
リッカルド・ムーティ指揮
フィルハーモニア管弦楽団
●1981年録音
●WPCS-23207

新着海外マスター

神童モーツァルト19歳の時の曲を演奏する天才ヴァイオリニスト、ムター18歳の時の記録です。ムーティとの共演はステージでも大好評、ロンドンの新聞各紙による絶賛を浴びたもので、演奏会の翌日、翌夕日にアビィ・ロード・スタジオで収録されたのがこのディスク、ここでも絶妙なコンビネーションを示しています。



ブラームス：ヴァイオリン・ソナタ(全曲)

アンネ・ゾフィー・ムター（ヴァイオリン）
アレクシス・ワイセンベルク（ピアノ）
●1982年録音
●WPCS-23208

新着海外マスター

収録当時20歳という若さのムターですが、すでに経験は充分。30歳以上も年上のワイセンベルクのピアノに一歩も引けをとらない弾きっぷりは見事。持ち前の美音とテクニクでひたひたと作品の本質に迫っていく力は、さすがというほかありません。抑制のきいたワイセンベルクのピアノにも注目したい1枚です。



モーツァルト：クラリネット協奏曲 ドビュッシー：狂詩曲 第1番 武満徹：ファンタスマ／カントス

ザビーネ・マイヤー（バセット・クラリネット、クラリネット）
クラウディオ・アバド指揮
ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
●1998年録音
●WPCS-23209

新着海外マスター

世界一のオーケストラをバックに、バセット・クラリネットによる正統的なモーツァルトが演奏されています。マイヤーは「ドイツ式」クラリネットの名手。フランス式が主流の中、ドイツ式の伝統を受け継いだ彼女がドビュッシーや武満の作品をどう吹きこなすか、という興味もあります。もちろん彼女の演奏はファンタスティック!の一言につきます。



**モーツァルト：
クラリネット五重奏曲
ホルン五重奏曲**

ザビーネ・マイヤー（クラリネット）
ウィーン弦楽六重奏団員
●1988年録音
●WPCS-23210

新着海外マスター

マイヤーが最も得意とする作品がこのモーツァルトのクラリネット五重奏曲です。彼女ならではの美音、20代の若さですらこの大傑作を完全に掌中に収めたかのような余裕のある演奏ぶりは、大家の風格さえ感じさせます。カップリングのホルン五重奏曲も、モーツァルトの室内楽の真価が味あえる楽しい作品です。



ウェーバー：クラリネット協奏曲 第1番&第2番、クラリネット小協奏曲

ザビーネ・マイヤー（クラリネット）
ヘルベルト・ブロムシュテット指揮
ドレスデン国立管弦楽団
●1985年録音
●WPCS-23211

新着海外マスター

北ドイツに生まれながらもヨーロッパ中を渡り歩いたウェーバーの作品は、感覚的にも色彩的にもまるで肉厚な響きをもつマイヤーのクラリネットにとって親しみのあるものといえるでしょう。清々しくも安定感のある独特の世界が演出され、ロマンティックな情感に彩られた、実に魅力的な演奏に仕上がっています。

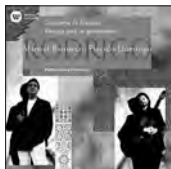


**ブラームス：
クラリネット五重奏曲
弦楽五重奏曲 第2番**

ザビーネ・マイヤー（クラリネット）
アルバン・ベルク四重奏団 他
●1998年録音
●WPCS-23212

新着海外マスター

「4人の男たちと一人の女性～信じがたい陰影」ブラームスの作品がこれほどまでにメロディアスな豊麗さと、細部にいたるまでの精密な正確さをもって実演で聴けることは滅多にない。これは1998年3月5日の「Die Presse」紙の批評です。このディスクはその時のライヴ記録。白熱の演奏をお楽しみください。



ロドリゴ：アランフェス協奏曲／ある貴紳のための幻想曲 他

マヌエル・バルエコ（ギター）
ブランド・ドミンゴ指揮
フィルハーモニー管弦楽団
●1995/1996/1997年録音
●WPCS-23213

新着海外マスター

ギターの名手バルエコの「アランフェス協奏曲」初録音盤。もう一つの名曲「ある貴紳のための幻想曲」をカップリング。さらに指揮はテノールの巨匠ドミンゴ。ドミンゴはバルエコとのデュオで歌も披露し、情感豊かな歌唱で作品全体を盛り上げています。



**サティ：
作品集（10弦ギター用編曲版）
ジムノペディ 第1番&第3番／ジュ・トゥ・ヴ／4つのグノシエンヌ／アンピール座の歌姫／童話音楽のメニュー 他**

ピエール・ラニオ（ギター）
●1982/1987年録音
●WPCS-23214

新着海外マスター

ギターでサティの音楽を表現するのは困難であるという世評に対し、ラニオは6弦ではなく、10弦を張ったギターで挑みました。その結果はこのディスクに示されています。音域を広げることによって新たに感じ取れるようになったサティの世界が、ここでラニオによって紹介されています。



**モーツァルト：歌曲集
春へのあこがれ／希望に寄せて／魔法使い／すみれ／クローエに 他**

バーバラ・ヘンドリクス（ソプラノ）
ミカ・アイケンホルス指揮
ドレスデン国立管弦楽団
●1990年録音
●WPCS-23215

新着海外マスター

モーツァルトの世界にピタリはまりこんでいるヘンドリクス。チャーミングでエレガントな歌唱は、彼女の持ち味であるデリケートな知性に裏打ちされたものでしょう。クールさとひしひしと伝わる抒情性…、まさに所を得た感じで、モーツァルト歌曲の魅力がストレートに表現されています。



**シューベルト：
冬の旅**

イアン・ポストリッジ（テノール）
レイフ・オヴェ・アンスネス（ピアノ）
●2004年録音
●WPCS-23216

新着海外マスター

ポストリッジは自身の音楽歴の節目節目で「冬の旅」を取り上げていました。1997年には映像として記録を残し、2001年来日時にも歌っています。にもかかわらず、ディスクへのレコーディングは行われていませんでした。そして満を持し、永遠の記録として残そうと彼が思ったのがこの2004年の、成熟した「冬の旅」です。



**シューベルト：
美しき水車小屋の娘**

イアン・ポストリッジ（テノール）
内田光子（ピアノ）
●2003年録音
●WPCS-23217

新着海外マスター

ポストリッジと内田光子、この2人の音楽性は、互いに互いを求め合ったものでした。ポストリッジの歌唱は、言葉そのものが語りかけてくるかのような歌です。テキストの背景にあるものに対する眼差しを、常に聴き手に無意識のうちに感じさせる歌唱であるといえるでしょう。雄弁な内田のサポートも絶妙です。

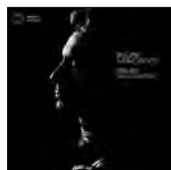


**ブルックナー：
交響曲 第4番
「ロマンティック」（ハース版）**

ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮
ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
●1970年録音
●WPCS-23218

2014年リマスター

第7番との組合わせて1971年度のレコード・アカデミー賞に輝いた名盤。勇壮で大伽藍を思わせる構造に対して、カラヤンはあくまでもナイーブに、かつスコアの細部へ入念な配慮をしながら、音楽の美しさを追求します。



**ブルックナー：
交響曲 第7番（ハース版）**

ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮
ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
●1970/1971年録音
●WPCS-23219

2014年リマスター

第4番との組合わせて発売された際にレコード・アカデミー賞（1971年度）を受賞。カラヤンは独自のスタイルを貫き、ブルックナー演奏にありがちな、どこかに野趣を残した民芸品のような音楽作りではなく、技の限りを尽くした工芸品の香りがする演奏を披露しています。



**フランク：
交響曲 二短調**

ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮
パリ管弦楽団
●1969年録音
●WPCS-23220

2014年リマスター

初代音楽監督であったミュンシュの急逝をうけて、1969年にパリ管弦楽団の音楽顧問に就任したカラヤンと同管の初録音。フランクの交響曲はこれがカラヤン唯一の録音であり、ドイツ流儀の緻密な構成感と官能性を両立させた名演です。



**バルトーク：
管弦楽のための協奏曲**

ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮
ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
●1974年録音
●WPCS-23221

2014年リマスター

カラヤン&ベルリン・フィルによる2度目のバルトーク「管弦楽のための協奏曲」です。カラヤン自身が大変満足していたという内容で、極めて緻密かつ流麗な仕上げが施されています。オーケストラの機能面、音楽的表現、いずれも最高の演奏です。



**バルトーク：弦楽器、打楽器とチェレスタのための音楽
ヒンデミット：交響曲「画家マティス」**

ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮
ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
●1957/1960年録音
●WPCS-23222

2014年リマスター

カラヤン&ベルリン・フィル最初期の録音の一つ。卓越した演奏技術を持つベルリン・フィルを巧みにドライブし、その実力を見事に引き出した定評ある名演です。特に「画家マティス」はこれがカラヤン唯一のセッション録音。バルトークともどもカラヤンの卓越した演出力が光ります。



**美しく青きドナウ
～J.シュトラウス二世
名曲集
「こうもり」序曲／アンネン・ポルカ 他**

ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮
ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
●1975年録音
●WPCS-23223

2014年リマスター

1975年録音の「ヨハン・シュトラウス二世の音楽集」。帝王とベルリン・フィルのコラボレーションが最高潮に達した時期のシンフォニックな美演です。序曲、ワルツ、ポルカと変化に富んだ選曲を絶妙な語り口と素晴らしい技量で一気にも聴かせます。



**ハイドン：交響曲
第101番「時計」
第83番「めんどり」**

ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮
ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
●1971年録音
●WPCS-23224

2014年リマスター

カラヤンのハイドンは、昨今流行のピリオド楽器での演奏とは対極にあるかのような豊麗なものです。ベルリン・フィルの磨き抜かれた響きを生かして、各作品の個性と魅力をニュアンス美しく再現し、格調高い演奏を披露しています。



**ブラームス：
交響曲 第1番
ハイドンの主題による変奏曲 他**

ヴィルヘルム・フルトヴェングラー指揮
ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団
●1949/1952年録音
●WPCS-23225

2010年リマスター

大河の流れを思わせるかのような悠然とした、フルトヴェングラーならではのブラームスです。とくに第1楽章、第4楽章の劇的な盛り上がりは感動的。フルトヴェングラー特有のタクトの魔力が遺憾なく発揮された演奏です。



**ブラームス：
交響曲
第2番&第3番**

ヴィルヘルム・フルトヴェングラー指揮
ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
●1949/1952年録音
●WPCS-23226 **2010年リマスター**

ベルリン・フィルとの第2番は作品の明るさと抒情性を保ちながら、スケールの大きな演奏が展開されています。第4楽章の抑えられた表情が燃焼するときの激しさ、第3番第3楽章のえも言われぬ憂愁、いずれもフルトヴェングラーならではのと言えます。



**ブラームス：交響曲 第4番
ベートーヴェン：「コリオラン」序曲
／「レオノーレ」序曲 第2番**

ヴィルヘルム・フルトヴェングラー指揮
ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団
●1947/1948/1954年録音
●WPCS-23227 **2010年リマスター**

第4番全曲にみなぎる緊張感と豊かな情感の高まりなど、フルトヴェングラーの素晴らしいところがここに凝縮されています。ブラームス表現の極とも言えるほど、大胆で情熱的、かつ圧倒的な高揚感が生まれています。ベートーヴェンの2曲も秀逸。



**ワーグナー：管弦楽曲集 第1集
「タンホイザー」序曲／「ローエングリン」第1幕への前奏曲
／ワルキューレの騎行／ジークフリートのラインへの旅他**

キルステン・フラグスタート(ソプラノ)
ヴィルヘルム・フルトヴェングラー指揮
ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団
フィルハーモニア管弦楽団
●1949/1952/1954年録音
●WPCS-23228 **2010年リマスター**

ワーグナーとフルトヴェングラーの組合せによってのみみ出される演奏の魔力が、この1枚に凝縮されています。ワーグナーの音楽が持つ魔力が深い情念と世界観によって表出され、強烈なエネルギーの塊となっています。



**ワーグナー：管弦楽曲集 第2集
「さまよえるオランダ人」序曲／「トリスタンとイゾルデ」前奏曲と愛の死
／「ニュルンベルクのマイスタージンガー」第1幕への前奏曲他**

ヴィルヘルム・フルトヴェングラー指揮
ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団 他
●1938/1949/1950年録音
●WPCS-23229 **2010年リマスター**

途方もないスケールの大きさ、ロマン的な濃厚な色彩感、これらはもう現代では耳にすることが出来ない要素でしょう。人間の心の奥からふつふつと湧き上がるかのような情念の深さ、大きさはまた、ワーグナー音楽の中核をなすものとも言えるかも知れません。



**ワーグナー：管弦楽曲集 第1集
「リエッツィ」序曲／「さまよえるオランダ人」序曲／「タンホイザー」序曲
／「ローエングリン」第1幕への前奏曲**

オットー・クレンペラー指揮
フィルハーモニア管弦楽団
●1960年録音
●WPCS-23230 **2012年リマスター**

クレンペラーのワーグナーには、雄大なスケール感にただならぬ演奏芸術の偉大さを感じさせる「凄み」が宿っています。作品と対峙する姿勢が他の指揮者とは次元が異なり、序曲だけを聴いてもその崇高さは桁違いです。



**ワーグナー：管弦楽曲集 第2集
「ローエングリン」第3幕への前奏曲
／「ニュルンベルクのマイスタージンガー」第1幕への前奏曲
／「トリスタンとイゾルデ」第1幕への前奏曲と愛の死 他**

オットー・クレンペラー指揮
フィルハーモニア管弦楽団
●1960年録音
●WPCS-23231 **2012年リマスター**

広い視野で作品をとらえ、オーケストラをとことんまで鳴らし切った、凄みのあるワーグナー管弦楽曲集です。「マイスタージンガー」の一節からだけでもそれが窺えるでしょう。巨匠ならではのスケール感が堪能できます。



**ワーグナー：管弦楽曲集 第3集
「ラインの黄金」～ヴァルハラ城への神々の入城
／「ワルキューレ」～ワルキューレの騎行 他**

オットー・クレンペラー指揮
フィルハーモニア管弦楽団
●1960/1961年録音
●WPCS-23232 **2012年リマスター**

寸分の揺るぎもない重厚な演奏で、そのずっしりとした重みのある歩みは、クレンペラーらしくまさに巨人、巨匠の趣があります。これが本当のワーグナーと声を大にして叫びたい衝動にもかられる、晩年のクレンペラーによる貴重な記録です。



**マーラー：
交響曲 第2番「復活」**

エリーザベト・シュヴァルツコップ(ソプラノ)
ヒルデ・レSSLル=マイダ(メゾ・ソプラノ)
オットー・クレンペラー指揮
フィルハーモニア管弦楽団 他
●1961/1962年録音
●WPCS-23233 **2012年リマスター**

「復活」という作品が要求する器量の大きさに一歩も引かない、クレンペラーの音楽家としての圧倒的なスケールが強い印象を与えます。マーラー音楽に対する深い理解を根底に生まれる熱い共感。20世紀の大巨匠ならではの世界です。



**マーラー：
交響曲 第4番**

エリーザベト・シュヴァルツコップ(ソプラノ)
オットー・クレンペラー指揮
フィルハーモニア管弦楽団
●1961年録音
●WPCS-23234 **2012年リマスター**

クレンペラーにとってマーラーは悪人でもあり、最も重要な作曲家の一人でもありました。交響曲第4番は、簡素な外観にマーラーが多層的な意味を込めた一筋縄ではいかない作品ですが、クレンペラーは遅いテンポで音符を一つ一つ噛みしめ、安らぎの中に秘められた皮肉を見事に表出しています。



**マーラー：
交響曲 第7番「夜の歌」**

オットー・クレンペラー指揮
ニュー・フィルハーモニア管弦楽団
●1968年録音
●WPCS-23235/6 **2CDs 2011年リマスター**

異形とも言われるこの交響曲第7番をクレンペラーは自由自在に、大胆に構築し、この作品に隠された数々の側面に気づかせてくれます。聴けば聴くほどに、クレンペラーの凄さが再確認できる演奏です。



**マーラー：
交響曲 第9番**

オットー・クレンペラー指揮
ニュー・フィルハーモニア管弦楽団
●1967年録音
●WPCS-23237/8 **2CDs 2012年リマスター**

この交響曲の本質が「去りゆくもの美学」だとすれば、クレンペラーはその事実を余すところなく、ここでの演奏で表現してくれています。逃れようもない事実をそのままの形で受け止めようとする潔さ。きりりと筋の通った名演です。



**ベートーヴェン：
交響曲
第1番&第8番**

オットー・クレンペラー指揮
フィルハーモニア管弦楽団
●1957年録音
●WPCS-23239 **2012年リマスター**

若きベートーヴェンの意欲が充滿した第1番、そしてギョッと凝縮された美を聴かせる第8番。いずれもベートーヴェンの交響曲中では比較的地味な存在ですが、クレンペラーは一切の妥協を排し、作品の真の姿と向き合っています。



**ベートーヴェン：
交響曲 第2番
「コリオラン」序曲
／「プロメテウスの創造物」序曲**

オットー・クレンペラー指揮
フィルハーモニア管弦楽団
●1957年録音
●WPCS-23240 **2012年リマスター**

「第2番」はクレンペラー一流の、一見無骨なようでいて隅々にまで意志の通った演奏。構えの大きさ、響きの濃厚さがにじみ出てきます。2曲の序曲も交響曲に劣らず堅固に構築された、ずっしりとした手応えの確かな内容です。



**ベートーヴェン：
交響曲 第3番「英雄」**

オットー・クレンペラー指揮
フィルハーモニア管弦楽団
●1959年録音
●WPCS-23241 **2012年リマスター**

「英雄」は、クレンペラーの代表的録音のひとつであり、この曲の最も偉大な演奏のひとつとしてもつとに名高い演奏です。どっしりとした低音が曲全体を支え、悠揚迫らぬテンポが雄大なスケール感を生んでいます。



**ベートーヴェン：
交響曲 第4番
「献堂式」序曲**

オットー・クレンペラー指揮
フィルハーモニア管弦楽団
●1957/1959年録音
●WPCS-23242 **2012年リマスター**

クレンペラーならではの巨大で重厚な響きはときに「流麗」「繊細」という表現が使われる「第4番」でも変わらず、この交響曲の持つ意外な一面をもあらわにするかのようです。「献堂式」序曲にもクレンペラーの特質がよく表れています。



**ベートーヴェン：
交響曲 第5番「運命」
「シュテファン王」序曲**

オットー・クレンペラー指揮
フィルハーモニア管弦楽団
●1959年録音
●WPCS-23243 **2012年リマスター**

「運命」は、今や誰もなし得ないほど巨大なスケールの世界を作り上げている、唯一無二の大演奏。曲の個性もベートーヴェンの個性も全く損なわれない、クレンペラーにしかできない至宝です。「シュテファン王」序曲も同様に雄大な演奏です。



ベートーヴェン： 交響曲 第6番「田園」

オットー・クレンペラー指揮
フィルハーモニア管弦楽団

●1957年録音
●WPCS-23244

2012年リマスター

近年の「田園」の演奏からは予想もつかない、ゆったり、どっしりとしたテンポでの演奏です。収録当時もそのテンポ設定に対し、スタッフから疑問符が付けられたという逸話は有名。しかしむしろこの「遅さ」こそがかけがえのない個性として耳に、胸に残ります。



ベートーヴェン： 交響曲 第7番

オットー・クレンペラー指揮
フィルハーモニア管弦楽団

●1960年録音
●WPCS-23245

2012年リマスター

クレンペラーはベートーヴェンの「第7番」を都合3度録音していますが、これは2回目のもの。遅めのテンポですが、決して推進力を損なうことなく、むしろ少しずつ感興が盛り上がってくるかのような確実な歩の進め方が、圧倒的な感銘を与えます。



ベートーヴェン： 交響曲 第9番「合唱」 劇音楽「エグモント」(抜粋)

オットー・クレンペラー指揮
フィルハーモニア管弦楽団 他

●1957年録音
●WPCS-23246/7 2CDs 2012年リマスター

柔軟さや外見上のスタイリッシュさには目を背け、ベートーヴェンの本質のみにひたすら近づいていこうとするかのような、不器用なまでの演奏。それがクレンペラーによるベートーヴェン演奏の特徴と言えます。「第9」はその総決算です。



シューマン： 交響曲 第1番「春」&第4番

ヴォルフガング・サヴァリッシュ指揮
ドレスデン国立管弦楽団

●1972年録音
●WPCS-23248

2011年リマスター

サヴァリッシュにとってシューマンはまさに十八番。名門オーケストラをサヴァリッシュが巧みに操りながらシューマンの本質に迫る、玄人好みの演奏です。作品の持つ若々しさと鬨りを清冽な音のうねりで表現し、丁寧に音を紡いでいます。



シューマン： 交響曲 第2番 序曲、スケルツォとフィナーレ

ヴォルフガング・サヴァリッシュ指揮
ドレスデン国立管弦楽団

●1972年録音
●WPCS-23249

2011年リマスター

名門オーケストラから柔らかく厚みのある響きを引き出すサヴァリッシュの音楽は、まさにシューマンに打ってつけ。メリハリがしっかりとついて明快であり、かつ知的で整然とした仕上げが、この第2番で見事な効果を上げています。



シューマン： 交響曲 第3番「ライン」 「マンフレッド」序曲

ヴォルフガング・サヴァリッシュ指揮
ドレスデン国立管弦楽団

●1972年録音
●WPCS-23250

2011年リマスター

サヴァリッシュの堂々と格調が高い演奏は、まず音楽の骨格が確かであり、同時にロマンの香りが馥郁と立ち上っているところが魅力のポイントでしょう。堂々とした押し出しとロマン性の両立した「ライン」にまさにびったりです。



ブラームス： 交響曲 第1番

ジョン・バルビローリ指揮
ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団

●1967年録音
●WPCS-23251

2012年リマスター

まったく作感が感じられない、自然な流れに身をまかせた安定感のある演奏です。ウィーン・フィルもそうしたバルビローリの意図を理解し、実にしなやかな表現と響きで対応しています。たっぷり音楽に浸れる喜びに満ちたブラームスの「第1番」です。



ブラームス： 交響曲 第2番 悲劇的序曲

ジョン・バルビローリ指揮
ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団

●1966/1967年録音
●WPCS-23252

2012年リマスター

ブラームスの数多い「第2番」の録音のうち「最も美しい」とされているのが、このバルビローリとウィーン・フィルによるディスクです。瑞々しく、しなやかに豊かに歌う演奏は、まさにバルビローリならではの、真にロマンティックな演奏です。



ブラームス： 交響曲 第3番 ハイドンの主題による変奏曲

ジョン・バルビローリ指揮
ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団

●1967年録音
●WPCS-23253

2012年リマスター

じっくりとしたテンポと表現で、ブラームスの陰影を深く描き切った演奏です。現代的な演奏とは一線を画した、バルビローリならではの風合いはまさに独特。「ハイドンの主題による変奏曲」も円熟味溢れた名演です。



ブラームス： 交響曲 第4番 大学祝典序曲

ジョン・バルビローリ指揮
ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団

●1966/1967年録音
●WPCS-23254

2012年リマスター

音楽を、そして人生を深く歩きぬいた人だけが到達できると感じさせる、自然体で味わい深い、滋味に溢れたブラームスです。バルビローリの指揮に熱く対応するウィーン・フィルも、極上のアンサンブルを披露しています。



シベリウス： 交響曲 第1番 組曲「ペレアスと メリザンド」より(抜粋)

ジョン・バルビローリ指揮
ハレ管弦楽団

●1966/1967年録音
●WPCS-23255

2012年リマスター

民族主義的な語法も取り入れた、メロディアスなシベリウスの最初の交響曲を、バルビローリは溢れんばかりのリズムで心優しく歌い上げています。シベリウスのイメージを忠実に再現した、北歐的な哀感の表出も見事です。



シベリウス： 交響曲 第2番 トゥオネラの白鳥

ジョン・バルビローリ指揮
ハレ管弦楽団

●1966年録音
●WPCS-23256

2012年リマスター

シベリウス作品を演奏するときに一つのテーマとなる、遅しく雄大な構築性と、無限とも言える幻想性。この相反する2つの要素を、バルビローリは懐深く見事に一体化させ、充実した演奏を繰り広げています。



シベリウス： 交響曲 第3番&第6番

ジョン・バルビローリ指揮
ハレ管弦楽団

●1969/1970年録音
●WPCS-23257

2012年リマスター

濃厚なロマンティシズムと哀愁漂う抒情性。北歐の澄んだ空気と雄大な地平を思い浮かべせる演奏です。全体を通して一貫した流れが音楽を支配し、連続とした波のうねりが押し寄せてくる、バルビローリならではのシベリウスです。



シベリウス： 交響曲 第4番 組曲「恋人」／ロマンス

ジョン・バルビローリ指揮
ハレ管弦楽団

●1969年録音
●WPCS-23258

2012年リマスター

バルビローリのシベリウスはあくまで作曲家の意図を正確に伝えることを第一義としています。この神秘感溢れる「第4番」もまた、シベリウスの内なる心情が明確にリスナーに伝わってくる、味わい深い演奏になっています。



シベリウス： 交響曲 第5番&第7番

ジョン・バルビローリ指揮
ハレ管弦楽団

●1966年録音
●WPCS-23259

2012年リマスター

冒頭から牧歌的な雰囲気溢れ、全曲を通して北歐の壮大な自然を感じさせる第5番。シベリウスらしい、深い幻想味を湛えた第7番。バルビローリの指揮は過度に分析的にならず、溢れ出る感性と情感が魅力的です。



ショスタコーヴィチ： 交響曲 第4番

アンドレ・プレヴィン指揮
シカゴ交響楽団

●1977年録音
●WPCS-23260

新着海外マスター

プレヴィンとシカゴ響という組み合わせも話題となったショスタコーヴィチの「第4番」です。プレヴィンは名人揃いであるシカゴ響の実力・威力を損なうことなく、作品の多層的な表情を浮かび上げさせることに成功しています。



ショスタコーヴィチ： 交響曲 第5番

アンドレ・プレヴィン指揮
シカゴ交響楽団
●1977年録音
●WPCS-23261

新着海外マスター

シカゴ響の優れた機能をふんだんに活用した、耳にとても心地よい演奏です。ダイナミズムにも不足せず、アンサンブルの精度も極上。しかも豊かで充実したサウンドに仕上げたあたりに、プレヴィンの確かな実力が示されています。



ショスタコーヴィチ： 交響曲 第13番「バビ・ヤール」

ディミテル・ペトコフ(バス)
アンドレ・プレヴィン指揮
ロンドン交響楽団 他
●1979年録音
●WPCS-23265

新着海外マスター

プレヴィンの隠れた名盤。1941年に起こったユダヤ人虐殺事件を扱い、当時のソヴィエトで問題作となったこの交響曲を、プレヴィンは明快に描き出すことに成功しています。バスのペトコフ、ヒコックス指揮の合唱も高水準。



ラフマニノフ： 交響曲 第1番

アンドレ・プレヴィン指揮
ロンドン交響楽団
●1975年録音
●WPCS-23269

新着海外マスター

それまで知名度も評価も上がらなかったラフマニノフの交響曲を、広く世に紹介した定評ある全集からの1枚。若き日のラフマニノフの野心作であるこの「第1番」を、プレヴィンは丁寧に解さほぐし、魅力たっぷりに提示してくれます。



プロコフィエフ：ピーターと狼 ブリテン：青少年のための 管弦楽入門

ミア・ファーロー(ナレーション)
アンドレ・プレヴィン(指揮&ナレーション)
ロンドン交響楽団
●1973年録音
●WPCS-23273

少年少女の入門用というだけでなく、純粋な鑑賞音楽としても実に巧みに作られた名アルバムです。「青少年のための管弦楽入門」では指揮者プレヴィン自らのナレーション、「ピーターと狼」は当時の奥方、女優ミア・ファーローがナレーションを担当。録音も優秀です。



ショスタコーヴィチ： 交響曲 第6番 プロコフィエフ： 組曲「キージェ中尉」

アンドレ・プレヴィン指揮
ロンドン交響楽団
●1973/1974年録音
●WPCS-23262

新着海外マスター

音色感、息の長い抒情性などの面でもロシア音楽に高い適性を示す、プレヴィンとロンドン響の名演です。ロシア音楽への理解に加えて、プレヴィン自身が持つ近代的な感覚がこの交響曲の魅力さをさらに際立っています。



チャイコフスキー：序曲 「1812年」／スラヴ行進曲 ／幻想序曲「ロメオとジュリエット」

アンドレ・プレヴィン指揮
ロンドン交響楽団
●1972年録音
●WPCS-23266

新着海外マスター

ロシアの風土に愛着を持ちながら西欧文化への憧憬を持っていたチャイコフスキー、一方、西欧音楽に溶け込みながらロシアの風土を的確に理解していたプレヴィン。この二者の邂逅により生まれたのがこの類い希な管弦楽曲集です。



ラフマニノフ： 交響曲 第3番 歌劇「アレコ」より間奏曲、 女たちの踊り

アンドレ・プレヴィン指揮
ロンドン交響楽団
●1976年録音
●WPCS-23270

新着海外マスター

祖国ロシアへの忘れがたい想いと西欧のエッセンスが両立するところに、ラフマニノフ晩年の、最後の交響曲である「第3番」の魅力は潜んでいます。プレヴィンはそうした作曲者の心情を見事に把握し、複雑な内面を表現しています。



ラヴェル： マ・メール・ロワ 高雅にして感傷的な円舞曲

アンドレ・クリュイタンス指揮
パリ音楽院管弦楽団
●1962年録音
●WPCS-23274

2011年リマスター

ラヴェルが自作のピアノ曲をオーケストラ用に編曲した2曲のカップリング。「マ・メール・ロワ」での目のつんだ優しい響き、「高雅にして感傷的な円舞曲」での絶妙な気品、いずれも「本物のラヴェル」が存分に味わえます。



ショスタコーヴィチ： 交響曲 第8番

アンドレ・プレヴィン指揮
ロンドン交響楽団
●1973年録音
●WPCS-23263

新着海外マスター

プレヴィンがここで目指したのは作品の持つ響きの面白さの表現です。極小の響きの断片が微細に色彩感と明暗を変えていくその手腕は絶妙で、聴き応え充分。特に第4楽章は入魂の名演。圧倒的な第5楽章も聴きものです。

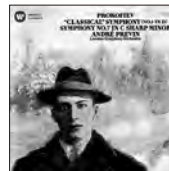


ラフマニノフ：合唱交響曲 「鐘」／ヴォカリーズ

シーラ・アームストロング(ソプラノ)、ロバート・ティアア(テノール)、ジョン・シャリー＝クーク(バリトン)
アンドレ・プレヴィン指揮
ロンドン交響楽団 他
●1975年録音
●WPCS-23267

新着海外マスター

エドガー・アラン・ポーの詩に触発されて作曲したとされる「鐘」。ラフマニノフにとっては第2交響曲に次ぐ大作で、独唱と合唱を伴う大編成の声楽曲です。ラフマニノフを得意とするプレヴィンの、鮮やかな音楽作りが光ります。



プロコフィエフ： 交響曲 第1番「古典」&第7番

アンドレ・プレヴィン指揮
ロンドン交響楽団
●1977年録音
●WPCS-23271

プレヴィン／ロンドン響のコンビが最高の成果を残していた時期に収録された名演です。火花を散らすような速い楽章の切れ味、そこに醸し出されるプロコフィエフ独特のアイロニー。ロシア音楽への確かな共感が躍動する音楽の中で語られます。



ラヴェル： ダフニスとクロエ(全曲)

アンドレ・クリュイタンス指揮
パリ音楽院管弦楽団
ルネ・デュクロ合唱団
●1962年録音
●WPCS-23275

2011年リマスター

ラヴェルといえばクリュイタンス、とされるほど、収録から半世紀以上の歳月を経た現在でも最高位にランクされる名演。しなやかで繊細なニュアンス、精妙で瑞々しい感性に満ちた響きは、いつ聴いても時代を超越した官能の世界を提示してくれます。



ショスタコーヴィチ： 交響曲 第10番

アンドレ・プレヴィン指揮
ロンドン交響楽団
●1982年録音
●WPCS-23264

新着海外マスター

迫力や勢いだけでは乗り切ることのできない、深いテーマを内に秘めたショスタコーヴィチの「第10番」ですが、そこはさすが実力者プレヴィン。気心の知れたロンドン響とともに、極めて精度の高い譜読みをベースに、ショスタコーヴィチの本質に迫ります。



ラフマニノフ： 死の島 交響的舞曲

アンドレ・プレヴィン指揮
ロンドン交響楽団
●1974/1975年録音
●WPCS-23268

新着海外マスター

スイス生まれの画家ベックリンの絵画に接した印象に基づいて作られた「死の島」。この一種怪奇趣味的な内容を、プレヴィンは巧みに描写していきます。ラフマニノフ最後の作品である「交響的舞曲」も、格調を損なうことのない佳演です。



プロコフィエフ： 交響曲 第5番

アンドレ・プレヴィン指揮
ロンドン交響楽団
●1974年録音
●WPCS-23272

プレヴィンのロシア作品への適性は、彼を評価する上で大きなポイントとなっています。プロコフィエフの演奏では特に抒情性と作品の根底にある躍動感の表現が素晴らしい、ここでも音色の確かさを含め、作品の本質を見事に突いています。



ラヴェル：クーブランの墓／ 古風なメヌエット／道化師の 朝の歌／海原の小舟／亡き 女王のためのパヴァーヌ

アンドレ・クリュイタンス指揮
パリ音楽院管弦楽団
●1962年録音
●WPCS-23276

2010年リマスター

抑制をきかせながらも彩り豊かに、かつ明るさを湛えながら、精妙極まりない演奏で描き上げる、クリュイタンスとパリ音楽院管弦楽団。洗練され、気品に満ちた世界は他に類を見ません。巨匠の真髄を最もよく味わうことのできる演奏です。



**ビゼー：
「アルルの女」組曲
第1番&第2番
「カルメン」組曲**

アンドレ・クリュイタンス指揮
パリ音楽院管弦楽団
●1964年録音
●WPCS-23277

2010年リマスター

やや遅めのテンポで丹念に仕上げた「アルルの女」。舞台となったのかなプロヴァンスの雰囲気の色濃く表現した、永遠に光を失うことのない歴史的な名演奏です。南欧の香り豊かなビゼーならではの色彩感が格調高く引き出されています。



**ブルックナー：
交響曲 第9番（ノーヴァク版）**

カルロ・マリア・ジュリーニ指揮
シカゴ交響楽団
●1976年録音
●WPCS-23278

完璧主義者ジュリーニの理想はスコアを整ったアンサンブルで表現し、音楽的な真実を歌うこと。そうした彼の主張が明確に示された演奏がここに展開されています。第3楽章コーダを頂点として、内面的な深さと歌に溢れたブルックナーです。



**ベルリオーズ：
劇的交響曲「ロメオと
ジュリエット」(抜粋)**

カルロ・マリア・ジュリーニ指揮
シカゴ交響楽団
●1969年録音
●WPCS-23279

引き締まったアンサンブルを駆使し、若々しく躍動的な演奏を繰り広げるベルリオーズ。この時期のジュリーニは晩年の大河を思わせるようなスタイルではなく、スッキリとスタイリッシュな中に、燃えるような情熱をもさらけ出し、作品の持つ劇性を見事に表現しています。



**フランク：
交響曲 二短調
交響詩「呪われた狩人」**

リカルド・ムーティ指揮
フィラデルフィア管弦楽団
●1981年録音
●WPCS-23280

内面的な深さが要求されるこの交響曲に対し、ムーティはフィラデルフィア管の魅惑的なサウンドを駆使しながら、丁寧に作品の本質リスナーに提示しています。「呪われた狩人」も、事ながらアンサンブルで説得力の強い表現を達成しています。



**バルトーク：
管弦楽のための協奏曲
弦楽器、打楽器と
チェレスタのための音楽**

マリス・ヤンソンス指揮
オスロ・フィルハーモニー管弦楽団
●1990年録音
●WPCS-23281

マリス・ヤンソンスが就任して以来、急激に評価を高めていったオスロ・フィル。気鋭のオーケストラとそれを鍛え上げた指揮者の成果は、オーケストラの技術、機能が最大限に発揮されるこのバルトークの2曲で存分に確認できます。



**ドヴォルザーク：
交響曲 第5番
スケルツォ・カプリチオーソ
「オテロ」序曲**

マリス・ヤンソンス指揮
オスロ・フィルハーモニー管弦楽団
●1989年録音
●WPCS-23282

穏健な表現により、ドヴォルザークのまだ完熟しきっていないこの交響曲をヤンソンスは見事な芸術作品へと昇華させています。手兵オスロ・フィルとのコラボレーションも最高。カップリングされている2曲も絶品の仕上がります。



**ドヴォルザーク：
交響曲
第7番&第8番**

マリス・ヤンソンス指揮
オスロ・フィルハーモニー管弦楽団
●1992年録音
●WPCS-23283

ヤンソンスが最も信頼していたオスロ・フィルと絶妙なアンサンブルを聴かせるドヴォルザークです。澄み切ったピアノニッシモから豪快なフォルティッシモまで、充実したオーケストラの演奏がたっぷり楽しめます。



**ドヴォルザーク：
交響曲 第9番「新世界より」
スメタナ：モルダウ**

マリス・ヤンソンス指揮
オスロ・フィルハーモニー管弦楽団
●1988年録音
●WPCS-23284

スピード感と迫力を保ちながらも、メロディアスに歌い上げた感覚的にも新しい「新世界より」です。美演と称されるに相応しい繊細さも横溢する「モルダウ」とともに、生氣あふれるヤンソンス&オスロ・フィルによる快演です。



**フォーレ：
管弦楽曲集 第1集
ペレアスとメリザンド/マスクとベル
ガマスク/シャイロック**

ミシェル・ブラッソン指揮
トゥールーズ・カピートル管弦楽団 他
●1965年録音
●WPCS-23285

原曲に忠実に、声楽を加えて再現した管弦楽作品集です。フォーレの音楽に最も必要なのは、フランスものに特有の繊細な感性。フランスで生まれ、自国の音楽を積極的に演奏し続けているブラッソンはまさにフォーレに打ってつけの指揮者です。



**フォーレ：
管弦楽曲集 第2集
バラード/ファンタジー/エレジー/魔
人/カリギュラ/「ベネロ」前奏曲**

ミシェル・ブラッソン指揮
トゥールーズ・カピートル管弦楽団 他
●1979/1980年録音
●WPCS-23286

フォーレ・ファンにとってかけがえのない贈り物がこのブラッソンの演奏です。フランスものを手がけて現在随一と言われている指揮者と、彼が育て上げたフランスのオーケストラによる生粋のフランス音楽がここにあります。



**サン＝サーンス：
交響曲 第3番「オルガン付き」
糸杉と月桂樹**

マティアス・エザンベール(オルガン)
ミシェル・ブラッソン指揮
トゥールーズ・カピートル管弦楽団
●1995年録音
●WPCS-23287

「オルガン付き」と「糸杉と月桂樹」、ともにオルガンを伴う管弦楽作品です。いずれもサン＝サーンスの職人技的な作曲技法がもたらす色彩感が素晴らしい、ブラッソンはそのエッセンスを余すところなく引き出しています。



**ショパン：
ピアノ協奏曲 第1番**

サンソン・フランソワ(ピアノ)
ルイ・フレモイ指揮
モンテ・カルロ国立歌劇場管弦楽団
●1965年録音
●WPCS-23288

2010年リマスター

録音から半世紀が経過しているにもかかわらず、まだまだ同曲ベストに挙げられることも多い、フランソワ不滅の名演です。自在奔放、限りなく個人的に魅力的な演奏。稀有な天才の「瞬間の美」が結晶化した演奏です。



**ショパン：
ピアノ協奏曲 第2番
2台のピアノのためのロンド**

サンソン・フランソワ、ピエール・バルビゼ(ピアノ)
ルイ・フレモイ指揮
モンテ・カルロ国立歌劇場管弦楽団
●1965年録音
●WPCS-23289

2010年リマスター

ほぼ同時に収録されたピアノ協奏曲第1番同様、今も語り継がれるフランソワの代表的な録音の一つです。「幻想の天才ピアニスト」と謳われたその特質を遺憾なく発揮した演奏で、奔放な中にもショパンの詩情を表出した絶妙な演奏が展開されます。



**ショパン：
24の前奏曲
4つの即興曲**

サンソン・フランソワ(ピアノ)
●1957/1959年録音
●WPCS-23290

2010年リマスター

ショパンは「前奏曲集」において、多彩で多様な響きを作り上げています。そうした作品に対し演奏家に求められるのは「ポエジー」。情熱的なだけでなく誰よりも個性的な側面を見せるフランソワの、最高の瞬間がここにあります。



**ショパン：
ワルツ集 (14曲)**

サンソン・フランソワ(ピアノ)
●1963年録音
●WPCS-23291

2010年リマスター

フランソワだけに認められていた音楽の主観性、主情性が最高レベルで全面に押し出されたのがこの「ワルツ集」でしょう。過剰とさえ言えるルバートをはじめとする型破りなスタイルこそ、20世紀芸術の粋。豊かな幻想の世界に戯れる名演です。



**ショパン：
バラード&スケルツォ集**

サンソン・フランソワ(ピアノ)
●1954/1955年録音
●WPCS-23292

2010年リマスター

フランソワならではの感興に満ちたショパンの世界。その天才的な閃きとファンタジーは全くフランソワ独自のものです。バラード、スケルツォともに、美しく儂いショパンの世界が詩情豊かに表現されていきます。



**ショパン：
ポロネーズ集**
幻想曲／タランテラ／舟歌

サンソン・フランソワ (ピアノ)
●1966/1968/1969年録音
●WPCS-23293/4 2CDs 2010年リマスター

独得のルバートやアクセントを駆使した歌い回しを多用しながら、個性的なアプローチをするフランソワのショパン。自在な閃きや豊かなファンタジーの発露により、フランソワだけに可能なショパンが展開されています。



**ショパン：
夜想曲集 (19曲)**

サンソン・フランソワ (ピアノ)
●1966年録音
●WPCS-23295/6 2CDs 2010年リマスター

「夜想曲」のロマンティックな世界に、フランソワがその個性で真っ向から向かい合った名演です。あくまでも自らの感性を優先しながらも、作品の本質に挑むフランソワ。彼こそワン・アンド・オンリーの芸術家です。



**ショパン：
練習曲集 作品10&25**
3つの新しい練習曲

サンソン・フランソワ (ピアノ)
●1958/1959/1966年録音
●WPCS-23297 2010年リマスター

ピアノを弾く詩人とも評されたフランソワ。彼にもっともフィットしたのがショパンの演奏でした。本能的、直感的とも言われ、興に乗ったときの素晴らしいは他に類を見ないもの。絶頂時の希有の一作です。



**主よ、人の望みの喜びよ
～バッハ名曲集**

主よ、人の望みの喜びよ／シチリアーノ／シャコンヌ／トッカータとフーガ他

アレクシス・ワイセンベルク (ピアノ)
●1972/1973年録音
●WPCS-23298 新着海外マスター

ブゾーニヤリストの手になる、様々な楽器のためのバッハ作品をピアノ用にアレンジした名曲集です。鋭利な刃物を思わせるタッチ、迷いのない表現から生まれる素晴らしい透明度の高いバッハ。涼風が吹くような清々しい演奏です。



**ショパン：
夜想曲 (全21曲)**

アレクシス・ワイセンベルク (ピアノ)
●1968/1969年録音
●WPCS-23299/300 2CDs

明快で美しく、力強いタッチで独特の爽快感を生みだしていたワイセンベルク全盛期の録音です。これ以上あり得ないようなクリスタルな表現により、ショパンの「夜想曲」が持つ思いもしないような抒情性が明らかにされて行きます。



**ムソルグスキー：
展覧会の絵**
ラヴェル：
クーブランの墓

アレクシス・ワイセンベルク (ピアノ)
●1971/1972年録音
●WPCS-23301 新着海外マスター

超絶的な技巧と鋼のような音色。ワイセンベルクは60年代中頃、他の追随を許さない絶対的存在のピアニストとして、クラシック界に君臨していました。そうした彼の実力を確認するのに相応しい録音がこれ。まさに完璧な演奏です。



**プロコフィエフ：
ピアノ協奏曲 第3番**
ラヴェル：
ピアノ協奏曲

アレクシス・ワイセンベルク (ピアノ)
小澤征爾指揮
バリ管弦楽団
●1970年録音
●WPCS-23302

ワイセンベルクと小澤の唯一の共演盤。しかもワイセンベルクにとってこの2曲は他に録音していないという点でも貴重なもの。ひとつの銜いもたず、曲の持つ求心力に沿いながら音楽を奏でていく両者の演奏が魅力的です。



**プロコフィエフ：
ピアノ協奏曲全集**
束の間の幻影 他

ミシェル・ペロフ (ピアノ)
クルト・マズア指揮
ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団
●1974/1981年録音
●WPCS-23303/4 2CDs

プロコフィエフの5つの協奏曲はどれも超絶技巧を必要とする難曲。しかしペロフはそうした作品を難く弾きこなす、なおかつプロコフィエフ独自の心理と作曲理念の表現にも的確に対峙した、素晴らしい演奏を展開しています。



**モーツァルト：
ピアノ協奏曲**
第5番&
第9番「ジュノーム」

ダニエル・バレンボイム (ピアノ&指揮)
イギリス室内管弦楽団
●1967/1969年録音
●WPCS-23305 新着海外マスター

ピアニストとしても指揮者としても、バレンボイムの才能を強く印象つけた「弾き振り」によるモーツァルトのピアノ協奏曲全集からの1枚です。弾き振りのメリットが遺憾なく発揮され、ピアノとオーケストラが極めて自然にブレンドされています。



**ブラームス：
ピアノ協奏曲**
第1番/2つの歌曲 作品91

ステイヴン・コヴァセヴィッチ (ピアノ)
アン・マレイ (メゾ・ソプラノ)、今井信子 (ヴィオラ)
ヴォルフガング・サヴァリッシュ指揮
ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団
●1991/1992年録音
●WPCS-23306

叙情派ピアニストとして知られるコヴァセヴィッチが得意とする、ブラームスのピアノ協奏曲第1番。50歳を越えて一層のコクが増した演奏は、ブラームスの情熱や抒情にピタリと寄り添い、深い余韻を残します。



**ブラームス：
ピアノ協奏曲 第2番**
5つの歌曲 作品105

ステイヴン・コヴァセヴィッチ (ピアノ)
アン・マレイ (メゾ・ソプラノ)
ヴォルフガング・サヴァリッシュ指揮
ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団
●1993/1994年録音
●WPCS-23307

コヴァセヴィッチが得意とするブラームスのピアノ協奏曲第2番、2回目の録音です。前作以上に音楽家としての成熟、進化がうかがわれる表現が聴かれます。練達したサヴァリッシュの指揮も相俟って、確かな骨格と深い抒情が味わえます。



**ショパン：
ピアノ協奏曲**
第1番&第2番

フランソワ・ルネ・デュシャープル (ピアノ)
ミシェル・プラッソン指揮
トゥールーズ・カピトール管弦楽団
●1997年録音
●WPCS-23308

デュシャープルは広いレパートリーを誇るピアニストですが、現在では第一線から退き、公の場には姿を見せなくなってしまいました。そのデュシャープルが残した貴重な録音の一つがこのショパン。推進力豊かな、活力溢れる名演です。



**ブラームス：
ヴァイオリン協奏曲**

ダヴィッド・オイストラフ (ヴァイオリン)
オットー・クレンペラー指揮
フランス国立放送管弦楽団
●1960年録音
●WPCS-23309

D.オイストラフとクレンペラーによる歴史的名盤です。持ち前の美音を駆使して大家の芸を繰り広げるオイストラフを、クレンペラーは雄大なスケールで支え、風格ある中でも美しい限りのブラームスが展開されます。



**モーツァルト：
ヴァイオリン協奏曲全集**
(全5曲)
協奏交響曲 K.364 他

ダヴィッド・オイストラフ (ヴァイオリン&指揮)
ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団 他
●1970/1971/1972年録音
●WPCS-23310/2 3CDs

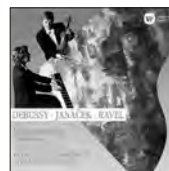
オイストラフが最晩年に自ら指揮もして完成させた珠玉の全集。天下のベルリン・フィルと刺激しあい、協調しあった新鮮なモーツァルト演奏です。名高い第3番から第5番、そして息子イーゴリとの共演であるK.364はもちろんのこと、初期の第1番、第2番も豊饒そのものの演奏です。



**ベルク：
ヴァイオリン協奏曲**
ストラヴィンスキー：
ヴァイオリン協奏曲
ラヴェル：
ツィガヌ

フランク・ペーター・ツィンマーマン (ヴァイオリン)
ジャンルイ・ジェルメティ指揮
シュトゥットガルト放送交響楽団
●1990年録音
●WPCS-23313

神秘的で繊細なベルク、トリッキーな味わいのストラヴィンスキー、そして極めて技巧的なヴァイオリン。近現代のヴァイオリンのための名作3つを、現代屈指のヴァルトウオーゾ、ツィンマーマンが鮮やかな手並みで捌き切っています。



**ドビュッシー、ヤナーチェク&
ラヴェル：
ヴァイオリン・ソナタ**

フランク・ペーター・ツィンマーマン (ヴァイオリン)
アレクサンダー・ロンクヴィツヒ (ピアノ)
●1990年録音
●WPCS-23314

美しい音色と完璧なテクニクで、ドイツを代表するヴァイオリニストとして揺るぎない地位を築いているツィンマーマン。それぞれ味わいの異なる3曲のソナタ集であるこの1枚は、その芸域の広さが確認できる好アルバムです。



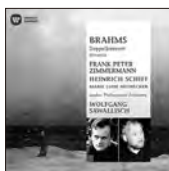
**シベリウス：
ヴァイオリン協奏曲
プロコフィエフ：
ヴァイオリン協奏曲 第2番**

フランク=ペーター・ツィンマーマン (ヴァイオリン)
マリス・ヤンソンス指揮 / フィルハーモニア管弦楽団

- 1991年録音
- WPCS-23315

協奏曲

ツィンマーマンとヤンソンスは、それぞれが「巨匠」と呼ばれるような存在になってからも度々共演を重ねていますが、その最も初期の共演の記録がこのシベリウス&プロコフィエフ。両者ともすでに大家の片鱗をうかがわせつつ、清新鋭利とした演奏を繰り広げています。



**ブラームス：ヴァイオリンとチェロのた
めの二重協奏曲／ホルン三重奏曲**

フランク=ペーター・ツィンマーマン (ヴァイオリン)
ハインリヒ・シフ (チェロ)
マリ＝ルイーゼ・ノイネッカー (ホルン)
ヴォルフガング・サヴァリッシュ (指揮&ピアノ)
ロンド・フィルハーモニー管弦楽団

- 1996年録音
- WPCS-23316

協奏曲

ソリストとして名を連ねるツィンマーマン、シフ、ノイネッカー、そして指揮のサヴァリッシュは、いずれもドイツ=オーストリアの正統派とされるアーティストたち。外見上の派手さを抑えた、ずっしりと聴きごたえのあるブラームスです。



**ベートーヴェン：
ピアノ三重奏曲
第1番&第2番**

ダニエル・バレンボイム (ピアノ)
ピンカス・ズーカーマン (ヴァイオリン)
ジャクリヌ・デュ・ブレ (チェロ)

- 1969/1970年録音
- WPCS-23317

室内楽曲

夫婦であったデュ・ブレとバレンボイムはもちろん、ここで共演しているズーカーマンもまた、二人とは公私共に気心の知れた「音楽仲間」でした。ベートーヴェンが青年期に書いたこの2曲では、当時20代の3人の奏でる熱い音楽が溢れ出ています。



ベートーヴェン：ピアノ三重奏曲 第3番／クラリネット三重奏曲「街の歌」他

ダニエル・バレンボイム (ピアノ)、ピンカス・ズーカーマン (ヴァイオリン)、ジャクリヌ・デュ・ブレ (チェロ)、ジェールヴァーズ・ド・ペイエ (クラリネット)

- 1969/1970年録音
- WPCS-23318

室内楽曲

収録当時、まさに飛ぶ鳥を落とす勢いにあった3人の、意欲溢れるベートーヴェンです。短期に集中して録音され、全集にもなっている名盤からの分売で、時にセッション録音であることを忘れさせるような即興性がスリリングです。名手ド・ペイエを迎えた「街の歌」も聴きもの。



**ベートーヴェン：
ピアノ三重奏曲
第5番「幽霊」&第6番 他**

ダニエル・バレンボイム (ピアノ)
ピンカス・ズーカーマン (ヴァイオリン)
ジャクリヌ・デュ・ブレ (チェロ)

- 1969/1970年録音
- WPCS-23319

室内楽曲

収録と同時に、各地でも共演話題となっていた3人のトリオ。当時は全員が20代という若さでしたが、構えの大きな、余裕すら感じさせるその演奏はすでに大家のもの。そこに若々しいパッションが加わり、まさに最強のベートーヴェンとなっています。



**ベートーヴェン：
ピアノ三重奏曲
第7番「大公」他**

ダニエル・バレンボイム (ピアノ)
ピンカス・ズーカーマン (ヴァイオリン)
ジャクリヌ・デュ・ブレ (チェロ)

- 1969/1970年録音
- WPCS-23320

室内楽曲

すでに結婚していたデュ・ブレとバレンボイム、そして二人と同世代の友人、ズーカーマンとの仲睦まじい共演の記録です。気心が知れているというだけでなく、時に火花も散らす激しさも見せ、多くの名演・名盤が存在する「大公」も、他に類がないほどヴィヴィッドです。



**ベートーヴェン：
チェロ・ソナタ
第1番、第2番&第3番**

ジャクリヌ・デュ・ブレ (チェロ)
ダニエル・バレンボイム (ピアノ)

- 1970年録音
- WPCS-23321

室内楽曲

病により引退を余儀なくされたデュ・ブレが残した、貴重なライブ音源の一つ。デュ・ブレがいかに自由奔放な音楽性と高度な演奏技術、および解釈の持ち主であったかが、このライブ演奏からご理解いただけることでしょう。



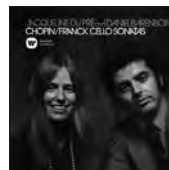
**ベートーヴェン：
チェロ・ソナタ
第4番&第5番 他**

ジャクリヌ・デュ・ブレ (チェロ)
ダニエル・バレンボイム (ピアノ)

- 1970年録音
- WPCS-23322

室内楽曲

惜しまれつつ引退したデュ・ブレが、健康だった最晩期に参加したエディンバラ音楽祭での記録です。ライブ収録とは思えない精密な仕上がりに加え、ライブならではの情熱的な感情の発露がいかに彼女らしい側面を物語っています。



**ショパン&フランク：
チェロ・ソナタ**

ジャクリヌ・デュ・ブレ (チェロ)
ダニエル・バレンボイム (ピアノ)

- 1971/1972年録音
- WPCS-23323

室内楽曲

2011年リマスター

病に冒されていたデュ・ブレが、5か月ぶりに演奏ができる状態に戻り、急遽録音されたのがこの作品です。病に苦しむ人間の祈るような気分の入り混じるショパン、瞑想性と激しさが交錯するフランク、両曲とも名演です。



**ブラームス：
チェロ・ソナタ
第1番&第2番**

ジャクリヌ・デュ・ブレ (チェロ)
ダニエル・バレンボイム (ピアノ)

- 1967/1968年録音
- WPCS-23324

室内楽曲

2011年リマスター

デュ・ブレのあまりにも短かった絶頂期の録音です。大きく作品を捉え、そこに感情を移入する彼女のベスト・パフォーマンスを聴くことが出来ます。寂しい抒情と情熱が対比される第1番、奔放さと孤独感の際立つ第2番。どちらもその対照が見事です。



**ブラームス：
弦楽四重奏曲全集 (全3曲)**

アルバン・ベルク四重奏団

- 1991/1992年録音
- WPCS-23325/6 2CDs

室内楽曲

精緻なアンサンブルで他の追随を許さなかった世界最高峰の四重奏団によるブラームス。ウィーンの伝統にモダンな機能美を加えたその演奏スタイルは、ウィーン古典派と新ウィーン楽派をつなぐ結節点。ブラームスの決定盤的な名演です。



**R.シュトラウス：ホルン協奏曲 第1番&第2番
ブリーテン：セレナード**

マリ＝ルイーゼ・ノイネッカー (ホルン)
イアン・ポストリッジ (テノール)
インゴ・メッツマッヒャー指揮 / バンベルク交響楽団

- 1995/1996年録音
- WPCS-23327

協奏曲 / 声楽曲

ドイツ最高峰の女流ホルン奏者、ノイネッカーの快演です。R.シュトラウスの冒頭からもう独壇場、豊かな音量と高らかな響きは魅力と美質に満ちています。テノールにポストリッジを起用したブリーテンの「セレナード」もホルンをフィーチャーした作品で、これも聴きものです。

✓	アーティスト名	曲名	品番 (WPCS)	ページ
	ア アッシュケナージ、ウラディミール (ピアノ)	ベートーヴェン：ピアノ三重奏曲 第7番「大公」&第5番「幽霊」	23069	8
	アッシュケナージ、ウラディミール (ピアノ)	チャイコフスキー：ピアノ三重奏曲「偉大な芸術家の思い出に」	23070	8
	アバド、クラウディオ (指揮)	ヴェルディ：レクイエム	23102/3	11
	アルゲリッチ、マルタ (ピアノ)	ショパン：ピアノ協奏曲 第1番&第2番	23036	4
	アルゲリッチ、マルタ (ピアノ)	プロコフィエフ：ピアノ協奏曲 第1番&第3番 / バルトーク：ピアノ協奏曲 第3番	23044	5
	アルゲリッチ、マルタ (ピアノ)	幻のショパン・レコーディング	23076	8
	アルゲリッチ、マルタ (ピアノ)	アルゲリッチ・コンサートヘボウ・ライブ 1978&1979	23077	9
	アルトマン、ジャン＝クロード (指揮)	グノー：聖チェチーリア荘厳ミサ曲 / 小交響曲	23105	12
	アルバン・ベルク四重奏団	ベートーヴェン：弦楽四重奏曲 第15番	23061	7
	アルバン・ベルク四重奏団	ベートーヴェン：弦楽四重奏曲 第14番	23062	7
	アルバン・ベルク四重奏団	ベートーヴェン：弦楽四重奏曲 第12番&第16番	23063	7
	アルバン・ベルク四重奏団	シューベルト：弦楽五重奏曲	23064	7
	アルバン・ベルク四重奏団	シューベルト：弦楽四重奏曲 第14番「死と乙女」&第13番「ロザムンデ」	23065	7
	アルバン・ベルク四重奏団	ドビュッシー&ラヴェル：弦楽四重奏曲	23066	7
	アルバン・ベルク四重奏団	バルトーク：弦楽四重奏曲全集 (全6曲)	23067/8	7
	アルバン・ベルク四重奏団	ブラームス：弦楽四重奏曲全集 (全3曲)	23325/6	37
	アンスネス、レイフ＝オヴェ (ピアノ)	グリーグ&シューマン：ピアノ協奏曲	23156	18
	アンスネス、レイフ＝オヴェ (ピアノ)	グリーグ：抒情小曲集 (抜粋)	23157	18
	アンスネス、レイフ＝オヴェ (ピアノ)	ラフマニノフ：ピアノ協奏曲 第1番&第2番	23158	18
	アンスネス、レイフ＝オヴェ (ピアノ)	ラフマニノフ：ピアノ協奏曲 第3番&第4番	23159	18
	アンドレ、モーリス (トランペット)	J.S.バッハ：ブランデンブルク協奏曲 第2番 / ハイドン：トランペット協奏曲 他	23059	6
	ウ ウェルザー＝メスト、フランツ (指揮)	マーラー：交響曲 第4番	23109	12
	エ エゴロフ、ユーリ (ピアノ)	ショパン：幻想曲 作品49 / バラード 第1番 / 夜想曲 (3曲) / スケルツォ 第2番	23160	18
	エッシェンバッハ、クリストフ (ピアノ&指揮)	モーツァルト：2台&3台のピアノのための協奏曲	23034	3
	オ オイストラフ、ダヴィッド (ヴァイオリン)	ベートーヴェン：ピアノ、ヴァイオリンとチェロのための三重協奏曲	23035	3
	オイストラフ、ダヴィッド (ヴァイオリン)	ブラームス：ヴァイオリン協奏曲 / ヴァイオリンとチェロのための二重協奏曲	23050	5
	オイストラフ、ダヴィッド (ヴァイオリン)	ブラームス：ヴァイオリン協奏曲	23309	35
	オイストラフ、ダヴィッド (ヴァイオリン)	モーツァルト：ヴァイオリン協奏曲全集 (全5曲) / 協奏交響曲 K.364 他	23310/2	35
	小澤征爾 (指揮)	ビゼー：「アルルの女」組曲 第1番&第2番 / 「カルメン」組曲より	23026	3
	カ ガヴリーロフ、アンドレイ (ピアノ)	チャイコフスキー：ピアノ協奏曲 第1番&第3番	23161	18
	ガヴリーロフ、アンドレイ (ピアノ)	ショパン：練習曲 作品10&25	23162	18
	ガヴリーロフ、アンドレイ (ピアノ)	ラフマニノフ：ピアノ曲集	23087	10
	カザルス、パブロ (チェロ)	J.S.バッハ：無伴奏チェロ組曲 (全曲)	23092/3	10
	カラヤン、ヘルベルト・フォン (指揮)	モーツァルト：後期交響曲集	23001/2	表2
	カラヤン、ヘルベルト・フォン (指揮)	ドヴォルザーク：交響曲 第9番「新世界より」 / スメタナ：モルダウ	23014	1
	カラヤン、ヘルベルト・フォン (指揮)	ブルックナー：交響曲 第4番「ロマンティック」(ハース版)	23218	25
	カラヤン、ヘルベルト・フォン (指揮)	ブルックナー：交響曲 第7番 (ハース版)	23219	25
	カラヤン、ヘルベルト・フォン (指揮)	フランク：交響曲 二短調	23220	25
	カラヤン、ヘルベルト・フォン (指揮)	バルトーク：管弦楽のための協奏曲	23221	25
	カラヤン、ヘルベルト・フォン (指揮)	バルトーク：弦楽器、打楽器とチェレスタのための音楽 / ヒンデミット：交響曲「画家マティス」	23222	25

✓	アーティスト名	曲名	品番 (WPCS)	ページ
	カ カラヤン、ヘルベルト・フォン (指揮)	美しく青きドナウ〜J. シュトラウスⅡ世 名曲集	23223	25
	カラヤン、ヘルベルト・フォン (指揮)	ハイドン：交響曲 第101番「時計」&第83番「めんどり」	23224	25
	キ ギーゼキング、ワルター (ピアノ)	ドビュッシー：ベルガマスク組曲 / アラベスク 第1番&第2番 / 子供の囁き / レントよ運く / 薔びの鳥	23083	9
	ギーゼキング、ワルター (ピアノ)	ラヴェル：ピアノ曲全集	23084/5	9
	キョンファ、チョン (ヴァイオリン)	ベートーヴェン：ヴァイオリン協奏曲 / ブルッフ：ヴァイオリン協奏曲 第1番	23048	5
	キョンファ、チョン (ヴァイオリン)	ドヴォルザーク：ヴァイオリン協奏曲 / ロマンズ	23052	6
	キョンファ、チョン (ヴァイオリン)	スーヴェニール	23091	10
	ク クリュイタンス、アンドレ (指揮)	ラヴェル：ボレロ / ラ・ヴァルス / スペイン狂詩曲	23027	3
	クリュイタンス、アンドレ (指揮)	フォーレ：レクイエム	23106	12
	クリュイタンス、アンドレ (指揮)	ラヴェル：マ・メール・ロワ / 高雅にして感傷的な円舞曲	23274	31
	クリュイタンス、アンドレ (指揮)	ラヴェル：ダフニスとクロエ (全曲)	23275	31
	クリュイタンス、アンドレ (指揮)	ラヴェル：クーブランの墓 / 古風なメロ / 道化師の踊りの歌 / 海原の小舟 / 七き玉のためのバヴァース	23276	31
	クリュイタンス、アンドレ (指揮)	ビゼー：「アルルの女」組曲 第1番&第2番 / 「カルメン」組曲	23277	32
	クレーメル、ギドン (ヴァイオリン)	ブラームス：ヴァイオリン協奏曲	23192	21
	クレーメル、ギドン (ヴァイオリン)	シューマン&シベリウス：ヴァイオリン協奏曲集	23193	21
	クレーメル、ギドン (ヴァイオリン)	シュトック・ヴァイオリン、ヴァイオリンとチェロのための協奏曲 / 弦楽三重奏曲 / ミヌエト / ヘルク (シュニッケ編) / カン	23194	22
	クレンペラー、オットー (指揮)	メンデルスゾーン：交響曲 第3番「スコットランド」&第4番「イタリア」	23008	表2
	クレンペラー、オットー (指揮)	マーラー：大地の歌	23018	2
	クレンペラー、オットー (指揮)	メンデルスゾーン：真夏の夜の夢 (抜粋)	23023	2
	クレンペラー、オットー (指揮)	ベートーヴェン：荘厳ミサ曲	23098	11
	クレンペラー、オットー (指揮)	ブラームス：ドイツ・レクイエム	23100	11
	クレンペラー、オットー (指揮)	ベートーヴェン：交響曲 第1番&第8番	23239	27
	クレンペラー、オットー (指揮)	ベートーヴェン：交響曲 第2番 / 「コロラン」序曲 / 「プロメテウスの創造物」序曲	23240	27
	クレンペラー、オットー (指揮)	ベートーヴェン：交響曲 第3番「英雄」	23241	27
	クレンペラー、オットー (指揮)	ベートーヴェン：交響曲 第4番 / 「献堂式」序曲	23242	27
	クレンペラー、オットー (指揮)	ベートーヴェン：交響曲 第5番「運命」 / 「シュテファン王」序曲	23243	27
	クレンペラー、オットー (指揮)	ベートーヴェン：交響曲 第6番「田園」	23244	28
	クレンペラー、オットー (指揮)	ベートーヴェン：交響曲 第7番	23245	28
	クレンペラー、オットー (指揮)	ベートーヴェン：交響曲 第9番「合唱」 / 劇音楽「エグモント」(抜粋)	23246/7	28
	クレンペラー、オットー (指揮)	マーラー：交響曲 第2番「復活」	23233	26
	クレンペラー、オットー (指揮)	マーラー：交響曲 第4番	23234	27
	クレンペラー、オットー (指揮)	マーラー：交響曲 第7番「夜の歌」	23235/6	27
	クレンペラー、オットー (指揮)	マーラー：交響曲 第9番	23237/8	27
	クレンペラー、オットー (指揮)	ワーグナー：管弦楽曲集 第1集	23230	26
	クレンペラー、オットー (指揮)	ワーグナー：管弦楽曲集 第2集	23231	26
	クレンペラー、オットー (指揮)	ワーグナー：管弦楽曲集 第3集	23232	26
	ケ ケネディ、ナイジェル (ヴァイオリン)	エルガー：ヴァイオリン協奏曲 / 序奏とアレグロ	23195	22
	コ コヴァセヴィチ、ステイーヴン (ピアノ)	シューベルト：ピアノ・ソナタ 第20番 / 楽興の時 D780	23163	19
	コヴァセヴィチ、ステイーヴン (ピアノ)	シューベルト：ピアノ・ソナタ 第21番 / 12のドイツ舞曲 D790 / アレグレット D915	23164	19
	コヴァセヴィチ、ステイーヴン (ピアノ)	ブラームス：ピアノ協奏曲 第1番 / 2つの歌曲 作品91	23306	35

✓	アーティスト名	曲名	品番 (WPCS)	ページ
	コ	コヴァセヴィチ、ステイーヴン (ピアノ)	ブラームス：ピアノ協奏曲 第2番 / 5つの歌曲 作品105	23307 35
		コラル、ジャン=フィリップ (ピアノ)	フォーレ：室内楽曲集 第1集	23165/6 19
		コラル、ジャン=フィリップ (ピアノ)	フォーレ：室内楽曲集 第2集	23167/8 19
		コラル、ジャン=フィリップ (ピアノ)	フォーレ：舟歌(全曲) / 即興曲 / 無言歌 / 「トリ」組曲 他	23169/70 19
		コラル、ジャン=フィリップ (ピアノ)	フォーレ：夜想曲(全曲) / 主題と変奏 / 前奏曲集 / バラード	23171/2 19
		コラル、ジャン=フィリップ (ピアノ)	サン=サーンス：ピアノ協奏曲 第2番&第4番	23038 4
		コラル、ジャン=フィリップ (ピアノ)	サン=サーンス：ピアノ協奏曲 第3番&第5番「エジプト風」	23039 4
		コルト、アルフレッド (ピアノ)	ショパン：練習曲集 作品10&25 / 舟唄	23075 8
	サ	サヴァリッシュ、ヴォルフガング (指揮)	シューマン：交響曲 第1番「春」&第4番	23248 28
		サヴァリッシュ、ヴォルフガング (指揮)	シューマン：交響曲 第2番 / 序曲、スケルツォとフィナーレ	23249 28
		サヴァリッシュ、ヴォルフガング (指揮)	シューマン：交響曲 第3番「ライン」 / 「マンフレッド」序曲	23250 28
		サヴァリッシュ、ヴォルフガング (指揮)	ブラームス：交響曲 第2番	23011 1
	シ	シフラ、ジョルジ (ピアノ)	リスト：ハンガリア狂詩曲集	23078/9 9
		シフラ、ジョルジ (ピアノ)	リスト：超絶技巧練習曲集(全12曲) / メフィスト・ワルツ 第1番 / 小人の踊り	23080 9
		シュヴァルトツコップ、エリーザベト (ソプラノ)	モーツァルト歌曲リサイタル	23095 10
		シュヴァルトツコップ、エリーザベト (ソプラノ)	R.シュトラウス：四つの最後の歌 / 歌曲集	23101 11
		シュールヒト、カール (指揮)	ブルックナー：交響曲 第8番 (1890年版)	23015 1
		シュールヒト、カール (指揮)	ブルックナー：交響曲 第9番 (原典版)	23016 1
		ジュリーニ、カルロ・マリア (指揮)	ブルックナー：交響曲 第9番 (ノーヴァク版)	23278 32
		ジュリーニ、カルロ・マリア (指揮)	ベルリオーズ：劇的交響曲「ロメオとジュリエット」(抜粋)	23279 32
		シロス修道院合唱団	グレコリアン・チャント	23094 10
	ス	ズーカーマン、ピンカス (ヴァイオリン)	ベートーヴェン：ピアノ三重奏曲 第1番&第2番	23317 36
		ズーカーマン、ピンカス (ヴァイオリン)	ベートーヴェン：ピアノ三重奏曲 第3番 / クラリネット三重奏曲 他	23318 36
		ズーカーマン、ピンカス (ヴァイオリン)	ベートーヴェン：ピアノ三重奏曲 第5番「幽霊」&第6番 他	23319 36
		ズーカーマン、ピンカス (ヴァイオリン)	ベートーヴェン：ピアノ三重奏曲 第7番「大公」他	23320 36
	セ	セル、ジョージ (指揮)	ドヴォルザーク：交響曲 第8番 / スラヴ舞曲 第3番&第10番	23013 1
	チ	チェリビダッケ、セルジュ (指揮)	チャイコフスキー：交響曲 第5番	23012 1
		チッコリーニ、アルド (ピアノ)	ベスト・オブ・サティ	23086 9
		チッコリーニ、アルド (ピアノ)	サン=サーンス：ピアノ協奏曲全集 / 動物の謝肉祭	23173/4 19
		チャン、サラ (ヴァイオリン)	メンデルスゾーン：ヴァイオリン協奏曲 第1番 / シベリウス：ヴァイオリン協奏曲	23196 22
	ツ	ツインマーマン、フランク=ペーター (ヴァイオリン)	バッハ：ヴァイオリン協奏曲 第1番&第2番 / ヴァイオリンとオーボエのための協奏曲	23197 22
		ツインマーマン、フランク=ペーター (ヴァイオリン)	モーツァルト：ヴァイオリン協奏曲 第1番&第4番	23198 22
		ツインマーマン、フランク=ペーター (ヴァイオリン)	モーツァルト：ヴァイオリン協奏曲 第2番 / ロンド K.269 / アダージェョ K.261	23199 22
		ツインマーマン、フランク=ペーター (ヴァイオリン)	モーツァルト：ヴァイオリン協奏曲 第3番&第5番	23200 22
		ツインマーマン、フランク=ペーター (ヴァイオリン)	ベートーヴェン：ヴァイオリン協奏曲 / ロマンズ 第1番&第2番	23201 22
		ツインマーマン、フランク=ペーター (ヴァイオリン)	ブラームス：ヴァイオリン協奏曲 / モーツァルト：ヴァイオリン協奏曲 第3番	23202 23
		ツインマーマン、フランク=ペーター (ヴァイオリン)	バガニーニ：カプリース 作品1 (全24曲)	23203 23
		ツインマーマン、フランク=ペーター (ヴァイオリン)	シベリウス：ヴァイオリン協奏曲 / プロコフィエフ：ヴァイオリン協奏曲 第2番	23315 36
		ツインマーマン、フランク=ペーター (ヴァイオリン)	ドビュッシー、ヤナーチェク&ラヴェル：ヴァイオリン・ソナタ	23314 35
		ツインマーマン、フランク=ペーター (ヴァイオリン)	ブラームス：ヴァイオリンとチェロのための二重協奏曲 / ホルン三重奏曲	23316 36

✓	アーティスト名	曲名	品番 (WPCS)	ページ
	ツ	ツインマーマン、フランク=ペーター (ヴァイオリン)	ベルク：ヴァイオリン協奏曲 / ストラヴィンスキー：ヴァイオリン協奏曲 / ラヴェル：ツイガース	23313 35
	テ	デュ・ブレ、ジャクリース (チェロ)	シューマン：チェロ協奏曲 / サン=サーンス：チェロ協奏曲 第1番	23056 6
		デュ・ブレ、ジャクリース (チェロ)	ドヴォルザーク：チェロ協奏曲 / 森の静けさ	23057 6
		デュ・ブレ、ジャクリース (チェロ)	エルガー&ディリアス：チェロ協奏曲	23058 6
		デュ・ブレ、ジャクリース (チェロ)	ショパン&フランク：チェロ・ソナタ	23323 37
		デュ・ブレ、ジャクリース (チェロ)	ブラームス：チェロ・ソナタ 第1番&第2番	23324 37
		デュ・ブレ、ジャクリース (チェロ)	ベートーヴェン：チェロ・ソナタ 第1番、第2番&第3番	23321 36
		デュ・ブレ、ジャクリース (チェロ)	ベートーヴェン：チェロ・ソナタ 第4番&第5番 他	23322 36
		デュ・ブレ、ジャクリース (チェロ)	ベートーヴェン：ピアノ三重奏曲 第1番&第2番	23317 36
		デュ・ブレ、ジャクリース (チェロ)	ベートーヴェン：ピアノ三重奏曲 第3番 / クラリネット三重奏曲 他	23318 36
		デュ・ブレ、ジャクリース (チェロ)	ベートーヴェン：ピアノ三重奏曲 第5番「幽霊」&第6番 他	23319 36
		デュ・ブレ、ジャクリース (チェロ)	ベートーヴェン：ピアノ三重奏曲 第7番「大公」他	23320 36
		デュシャープル、フランソワ=ルネ (ピアノ)	ショパン：ピアノ協奏曲 第1番&第2番	23308 35
		デュシャープル、フランソワ=ルネ (ピアノ)	ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ 第17番「テンペスト」 / 第21番「ワルシュタイン」 / 第26番「告別」他	23175 19
		デュメイ、オーギュスタン (ヴァイオリン)	ラロ：スペイン交響曲 / ヴァイオリン協奏曲 第1番	23204 23
		デュメイ、オーギュスタン (ヴァイオリン)	フランス・ヴァイオリン名曲集	23205 23
		テンシュテット、クラウス (指揮)	マーラー：交響曲 第5番	23017 1
	ノ	ノイネッカー、マリー=ルイーゼ (ホルン)	R.シュトラウス：ホルン協奏曲 第1番&第2番 / ブリテン：セレナード	23327 37
		ノイネッカー、マリー=ルイーゼ (ホルン)	ブラームス：ヴァイオリンとチェロのための二重協奏曲 / ホルン三重奏曲	23316 36
		ノリントン、ロジャー (指揮)	ベートーヴェン：交響曲 第1番&第6番「田園」	23110 12
		ノリントン、ロジャー (指揮)	ベートーヴェン：交響曲 第2番&第8番	23111 12
		ノリントン、ロジャー (指揮)	ベートーヴェン：交響曲 第3番「英雄」他	23112 12
		ノリントン、ロジャー (指揮)	ベートーヴェン：交響曲 第4番&第5番「運命」	23113 13
		ノリントン、ロジャー (指揮)	ベートーヴェン：交響曲 第7番 他	23114 13
		ノリントン、ロジャー (指揮)	ベートーヴェン：交響曲 第9番「合唱」	23115 13
	ハ	パールマン、イツァーク (ヴァイオリン&指揮)	J.S.バッハ：協奏曲集(トランスクリプションズ)	23047 5
		パールマン、イツァーク (ヴァイオリン)	メンデルスゾーン：ヴァイオリン協奏曲 / ブルッフ：ヴァイオリン協奏曲 第1番	23049 5
		パールマン、イツァーク (ヴァイオリン)	チャイコフスキー&ハチャトゥリアン：ヴァイオリン協奏曲	23051 5
		パールマン、イツァーク (ヴァイオリン)	プロコフィエフ：ヴァイオリン協奏曲 第1番&第2番	23054 6
		パールマン、イツァーク (ヴァイオリン)	序奏とロンド・カプリチオソ〜フランス・ヴァイオリン名曲集	23055 6
		パールマン、イツァーク (ヴァイオリン)	ベートーヴェン：ピアノ三重奏曲 第7番「大公」&第5番「幽霊」	23069 8
		パールマン、イツァーク (ヴァイオリン)	チャイコフスキー：ピアノ三重奏曲「偉大な芸術家の思い出に」	23070 8
		パールマン、イツァーク (ヴァイオリン)	クライスラー：ヴァイオリン名曲集	23089 10
		パールマン、イツァーク (ヴァイオリン)	ア・ラ・カルト	23090 10
		ハイドシェック、エリック (ピアノ)	フォーレ：夜想曲集(全13曲)	23081 9
		バトル、キャスリーン (ソプラノ)	モーツァルト：オペラ・アリア集	23096 11
		バルエコ、マヌエル (ギター)	ロドリゴ：アランフェス協奏曲 / ある貴紳のための幻想曲 他	23213 24
		バルビローリ、ジョン (指揮)	シベリウス：交響曲 第1番 / 組曲「ベルレアスとメリザンド」より(抜粋)	23255 29
		バルビローリ、ジョン (指揮)	シベリウス：交響曲 第2番 / トゥオネラの白鳥	23256 29
		バルビローリ、ジョン (指揮)	シベリウス：交響曲 第3番&第6番	23257 29

✓	アーティスト名	曲名	品番 (WPCS)	ページ
	ハ バルビローリ、ジョン (指揮)	シベリウス: 交響曲 第4番 / 組曲「恋人」、ロマンス	23258	29
	バルビローリ、ジョン (指揮)	シベリウス: 交響曲 第5番&第7番	23259	29
	バルビローリ、ジョン (指揮)	ブラームス: 交響曲 第1番	23251	28
	バルビローリ、ジョン (指揮)	ブラームス: 交響曲 第2番 / 悲劇的序曲	23252	28
	バルビローリ、ジョン (指揮)	ブラームス: 交響曲 第3番 / ハイドンの主題による変奏曲	23253	29
	バルビローリ、ジョン (指揮)	ブラームス: 交響曲 第4番 / 大学祝典序曲	23254	29
	バルビローリ、ジョン (指揮)	マーラー: 交響曲 第9番	23019	2
	ハレル、リン (チェロ)	ベートーヴェン: ピアノ三重奏曲 第7番「大公」&第5番「幽霊」	23069	8
	ハレル、リン (チェロ)	チャイコフスキー: ピアノ三重奏曲「偉大な芸術家の思い出に」	23070	8
	ハレル、リン (チェロ)	ブラームス: ヴァイオリンとチェロのための二重協奏曲 / ホルン三重奏曲	23316	36
	バレンボイム、ダニエル (ピアノ)	ベートーヴェン: ピアノ三重奏曲 第1番&第2番	23317	36
	バレンボイム、ダニエル (ピアノ)	ベートーヴェン: ピアノ三重奏曲 第3番 / クラリネット三重奏曲 他	23318	36
	バレンボイム、ダニエル (ピアノ)	ベートーヴェン: ピアノ三重奏曲 第5番「幽霊」&第6番 他	23319	36
	バレンボイム、ダニエル (ピアノ)	ベートーヴェン: ピアノ三重奏曲 第7番「大公」他	23320	36
	バレンボイム、ダニエル (ピアノ、指揮)	モーツァルト: ピアノ協奏曲 第20番&第23番	23176	20
	バレンボイム、ダニエル (ピアノ、指揮)	モーツァルト: ピアノ協奏曲 第13番&第17番	23177	20
	バレンボイム、ダニエル (ピアノ、指揮)	モーツァルト: ピアノ協奏曲 第14番&第15番	23178	20
	バレンボイム、ダニエル (ピアノ、指揮)	モーツァルト: ピアノ協奏曲 第21番&第27番	23179	20
	バレンボイム、ダニエル (ピアノ、指揮)	モーツァルト: ピアノ協奏曲 第18番&第24番	23180	20
	バレンボイム、ダニエル (ピアノ、指揮)	モーツァルト: ピアノ協奏曲 第12番&第19番	23181	20
	バレンボイム、ダニエル (ピアノ、指揮)	モーツァルト: ピアノ協奏曲 第16番&第11番	23182	20
	バレンボイム、ダニエル (ピアノ、指揮)	モーツァルト: ピアノ協奏曲 第5番&第9番「ジュノム」	23305	35
	バレンボイム、ダニエル (ピアノ、指揮)	モーツァルト: ピアノ協奏曲 第6番&第26番「戴冠式」	23183	20
	バレンボイム、ダニエル (ピアノ、指揮)	モーツァルト: ピアノ協奏曲 第8番&第25番	23184	21
	バレンボイム、ダニエル (ピアノ、指揮)	モーツァルト: ピアノ協奏曲 第22番 / コンサート・ロンド K.382	23185	21
	フ ブッフピンダー、ルドルフ (ピアノ)	ショパン: 前奏曲集 作品28	23186	21
	ブッフピンダー、ルドルフ (ピアノ)	シューマン: 幻想曲 / 子供の情景	23187	21
	ブライトマン、サラ (ソプラノ)	夏の最後のバラ〜フォーク・アルバム	23107	12
	ブラッソン、ミシェル (指揮)	ビゼー: アルルの女 (全曲)	23116	13
	ブラッソン、ミシェル (指揮)	「カルメン」組曲〜ビゼー管弦楽名作集	23117	13
	ブラッソン、ミシェル (指揮)	フォーレ: レクイエム / ラシーヌ賛歌	23118	13
	ブラッソン、ミシェル (指揮)	海〜ドビュッシー: 管弦楽曲集	23119	13
	ブラッソン、ミシェル (指揮)	ボレロ〜ラヴェル: 管弦楽曲集	23120	13
	ブラッソン、ミシェル (指揮)	バラード〜サティ: 管弦楽曲集	23121	14
	ブラッソン、ミシェル (指揮)	サン=サーンス: 交響曲 第3番「オルガン付き」 / 糸杉と月桂樹	23287	33
	ブラッソン、ミシェル (指揮)	フォーレ: 管弦楽曲集 第1集	23285	33
	ブラッソン、ミシェル (指揮)	フォーレ: 管弦楽曲集 第2集	23286	33
	フランソワ、サンソン (ピアノ)	ショパン: 24の前奏曲 / 4つの即興曲	23290	33
	フランソワ、サンソン (ピアノ)	ショパン: バラード&スケルツォ集	23292	33
	フランソワ、サンソン (ピアノ)	ショパン: ピアノ協奏曲 第1番	23288	33

✓	アーティスト名	曲名	品番 (WPCS)	ページ
	フ フランソワ、サンソン (ピアノ)	ショパン: ピアノ協奏曲 第2番 / 2台のピアノのためのロンド	23289	33
	フランソワ、サンソン (ピアノ)	ショパン: ポロネーズ集 / 幻想曲 / タランテラ / 舟歌	23293/4	34
	フランソワ、サンソン (ピアノ)	ショパン: ワルツ集 (14曲)	23291	33
	フランソワ、サンソン (ピアノ)	ショパン: 夜想曲集 (19曲)	23295/6	34
	フランソワ、サンソン (ピアノ)	ショパン: 練習曲集 作品10&25 / 3つの新しい練習曲	23297	34
	フランソワ、サンソン (ピアノ)	ラヴェル: ピアノ協奏曲 / 左手のためのピアノ協奏曲	23040	4
	フランソワ、サンソン (ピアノ)	ドビュッシー: ピアノ名曲集	23082	9
	フルトヴェングラー、ヴィルヘルム (指揮)	モーツァルト: 交響曲 第40番 / アイネクライネ・ナハトムジーク / シューベルト: 交響曲 第8 (7) 番 [未完成]	23003	表2
	フルトヴェングラー、ヴィルヘルム (指揮)	ベートーヴェン: 交響曲 第3番「英雄」	23004	表2
	フルトヴェングラー、ヴィルヘルム (指揮)	ベートーヴェン: 交響曲 第5番「運命」&第7番	23005	表2
	フルトヴェングラー、ヴィルヘルム (指揮)	ベートーヴェン: 交響曲 第6番「田園」	23006	表2
	フルトヴェングラー、ヴィルヘルム (指揮)	ベートーヴェン: 交響曲 第9番「合唱」	23007	表2
	フルトヴェングラー、ヴィルヘルム (指揮)	ブラームス: 交響曲 第1番 / ハイドンの主題による変奏曲 他	23225	25
	フルトヴェングラー、ヴィルヘルム (指揮)	ブラームス: 交響曲 第2番&第3番	23226	26
	フルトヴェングラー、ヴィルヘルム (指揮)	ブラームス: 交響曲 第4番 / ベートーヴェン: 「コロラン」序曲 / 「レオノーレ」序曲 第2番	23227	26
	フルトヴェングラー、ヴィルヘルム (指揮)	ワーグナー: 管弦楽曲集 第1集	23228	26
	フルトヴェングラー、ヴィルヘルム (指揮)	ワーグナー: 管弦楽曲集 第2集	23229	26
	ブレイン、デニス (ホルン)	モーツァルト: ホルン協奏曲 (全曲)	23060	7
	ブレヴィン、アンドレ (指揮)	ドビュッシー: 管弦楽のための「映像」 / 牧神の午後への前奏曲	23122	14
	ブレヴィン、アンドレ (指揮)	ラフマニノフ: 交響曲 第2番	23020	2
	ブレヴィン、アンドレ (指揮)	チャイコフスキー: くるみ割り人形 (全曲)	23029/30	3
	ブレヴィン、アンドレ (指揮)	チャイコフスキー: 白鳥の湖 (全曲)	23031/2	3
	ブレヴィン、アンドレ (指揮)	ショスタコーヴィチ: 交響曲 第10番	23264	30
	ブレヴィン、アンドレ (指揮)	ショスタコーヴィチ: 交響曲 第4番	23260	29
	ブレヴィン、アンドレ (指揮)	ショスタコーヴィチ: 交響曲 第5番	23261	30
	ブレヴィン、アンドレ (指揮)	ショスタコーヴィチ: 交響曲 第6番 / プロコフィエフ: 組曲「キージェ中尉」	23262	30
	ブレヴィン、アンドレ (指揮)	ショスタコーヴィチ: 交響曲 第8番	23263	30
	ブレヴィン、アンドレ (指揮)	ショスタコーヴィチ: 交響曲 第13番「バビ・ヤール」	23265	30
	ブレヴィン、アンドレ (指揮)	チャイコフスキー: 序曲「1812年」 / スラヴ行進曲 / 幻想序曲「ロメオとジュリエット」	23266	30
	ブレヴィン、アンドレ (指揮)	プロコフィエフ: 交響曲 第1番「古典」&第7番	23271	31
	ブレヴィン、アンドレ (指揮)	プロコフィエフ: 交響曲 第5番	23272	31
	ブレヴィン、アンドレ (指揮)	プロコフィエフ: ピーターと狼 / プリテン: 青少年のための管弦楽入門	23273	31
	ブレヴィン、アンドレ (指揮)	ラフマニノフ: 交響曲 第1番	23269	31
	ブレヴィン、アンドレ (指揮)	ラフマニノフ: 交響曲 第3番 / 歌劇「アレコ」より間奏曲 / 女たちの踊り	23270	31
	ブレヴィン、アンドレ (指揮)	ラフマニノフ: 合唱交響曲「鐘」 / ヴォカリーズ	23267	30
	ブレヴィン、アンドレ (指揮)	ラフマニノフ: 死の鳥 / 交響的舞曲	23268	30
	ヘ ベーア、オラフ (バリトン)	シューベルト: 美しき水車小屋の娘	23099	11
	ベルグルンド、バーヴォ (指揮)	シベリウス: 交響曲 第1番&第6番	23123	14
	ベルグルンド、バーヴォ (指揮)	シベリウス: 交響曲 第2番 / 大洋の女神 / フィンランディア	23124	14
	ベルグルンド、バーヴォ (指揮)	シベリウス: 交響曲 第3番&第5番	23125	14

✓	アーティスト名	曲名	品番 (WPCS)	ページ
	ヘ	ベルグルンド、パーヴォ (指揮)	シペリウス: 交響曲 第4番&第7番	23126 14
		ベルグルンド、パーヴォ (指揮)	シペリウス: クレルヴォ交響曲 他	23127/8 14
		ペロフ、ミシェル (ピアノ)	ドビュッシー: 前奏曲集 第1巻&第2巻 / 版画 / ピアノのために	23188/90 21
		ペロフ、ミシェル (ピアノ)	プロコフィエフ: ピアノ協奏曲全集 / 束の間の幻影 他	23303/4 34
		ヘンドリックス、バーバラ (ソプラノ)	モーツァルト: 歌曲集	23215 24
		ヘンドリックス、バーバラ (ソプラノ)	黒人霊歌集	23108 12
	ホ	ボスコフスキー、ウィリー (指揮)	J. シュトラウスII世: ワルツ名曲集 第1集	23129 14
		ボスコフスキー、ウィリー (指揮)	J. シュトラウスII世&ヨゼフ・シュトラウス: ワルツ名曲集 第2集	23130 15
		ボスコフスキー、ウィリー (指揮)	レハール: ワルツ集	23025 2
		ポストリッジ、イアン (テノール)	シューベルト: 冬の旅	23216 24
		ポストリッジ、イアン (テノール)	シューベルト: 美しき水車小屋の娘	23217 24
	マ	マイヤー、ザビーネ (クラリネット)	モーツァルト: クラリネット五重奏曲 / ホルン五重奏曲	23210 24
		マイヤー、ザビーネ (クラリネット)	モーツァルト: クラリネット協奏曲 / ドビュッシー: 狂詩曲 第1番 / 武満徹: ファンタズマ / カントス	23209 23
		マイヤー、ザビーネ (クラリネット)	ウェーバー: クラリネット協奏曲 第1番&第2番 / クラリネット小協奏曲	23211 24
		マイヤー、ザビーネ (クラリネット)	ブラームス: クラリネット五重奏曲 / 弦楽五重奏曲 第2番	23212 24
		マリナー、ネヴィル (指揮)	J.S. バッハ: 管弦楽組曲 第2番、第3番&第4番	23021 2
		マリナー、ネヴィル (指揮)	モーツァルト: 序曲集	23022 2
	ミ	ミケランジェリ、アルトゥーロ・ベネデッティ (ピアノ)	シューマン: 謝肉祭 / 子供のためのアルバム (3曲)	23191 21
		ミケランジェリ、アルトゥーロ・ベネデッティ (ピアノ)	ラヴェル: ピアノ協奏曲 / ラフマニノフ: ピアノ協奏曲 第4番	23043 4
		ミュンシュ、シャルル (指揮)	ベルリオーズ: 幻想交響曲	23009 表2
		ミュンシュ、シャルル (指揮)	ブラームス: 交響曲 第1番	23010 1
	ム	ムーティ、リッカルド (指揮)	ベルリオーズ: 幻想交響曲	23131 15
		ムーティ、リッカルド (指揮)	マーラー: 交響曲 第1番「巨人」	23132 15
		ムーティ、リッカルド (指揮)	チャイコフスキー: 交響曲 第5番 他	23133 15
		ムーティ、リッカルド (指揮)	チャイコフスキー: 交響曲 第6番「悲愴」他	23134 15
		ムーティ、リッカルド (指揮)	リムスキー=コルサコフ: シェエラザード	23135 15
		ムーティ、リッカルド (指揮)	ムソルグスキー (ラヴェル編): 展覧会の絵 / ストラヴィンスキー: 「火の鳥」組曲	23136 15
		ムーティ、リッカルド (指揮)	ストラヴィンスキー: ベトル=シュカ / 春の祭典	23137 15
		ムーティ、リッカルド (指揮)	プロコフィエフ: 「ロメオとジュリエット」組曲 第1番&第2番	23138 16
		ムーティ、リッカルド (指揮)	ショスタコーヴィチ: 交響曲 第5番 / 祝典序曲	23139 16
		ムーティ、リッカルド (指揮)	ヴェルディ: レクイエム	23140/1 16
		ムーティ、リッカルド (指揮)	レスピーギ: ローマの松 / ローマの噴水 / ローマの祭り	23142 16
		ムーティ、リッカルド (指揮)	ラヴェル: ボレロ / リスト: 交響詩「前奏曲」 / チャイコフスキー: 序曲「1812年」	23028 3
		ムーティ、リッカルド (指揮)	チャイコフスキー: 「白鳥の湖」組曲 / 「眠れる森の美女」組曲	23033 3
		ムーティ、リッカルド (指揮)	モーツァルト: レクイエム / アヴェ・ヴェルム・コルプス	23097 11
		ムーティ、リッカルド (指揮)	ヴェルディ: 聖歌四篇	23104 11
		ムーティ、リッカルド (指揮)	フランク: 交響曲 二短調 / 交響詩「呪われた狩人」	23280 32
		ムター、アンネ=ゾフィー (ヴァイオリン)	モーツァルト: ヴァイオリン協奏曲 第1番 / 協奏交響曲 K.364	23206 23
		ムター、アンネ=ゾフィー (ヴァイオリン)	モーツァルト: ヴァイオリン協奏曲 第2番&第4番	23207 23
		ムター、アンネ=ゾフィー (ヴァイオリン)	ブラームス: ヴァイオリン・ソナタ (全曲)	23208 23

✓	アーティスト名	曲名	品番 (WPCS)	ページ
	ム	ムター、アンネ=ゾフィー (ヴァイオリン)	ヴィヴァルディ: ヴァイオリン協奏曲集「四季」	23045 5
		ムター、アンネ=ゾフィー (ヴァイオリン)	J.S. バッハ: ヴァイオリン協奏曲集	23046 5
		ムター、アンネ=ゾフィー (ヴァイオリン)	ラロ: スペイン交響曲 / サラサーテ: ツィゴイネルワイゼン	23053 6
	メ	メータ、ズービン (指揮)	マーラー: 交響曲 第1番「巨人」(「花の章」付き)	23143 16
	ヤ	ヤンソンス、マリス (指揮)	ショスタコーヴィチ: 交響曲 第1番 / ピアノ、トランペット&弦楽のための協奏曲	23144 16
		ヤンソンス、マリス (指揮)	ショスタコーヴィチ: 交響曲 第2番「10月革命に捧ぐ」&第12番「1917年」	23145 16
		ヤンソンス、マリス (指揮)	ショスタコーヴィチ: 交響曲 第3番「メーデー」&第14番	23146 16
		ヤンソンス、マリス (指揮)	ショスタコーヴィチ: 交響曲 第4番	23147 17
		ヤンソンス、マリス (指揮)	ショスタコーヴィチ: 交響曲 第5番 / 室内交響曲 作品110b	23148 17
		ヤンソンス、マリス (指揮)	ショスタコーヴィチ: 交響曲 第6番&第9番	23149 17
		ヤンソンス、マリス (指揮)	ショスタコーヴィチ: 交響曲 第7番「レニングラード」	23150 17
		ヤンソンス、マリス (指揮)	ショスタコーヴィチ: 交響曲 第8番	23151 17
		ヤンソンス、マリス (指揮)	ショスタコーヴィチ: 交響曲 第10番 / ムソルグスキー (ショスタコーヴィチ編): 歌曲集「死の歌と踊り」	23152 17
		ヤンソンス、マリス (指揮)	ショスタコーヴィチ: 交響曲 第11番「1905年」 / ジャズ組曲 第1番 / ジャズ組曲 第2番〜ワルツ	23153 17
		ヤンソンス、マリス (指揮)	ショスタコーヴィチ: 交響曲 第13番「ハビ・ヤール」	23154 17
		ヤンソンス、マリス (指揮)	ショスタコーヴィチ: 交響曲 第15番 / ピアノ協奏曲 第2番 / 「馬あぶ」組曲 第3曲&第8曲	23155 18
		ヤンソンス、マリス (指揮)	ドヴォルザーク: 交響曲 第5番 / スケルツォ・カプリチオーソ / 「オテロ」序曲	23282 32
		ヤンソンス、マリス (指揮)	ドヴォルザーク: 交響曲 第7番&第8番	23283 32
		ヤンソンス、マリス (指揮)	ドヴォルザーク: 交響曲 第9番「新世界より」 / スメタナ: モルダウ	23284 32
		ヤンソンス、マリス (指揮)	バルトーク: 管弦楽のための協奏曲 / 弦楽器、打楽器とチェレスタのための音楽	23281 32
		ヤンソンス、マリス (指揮)	ワーグナー: 序曲&管弦楽曲集	23024 2
	ラ	ラニオ、ピエール (ギター)	サティ: 作品集 (10弦ギター用編曲版)	23214 24
		ラベック、カティア (ピアノ)	バルトーク: 2台のピアノとパーカッションのためのソナタ / 2台のピアノと打楽器のための協奏曲	23088 10
		ラベック、マリエル (ピアノ)	バルトーク: 2台のピアノとパーカッションのためのソナタ / 2台のピアノと打楽器のための協奏曲	23088 10
	リ	リパッティ、ディヌ (ピアノ)	ピアノ・リサイタル	23071 8
		リパッティ、ディヌ (ピアノ)	ショパン: ワルツ集 (14曲)	23072 8
		リパッティ、ディヌ (ピアノ)	ブザンソン音楽祭における最後のリサイタル	23073 8
		リヒテル、スヴャトスラフ (ピアノ)	ベートーヴェン: ピアノ、ヴァイオリンとチェロのための三重協奏曲	23035 3
		リヒテル、スヴャトスラフ (ピアノ)	グリーグ&シューマン: ピアノ協奏曲	23037 4
		リヒテル、スヴャトスラフ (ピアノ)	ドヴォルザーク: ピアノ協奏曲	23041 4
		リヒテル、スヴャトスラフ (ピアノ)	ベートーヴェン: ピアノ・ソナタ 第17番「テンペスト」 / シューマン: 幻想曲	23074 8
	ロ	ロストロポーヴィチ、ムスティスラフ (チェロ)	ベートーヴェン: ピアノ、ヴァイオリンとチェロのための三重協奏曲	23035 3
		ロストロポーヴィチ、ムスティスラフ (チェロ)	ブラームス: ヴァイオリン協奏曲 / ヴァイオリンとチェロのための二重協奏曲	23050 5
	ワ	ワイセンベルク、アレクシス (ピアノ)	ラフマニノフ: ピアノ協奏曲 第2番 / フランク: 交響的変奏曲	23042 4
		ワイセンベルク、アレクシス (ピアノ)	ショパン: 夜想曲 (全21曲)	23299/300 34
		ワイセンベルク、アレクシス (ピアノ)	プロコフィエフ: ピアノ協奏曲 第3番 / ラヴェル: ピアノ協奏曲	23302 34
		ワイセンベルク、アレクシス (ピアノ)	ムソルグスキー: 展覧会の絵 / ラヴェル: クープランの墓	23301 34
		ワイセンベルク、アレクシス (ピアノ)	主よ、人の望みの喜びよ〜バッハ名曲集	23298 34